

二 下士卒ノ任用、徵募、進級、補充、服役、召集、簡閱點呼ニ關スル事項
 三 軍人軍屬ノ級位、敘勳、記章、褒章、賞與、恩給其ノ他身上ニ關スル事項
 第八條 醫務局ニ第一課及第二課ヲ置キ左ノ事項ヲ管掌セシム
 一 醫務、衛生、恩給診斷、軍人體格ニ關スル事項
 二 病院及治療品ニ關スル事項
 三 軍醫官及藥劑官ノ教育ニ關スル事項
 第九條 經理局ニ第一課第二課及第三課ヲ置キ左ノ事項ヲ管掌セシム
 一 豫算、決算、出納、給與、被服、糧食、通常物品、官有財産、建築及用度ニ關スル事項
 二 金錢及物品會計ノ監査ニ關スル事項
 三 主計官ノ教育ニ關スル事項
 第十條 司法局ニ於テ左ノ事項ヲ管掌ス
 一 軍事司法、懲罰、監獄ニ關スル事項
 二 主計、録事並監獄ノ人員ニ關スル事項
 第十一條 各局ニ局長ヲ置ク
 軍務局、人事局、醫務局及經理局ノ各課ニ課長及課員ヲ置キ司法局ニ局員ヲ置ク
 第十二條 各局長ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ各其ノ主務ヲ掌理ス
 第十三條 軍務局、人事局、醫務局、經理局ノ各課長ハ局長ノ命ヲ承ケ各其ノ分掌ノ事務ヲ掌ル其ノ

課員ハ課長ノ命ヲ掌ケ各其ノ事務ニ服ス
 第十四條 司法局ノ局員ハ局長ノ命ヲ承ケ各其ノ事務ニ服ス
 第十五條 海軍省ニ技手及録事ヲ置キ各局ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服セシム
 第十六條 司法局ノ職員ハ海軍高等軍法會議ノ事務ニ服ス
 第十七條 海軍省ノ定員ハ別表ニ依ル

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

海軍省定員表

大		總		人事		軍務局		總務局		秘書官		副官		編修		副官ヲ以テ兼補ス	
長	少將	長	中少將	第一課	長	第一課	長	第一課	長	中少佐	中少佐	第二課	長	第二課	長	第三課	長
大	少將	大	中少將	大	大佐	大	大佐	大	大佐	大	中少佐	大	大佐	大	大佐	大	大佐
課		課		課		課		課		課		課		課		課	
中少佐大尉		中少佐大尉		中少佐大尉		中少佐大尉		中少佐大尉		中少佐大尉		中少佐大尉		中少佐大尉		中少佐大尉	
機關中少監大機關士		機關中少監大機關士		機關中少監大機關士		機關中少監大機關士		機關中少監大機關士		機關中少監大機關士		機關中少監大機關士		機關中少監大機關士		機關中少監大機關士	
五		六		七		八		九		十		十一		十二		十三	

(將中大) 臣									
(將少中) 官 長 務									
局法司	局	理	經	局	務	密	局		
主理(主任)	長	主計總監		長	軍醫總監				
一 局	第 三 課	第 二 課	第 一 課	第 二 課	第 一 課	第 二 課	第 一 課	第 二 課	大 佐
主理(主任)	主計大監	主計大監	主計大監	軍醫大監	軍醫大監	軍醫大監	軍醫大監	大 佐	
	員	課	課	員	課	員	課	員	
		技大主計 主中少 師計監		大醫藥 軍醫正 監					録事
			技手						
合 計 百三十五人 内兼務二人									

備 考
 一、海軍大臣及總務長官ニ任セラルルモノハ現役將官ヲ以テス
 二、本表ノ外出仕トシテ將校同相當官四名ヲ置クコトヲ得
 三、本表ノ外本職アル者ニ兼務ヲ命スルコトヲ得

○水路部條例明治三十三年五月
 朕水路部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水路部條例

- 第一條 水路部ハ之ヲ東京ニ置ク
- 第二條 水路部ハ水路ノ測量、水路圖誌ノ調製、航海ノ保安、測器、水路官ノ勤務及教育ニ關スル事ヲ掌ル所トス
- 第三條 水路部ニ部長ヲ置キ海軍大臣ニ隷シ部務ヲ總理セシム
- 第四條 水路部長ハ其ノ名ヲ以テ水路告示ヲ發シ及外國水路部ト直接通信スルコトヲ得
- 第五條 水路部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第六條 水路部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス
- 第七條 水路部ニ測量科圖誌科測器科及會計課ヲ置ク
- 第八條 測量科ニ於テハ測量原圖、水路記事ノ調製、水路官ノ勤務及教育ニ關スルコトヲ掌ル
- 第九條 圖誌科ニ於テハ水路圖誌ノ調製、配備及保管ニ關スルコトヲ掌リ及庶務ヲ掌理ス
- 第十條 測器科ニ於テハ測器ノ準備検査及供給ニ關スルコトヲ掌ル
- 第十一條 會計課ニ於テハ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル
- 第十二條 測量科圖誌科及測器科ニ科長及科員ヲ置キ會計課ニ課長ヲ置ク
- 第十三條 前項ノ外圖誌科ニ編修ヲ置ク
- 第十四條 科長課長ハ水路部長ノ命ヲ承ケ其ノ科課ノ事務ヲ掌理ス

第十四條 科員及編修ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條 前諸條ニ掲クル職員ノ外書記及海軍編修書記 技手ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

○海軍技術會議條例明治二十六年五月勅令第五十三號

朕海軍技術會議條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍技術會議條例

第一條 海軍技術會議ハ東京ニ置キ海軍大臣ノ諮問ニ對シ軍艦ノ構造兵裝及其諸機關並ニ砲銃水雷彈藥劇發藥ノ設計考案其他技術ニ關スル事項ヲ審議スル所トス

第二條 海軍技術會議ハ海軍艦政本部長ヲ以テ議長トシ議員若干人ヲ置キ本職アル海軍將官、總監、上長官若ハ士官ヲ以テ之ニ兼補ス(三十二年勅令第二百三十八號ヲ以テ改正)

議長ハ海軍大臣ニ隸シ會議ヲ總理ス

第三條 議長ハ議事ノ性質ニ依リ議員ノ一部ヲ以テ議事ヲ開クコトヲ得

第四條 議長事故アルトキハ上席議員ヲ以テ議長トス(三十二年勅令第二百三十八號ヲ以テ改正)

第五條 海軍技術會議ニ幹事ヲ置キ海軍艦政本部副官ヲ以テ之ニ兼補ス(上全)

第六條 海軍技術會議ニ書記三人技手二人ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(三十二年勅令第二百三十八號ヲ以テ改正)

附言 ○

○海軍教育本部條例明治三十三年五月勅令第九十五號

朕海軍教育本部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍教育本部條例

第一條 海軍教育本部ハ之ヲ東京ニ置キ海軍軍事教育ノ統一及其ノ進歩ヲ計ル所トス

第二條 海軍教育本部ニ第一部及第二部ヲ置キ各其ノ所管ノ事務ヲ分掌セシム

第三條 海軍教育本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長

副官

第一部長

第二部長

部員

海軍編修

第四條 海軍教育本部長ハ海軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理シ海軍大學校、海軍兵學校、海軍機關學校、海軍砲術練習所、海軍水雷砲術練習所及海軍機關砲術練習所ヲ管轄ス

第五條 海軍教育本部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第六條 海軍教育本部長欽員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス

第七條 副官ハ本部長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條 部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ其ノ部務ヲ掌理ス

第九條 部員及海軍編修ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 第三條ニ掲クル職員ノ外書記、海軍編修書記ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍大學校條例明治三十年九月勅令第三百二十六號

朕海軍大學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍大學校條例

第一條 海軍大學校ハ海軍將校及機關官ニ高等ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條 海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

第三十二年勅令第三百二十六號
海軍大學校條例
長官ノ在學ノ
長官ノ在學ノ
長官ノ在學ノ

海軍大學校條例

主計長

第三條 校長ハ海軍教育本部長ニ隸シ校務ヲ總理ス(三十三年勅令第二百二十六號ヲ以テ改正)

第四條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第五條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監督ス

第六條 教官ハ教頭ノ命ヲ受ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第七條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第八條 海軍大學校ニハ第二條ニ掲クル職員ノ外判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第九條 海軍大學校ニ於テ教授スル海軍將校及機關官ヲ海軍大學校學生ト稱ス

第十條 海軍大學校學生ヲ左ノ五種ニ區別ス(三十二年勅令第八號ヲ以テ改正)

將校科甲種學生

將校科乙種學生

機關科長期學生

機關科短期學生

選科學生

第十一條 將校科甲種學生ニハ樞要ノ職員若ハ高級指揮官ノ素養ヲナス爲メ高等ノ兵學及其ノ他ノ

學術ヲ教授ス

第十二條 將校科乙種學生ニハ砲術水雷術若ハ航海術ノ學理ヲ教授ス

第十三條 機關科長期及短期學生ニハ機關ニ關スル高等ノ學術ヲ教授ス(三十二年勅令第八十五號ヲ以テ改正)

第十四條 選科學生ニハ各自ノ選擇スル學術ヲ修メシム

第十五條 將校科甲種學生ハ左ノ資格ヲ有シ所管長官ノ推薦ヲ受ケタル海軍大尉ニシテ入學試験ニ合格シタル者ニ就キ海軍大學校學生銓衡委員ノ檢定ヲ經テ海軍大臣之ヲ命ス(三十一年勅令第三百四十三號ヲ以テ改正)

身體強健實務ノ成績優等ニシテ氣節アリ且判斷力ニ富ミ後來充分發達スヘキ才學ト識量トヲ有ス

下認メタル者

第十六條 將校科乙種學生ハ海軍大尉ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣之ヲ命ス(全)

一 砲術水雷術若ハ航海術ヲ專修セシムルニ適當ト認メタル者

二 入學試験ニ合格シタル者但シ從前大學校ヲ卒業シタル者ニハ入學試験ヲ省略スルコトヲ得

第十七條 機關科長期學生ハ海軍大機關士若ハ中機關士ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣之ヲ命ス(三十年勅令第四百三十三號三十二年勅令第八十五號ヲ以テ改正)

一 實務ノ成績優等ニシテ後來充分發達スヘキ才能ヲ有スト認メタル者

二 機關科短期學生中優等ナル成績ヲ以テ卒業シタル者若ハ入學試験ニ合格シタル者

機關科短期學生ハ海軍大機關士、中機關士若ハ少機關士ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者ヨリ海軍大臣之ヲ命ス

應官機關ニ關スル高等ノ學術ヲ修メシムルニ適當ト認メタル者

三 機關學校ニ於テ良好ナル成績ヲ以テ卒業シタル者若ハ入學試験ニ合格シタル者

第十八條 選科學生ハ海軍佐官機關監若ハ實役停年三箇年以上ヲ經タル海軍大尉大機關士ニシテ其

ノ學生タラシコトヲ志願スル者ヨリ海軍大臣之ヲ命ス(三十二年勅令第八十五號ヲ以テ改正)

第十九條 海軍大學校學生銓衡委員ハ海軍將官會議議員海軍教育本部長海軍大學校長及海軍大臣ノ

特ニ命スル海軍佐官以上ヲ以テ編成シ委員長ハ銓衡委員中先任將官ヲ以テ之ニ充ツ(三十三年勅令第二百二十六號ヲ以テ改正)

第二十條 入學試験ノ規程ハ海軍大臣ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長之ヲ定ム(全)

第二十一條 學生卒業試験ニ及第シタルトキハ之ニ卒業證書ヲ授與ス(三十三年勅令第二百二十七號ヲ以テ但書ヲ削除ス)

第二十二條 將校科甲種學生ニ卒業證書ヲ授與スルトキハ其ノ卒業ヲ表彰スヘキ徽章ヲ併與ス

第二十三條 校長ハ海軍教育本部長ノ認可ヲ受ケ學生ヲ實地研究ノ爲海軍砲術練習所、海軍水雷術

練習所、水路部、海軍造船廠、海軍造船廠等ニ派遣シ修學セシムルコトヲ得(三十三年勅令第二百二十七號ヲ以テ次項トモ改正)

二百二十六號ヲ以テ條中改正)

前項ニ依リ派遣セラレタル學生ハ派遣中研究スヘキ事項ニ關シ當該廳長ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十四條 校長ハ學生中不適合ト認ムル者アルトキハ海軍教育本部長ニ稟申ス海軍教育本部長至

當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアルヘシ但將校科甲

種學生ニ於テハ海軍大學校學生銓衡委員ノ檢定ヲ經ルヲ要ス(三十三年勅令第二百二十六號ヲ以テ條中改正)

第三十三條 海軍大學校條例

第二十五條 大學校學生在學中高級ノ官等ニ進級スル場合ニ在テハ卒業マテ滯學セシムルコトヲ得
第二十六條 (三十三年勅令第二百二十六號ヲ以テ削除ス)

附則

第二十七條 現今在學ノ將校科學生ニハ第二十三條及第二十五條ヲ適用スルノ外凡テ從來ノ條例ヲ適用ス但同條例第三條將校科學生ノ學年一箇年半ヲ一箇年ニ短縮スルコトヲ得

第二十八條 軍醫科教官及學生ニ關シテハ明治三十一年三月三十一日マテ從來ノ條例ヲ適用ス
(別表)(三十三年勅令第二百二十六號ヲ以テ別表ヲ廢止ス)

○海軍兵學校條例(明治三十年九月勅令第三百二十七號)

朕海軍兵學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍兵學校條例

- 第一條 海軍兵學校ハ海軍將校ト爲スヘキ生徒ヲ教育スル所トス
- 第二條 海軍兵學校ニ於テ教授スヘキ學科ハ砲術水雷術運用術航海術機關術及普通學トス
- 第三條 海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 校長
 - 副官

砲術教官

- 水雷術教官
- 運用術教官
- 航海術教官
- 機關術教官
- 普通學教官

- 監事長
- 監事
- 軍醫長
- 主計長

前項ノ外海軍軍醫官及大主計ヲ置ク(三十年勅令第四百三十一號ヲ以テ本項中改正)

第四條 校長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス(三十三年勅令第二百二十七號ヲ以テ條中改正)

第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第六條 砲術教官ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ヲ監督ス

第七條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第八條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ紀律ヲ維持シ又體育ニ關スル事ヲ掌ル

第九條 監事及監事長ノ命ヲ承ケ服務ス
 第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル
 第十一條 第三條第三項ニ掲クル軍醫官ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス(三十二年勅令第百三十號ヲ以テ條中改正)
 第十二條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル
 第十三條 第三條第二項ニ掲クル大主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス
 第十四條 海軍兵學校ニハ第三條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(三十二年勅令第百三十一號ヲ以テ條中改正)
 第十五條 生徒ハ年齢滿十六年以上滿二十年以下ニシテ海軍將校タランコトヲ志願スル者ニ就キ檢査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス(三十二年勅令第百九號ヲ以テ改正)
 第十六條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス
 一 有妻ノ者
 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
 三 復讐ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人
 四 身代限ノ處分ヲ分ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人
 第十七條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長之ヲ告示ス(三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ條中追加)
 第十八條 生徒ハ入校ノ日ロリ海軍兵籍ニ編入ス

第十九條 前生徒ノ學年ハ三箇年開ス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得
 第二十條 卒業試驗ニ及第シタル生徒ハ卒業證書ヲ授與ス
 第二十一條 前生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス
 第二十二條 生徒左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ之ヲ退校セシム(三十一年勅令第百九號)
 一 將校タルヘキ器量ニ乏キ者
 二 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
 三 試驗ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
 四 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者
 第二十三條 (三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ刪除)
 附則
 第二十四條 本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス
 第二十五條 本令施行ノ際三箇年以上在學ノ生徒ハ本令施行ノ日ヲ以テ卒業セシム
 (別表)(三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ別表ヲ廢止ス)
 ○海軍造兵生徒條例(明治三十二年五月勅令第百二十四號)
 朕海軍造兵生徒條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造兵生徒條例

第一條 海軍ニ海軍造兵生徒ヲ置キ東京工業學校ニ於テ指定ノ學科ヲ修メシム

第二條 海軍造兵生徒ハ東京工業學校生徒ニシテ海軍出身ヲ志願スル者ニ就キ身體検査ヲ爲シ之ニ合格シタル者ノ中ヨリ採用ス

第三條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ海軍造兵生徒タルコトヲ得ス

一 徵兵令第二十八條ニ該ル者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四條 海軍造兵生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第五條 海軍造兵生徒ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ生徒ヲ免ス

一 品行不良若ハ怠惰ナル者

二 學業進歩セスシテ卒業ノ目途ナキ者

三 傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ前途職務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第六條 海軍造兵生徒ニシテ東京工業學校ヲ卒業シタル者ハ海軍技手ニ任用スルコトヲ得

前項ニ依リ海軍技手ニ任セラレタル者ハ十箇年以上海軍ノ事務ニ服スルノ義務ヲ有ス

第七條 海軍造兵生徒ノ採用ニ關スル規則ハ海軍大臣之ヲ定ム

四 前項ノ規定ニ依リて海軍造兵生徒ノ教育ニ關スル事項ハ海軍大臣之ヲ定ム

○ 海軍機關學校條例(明治三十年九月三號勅令第三百二十三號)

朕海軍機關學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍機關學校條例

第一條 海軍機關學校ハ海軍機關官ト爲スヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍機關學校ニ於テ教授スヘキ學科ハ機關術水雷術及普通學トス

第三條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教頭

教官

監事

軍醫長

主計長

前項ノ外海軍中小軍醫及中少主計ヲ置ク(三十年勅令第四百三十號ヲ以テ本項中改正)

第四條 校長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス(三十三年勅令第二百二十八號ヲ以テ本條中改正)

- 第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
- 第六條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監督ス
- 第七條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス
- 第八條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ紀律ヲ維持シ又體育ニ關スル事ヲ掌ル
- 第九條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル
- 第十一條 第三條第二項ニ掲クル中少軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス(三十年勅令第四百三十號ヲ以テ條中改正)
- 第十二條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル
- 第十三條 第三條第二項ニ掲クル中少主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス(三十年勅令第四百三十號ヲ以テ條中改正)
- 第十四條 海軍機關學校ニハ第三條ニ掲クル職員ノ外海軍機關兵曹長並准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム(三十年勅令第四百三十號ヲ以テ條中改正)
- 第十五條 生徒ハ年滿十六年以上滿二十一年以下ニシテ海軍機關官タラント志願スル者ニ就キ検査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス(三十二年勅令第四百九號ヲ以テ改正)
- 第十六條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス
 - 一 一重有妻ノ者
 - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
 - 三 復讐ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人
 - 四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其相續人

- 第十七條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長之ヲ告示ス(三十三年勅令第二十八號ヲ以テ條中追加)
 - 第十八條 生徒ハ入校ハ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス
 - 第十九條 生徒ノ學年ハ三年四箇月トス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得
 - 第二十條 卒業試験ニ及シタル生徒ニハ卒業證書ヲ授與ス
 - 第二十一條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス
 - 第二十二條 生徒左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム(三十一年勅令第四百九號ヲ以テ改正)
 - 一 海軍機關官タルヘキ器量ニ乏キ者
 - 二 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
 - 三 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
 - 四 傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者
 - 第二十三條 (三十三年勅令第二百二十八號ヲ以テ削除)
- 附則
- 第二十四條 本令ハ明治三十年十月八日ヨリ施行ス
 - 第二十五條 本令施行ノ際三年四箇月以上在學ノ生徒ハ本令施行ノ日ヲ以テ卒業セシム
- (別表) (三十三年勅令第二百二十八號ヲ以テ別表廢止ス)

○海軍軍醫學校條例 明治三十三年五月 勅令第二百二十九號

朕海軍軍醫學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍軍醫學校條例

第一條 海軍軍醫學校ハ海軍軍醫官ニ高等ノ學術ヲ教授シ兼テ海軍少軍醫候補生ニ軍醫官タルニ必要ナル學科ヲ教授スル所トス

海軍軍醫學校ニ於テハ被服糧食等ノ衛生試驗ヲ行フ

第二條 海軍軍醫學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

監事

教官

主計長

第三條 校長ハ海軍省醫務局長ニ兼任シ校務ヲ總理ス

第四條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第五條 監事ハ校長ノ命ヲ承ケ學生ヲ監督シ紀律ヲ維持ス

第六條 教官ハ校長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第七條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル

第八條 海軍軍醫學校ニハ第二條ニ掲クル職員ノ外書記ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第九條 海軍軍醫學校ニ於テ教授スル海軍軍醫官及海軍少軍醫候補生ヲ海軍軍醫學校學生及海軍軍

醫學校選科學生ノ稱ス

第十條 海軍軍醫學校學生ハ海軍軍醫及海軍少軍醫候補生ニ海軍大臣之ヲ命ス

第十一條 海軍軍醫學校選科學生ハ海軍軍醫監若ハ實役停年三箇年以上ヲ經タル海軍大軍醫ニシテ學生タラントヲ志願スル者ニ海軍大臣之ヲ命ス

第十二條 海軍軍醫學校選科學生ニハ各自ノ選擇スル學科ヲ修メシム

第十三條 校長ハ學生中不適合ト認めル者アルトキハ海軍省醫務局長ニ稟申ス海軍省醫務局長至當ト認めタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス海軍大臣ハ退學ノ手續ヲ行フコトアルヘシ

第十四條 海軍軍醫學校學生在學中高級ノ官等ニ進級スル場合ト雖卒業迄滯學セシムルコトヲ得

第十五條 海軍軍醫學校學生卒業試驗ニ及第シタルトキハ卒業證書ヲ授與ス

○海軍軍醫學生藥劑學生造船學生造兵學生主計學生條例 明治三十年十月 勅令第三百九十號

朕海軍軍醫學生、藥劑學生、造船學生、造兵學生條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍軍醫學生、藥劑學生、造船學生、造兵學生、主計學生條例 (三十二年勅令第八十一號) (三十二年勅令第八十一號) (三十二年勅令第八十一號) (三十二年勅令第八十一號) (三十二年勅令第八十一號)

第一條 海軍ニ軍醫官、藥劑官、主計官、造船官、造兵官ト爲ルヘキ學生ヲ置キ軍醫學生、藥劑學生ハ東京帝國大學醫科大學及京都帝國大學醫科大學ニ造船學生、造兵學生ハ東京帝國大學工科大學又ハ京都帝國大學理工科大學ニ主計學生ハ東京帝國大學法科大學、京都帝國大學法科大學又ハ高等商業學校ニ於テ各其ノ專門ノ學科ヲ修メシム (三十二年勅令第八十一號) (三十二年勅令第八十一號) (三十二年勅令第八十一號) (三十二年勅令第八十一號) (三十二年勅令第八十一號)

第二條 軍醫學生、藥劑學生ハ醫科大學學生ヨリ造船學生、造兵學生ハ工科大学又ハ理工科大学學生ヨリ主計學生ハ法科大学學生又ハ高等商業學校生徒ヨリ海軍出身志願ノ者ニ就キ身體検査ヲ爲シ合格シタル者ヲ選抜シ所要ノ人員ヲ採用ス(上全)

第三條 軍醫學生ニ採用スヘキ者ノ年齢ハ滿十九年以上ニシテ醫科大學第一年生ニ在テハ二十五歳未滿第二年生ニ在テハ二十六歳未滿第三年生ニ在テハ二十七歳未滿第四年生ニ在テハ二十八歳未滿トシ主計學生ニ採用スヘキ者ノ年齢ハ滿十七年以上二十七歳未滿トシ其ノ他ノ學生ニ採用スヘキ者ノ年齢ハ滿十九年以上二十七歳未滿トス(三十二年勅令第四百八十二號ヲ以テ本條中追加)

第四條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ學生タルコトヲ得ス

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復讐ヲ得サル家資分故者破産者若ハ其ノ相續人

四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

第五條 學生ハ採用ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第六條 學生ハ情願ヲ以テ辭スルコトヲ得ス

第七條 學生ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ學生ヲ免ス

一 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者

二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

三 傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

第八條 學生ヲ採用ニ關スル規則ハ海軍大臣之ヲ定ム

○ 常設海軍軍法會議主理録事ノ定員(明治三十三年三月勅令第四百五號)

朕常設海軍軍法會議ニ於ケル主理、録事定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
常設海軍軍法會議ニ於ケル主理、録事ノ定員別表ノ通定ム

(別表)

名	東京軍法會議	橫須賀軍法會議	吳鎮守府軍法會議	佐世保軍法會議
主理	三	三	三	三
録事	三	三	三	三
備考	本表ノ定員ハ總テ兼務トス但シ東京軍法會議ノ主理一人ヲ専務ト爲スコトヲ得			

○ 海軍軍法會議ニ海軍警查ヲ置ク(明治三十二年四月勅令第四百五號)

朕常設海軍軍法會議ニ海軍警查ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 常設海軍軍法會議ニ海軍警查ヲ置ク

海軍警查ハ判任官待遇トス

第二條 海軍警查ハ軍法會議及法廷ノ警備、令狀ノ執行、書類ノ送達、被告人ノ護送及看守ニ任シ且主理ノ命ニ依リ犯罪搜索ニ従事ス

第三條 海軍警査其ノ職務ニ服スル時ハ制服ヲ著シ帶劔スヘシ但シ事急速ヲ要スルトキ又ハ主理ノ命アルトキハ此ノ限ニ非ス

第四條 海軍警査ノ定員ハ各軍法會議五人以内トス

第五條 海軍警査ノ俸給ハ別表ニ依ル

第六條 海軍警査採用ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

(別表)

等	級一	級二	級三	級四	級五	級六	級七	級
月俸	十五圓	十四圓	十三圓	十二圓	十一圓	十圓	九圓	四圓

但シ一級俸ヲ受ケ三年ヲ踰エ事務練熟ナル者ハ漸次月俸二十圓迄附給スルコトヲ得

○司法省 附刑法事務局、刑法官、刑部省、彈正臺

沿革記 明治元年二月五日刑法事務局ヲ置キ職制ヲ定メ警、正權判、正權判事等ヲ置ク○同年閏四月廿一日刑法事務局ヲ廢シ更ニ刑法官ヲ置キ監獄、拘捕捕亡、三司ヲ管ス本官ニ正副知事、正權判官等ヲ置キ三司ニ知事、正權判判官等ヲ置キ其職制ヲ定ム○同年十月十八日刑法官支衙ヲ東京ニ置ク是日會計局所管ノ雜費定所ヲ本官ニ屬ス○同年同月某日小監獄ヲ廢シ監獄司ニ置ク○二年五月二十二日監獄司ヲ廢シ京都監獄司補ノ如シ是日彈正官ヲ置キ尹、卿、大少忠、大少輔、史生、巡檢彈正ノ職員ヲ設ケ等級ヲ定ム○同年七月八日刑法官ヲ廢シ更ニ刑部省ヲ置キ卿、大少輔、大少忠、正權大少輔、大少列事、大少府部連部長、助長、連部等ノ職員ヲ設ケ職制ヲ定ム是日彈正官職制ヲ定メ尹、卿、大少忠、正權大少輔、大少列事、大少府部連部等ノ職員ヲ設ケ職制ヲ定ム是日彈正官職制ヲ定メ尹、卿、大少忠、正權大少輔、大少列事、大少府部連部等ノ職員ヲ設ケ職制ヲ定ム

正權大少忠、大少輔、大少列事、大少府部連部等ノ職員ヲ設ケ職制ヲ定ム○同年八月二十日官位相當ヲ更定シ彈正官ニ大少府部連部等ノ職員ヲ置ク○同年九月八日彈正官職制ヲ定ム○同年十一月五日刑部省中ニ選部判官ヲ置キ省員ヲ正、大少忠、伍長、選部判官等○同年十二月二日刑部省中ニ四級判官ヲ置ク○同年同月八日東京府所屬ノ四級判官ヲ置ク○三年二月二十八日彈正官職制ヲ停止ス○同年四月二十九日彈正官大少忠、大少輔、大少列事、大少府部連部等ノ職員ヲ定ム○同年五月十日彈正官職制ヲ改定ス○同年七月十三日神主等ノ訴訟事務ヲ刑部省ノ管理トス○同年同月二十五日京都出張所ヲ改稱ス○四年正月二十三日彈正官中權大少輔、大少列事、大少府部連部等ヲ置ク○同年二月九日東京出張所出張所ヲ大阪ニ移シ彈正官出張所ト改稱ス○同年七月九日刑部省中權大少輔、大少列事、大少府部連部等ヲ置ク○四年七月十日職制ヲ定ム○同年八月十日官制ヲ改定シ本官ニ四級判官、大少輔、大少列事、大少府部連部等ヲ置ク○四年七月十日職制ヲ定ム○正、正權大中少府部連部等ヲ置ク○同年同月十八日四級判官ヲ廢シ東京府所屬ノ職制ヲ定ム○同年同月二十七日明法寮ヲ置ク○四年十月廿四日判事、判部等ノ等級ヲ改メ警事ヲ廢シ○五年五月第六十五號ヲ以テ大少忠、大少輔、大少列事、大少府部連部等ノ職員ヲ定ム○同年八月三日假ニ職制并事務章程ヲ定ム是日第二百十八號ヲ以テ官等ヲ改メ正權大中少府部連部等ヲ置キ明法寮ニ正權判、正權判助、正權大中少府部連部等ヲ置ク○同年同月二十日東京府所屬ノ職制ヲ定ム○同年同月第二十四號ヲ以テ警保寮中ニ巡査ヲ置キ等級ヲ定ム○六年一月三十一日事務章程中ニ司法官更犯罪處分ノ條ヲ追加ス○七年一月九日警保寮中內務省ニ屬ス○同年同月十日職制中設内務省職制章程ニ抵觸スル條件ヲ取消ス○同年同月第十四號達ヲ以テ檢事職制章程ヲ定メ正權大中少府部連部等ノ職員ヲ定ム○八年五月第七十一號布告ヲ以テ明法寮ヲ廢シ○同年同月四日司法省并檢事職制章程ヲ更定ス○同年同月第七十二號布告ヲ以テ司法省檢事官等ヲ改メ○同年同月第七十三號布告ヲ以テ正權大中少府部連部等ノ職員ヲ改メ○同年同月第七十四號達ヲ以テ四等官以下等級ヲ改メ官等ヲ十七等ニ分ツ○同年三月第三十二號達ヲ以テ本省職制章程ヲ改定シ卿、輔、書記官、屬下、爲シ又檢事職制章程ヲ定メ檢事長、檢事、檢事補ノ職員ト爲ス○同年六月第四十六號達ヲ以テ一等判事以下四級判事補迄大檢事以下四級檢事補迄ヲ廢シ更ニ判事、判事補、檢事長、檢事、檢事補ヲ置ク○十二年十二月第五十六號達ヲ以テ檢事長ヲ廢シ更ニ勅任檢事ヲ置ク○十三年十二月第六十號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ改定ス○十四年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム○十六年十二月第六十五號達ヲ以テ判事、檢事、判事補、檢事補相當官ヲ定ム○十八年十二月第六十九號達ヲ以テ各省卿ノ職制ヲ廢シ更ニ司法大臣ヲ置ク○十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定ム○二十四年七月勅令第九十二號ヲ以テ司法省官制ヲ改定ス○二十六年十月勅令第四百三十三號ヲ以テ司法省官制ヲ改定ス○三十三年勅令第六十八號ヲ以テ集治監假留監官制ヲ內務大臣ノ監督ヨリ司法大臣ノ監督ニ移ス

○司法省官制 明治二十六年十月
勅令第四百三十三號
朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
司法省官制

- 第一條 司法大臣ハ裁判所及檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ民事、刑事、非訟事件、戶籍、監獄及出獄人保護ニ關スル事項其ノ他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス(三十二年勅令第六百六十七號ヲ以テ改正)
- 第二條 總務局ニ於テハ通則ニ據クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル(三十二年勅令第六百六十七號ヲ以テ本條中改正)
 - 一 裁判所ノ設立廢止及管轄區域並其ノ變更ニ關スル事項
 - 二 裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スル事項
- 第三條 司法省專任參事官ハ三人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス(三十二年勅令第六百六十七號及第二百七十七號ヲ以テ改正)
- 第四條 司法省ニ左ノ二局ヲ置ク(三十二年勅令第六百六十七號ヲ以テ改正)
 - 民刑局
 - 監獄局
- 第五條 民刑局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(全)
 - 一 民事、刑事及非訟事件ニ關スル事項
 - 二 裁判及檢察ノ事務ニ關スル事項
 - 三 戶籍ニ關スル事項
- 第六條 監獄局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(全)
 - 一 監獄ニ關スル事項

第二十九年勅令
第四百號ヲ以テ
大審院東京
地方裁判所并
地

其區所
書記ヨリ
書記ヨリ
屬ヲ兼任スル
場合ハ定員外
トス

- 二 恩赦、復權、假出獄、免幽閉、監視假免、出獄人保護及死刑執行ニ關スル事項
 - 第七條 司法省ニ專任監獄事務官二人ヲ置キ奏任トシ監獄局ニ屬シ監獄ノ事務ヲ掌ル(全)
 - 第八條 司法省屬ハ百三人ヲ以テ定員トス(三十二年勅令第六百六十七號ヲ以テ本條追加)
 - 第九條 司法省ニ專任技師二人專任技手六人ヲ置ク(全)
- 附則
- 第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○集治監假留監官制 明治二十八年七月
勅令第九十八號
朕集治監假留監官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
集治監假留監官制

- 第一條 東京府下、宮城縣下、福岡縣下及北海道ニ集治監ヲ置キ北海道ニハ分監ヲ置ク其ノ名稱及位
- 置ハ司法大臣之ヲ定ム
- 第二條 各集治監ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 典獄
 - 書記
 - 看守長
 - 監獄醫

第三十三年勅令
第六十八號
ヲ以テ內務大臣
トアルヲ改メ

北海道ノ集治監ニハ前項職員ノ外分監長ヲ置ク

第三條 典獄ハ一人奏任トス司法大臣ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第四條 典獄ハ部下ノ官吏ヲ監督シ判任官ノ進退ハ司法大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第五條 典獄ハ部下ノ判任官ノ懲戒ヲ司法大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第六條 典獄事故アルトキハ上席書記其ノ職務ヲ代理ス但北海道ノ集治監ニ於テハ上席分監長其ノ職務ヲ代理ス

第七條 分監長三人奏任トス典獄ノ指揮監督ヲ承ケ分監ノ事務ヲ掌理ス(三十一年勅令第二百六十四號)

第八條 書記ハ判任トス本監若クハ分監ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第九條 看守長ハ判任トス本監若クハ分監ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第十條 監獄醫ハ判任トス本監若クハ分監ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ従事ス

第十一條 書記、看守長及監獄醫ノ定員ハ各集治監ヲ通シテ百十八人トシ其ノ各官ノ定員ハ司法大臣之ヲ定ム(三十一年勅令第二百六十四號)

第十二條 看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十三條 事務ノ分課並ニ處務ノ規程ハ司法大臣之ヲ定ム

第十四條 假留監ハ集治監ニ附設ス但北海道ノ集治監ニハ之ヲ附設セス

假留監ニハ別ニ其ノ職員ヲ置カス集治監ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

附則

本令ハ明治二十八年七月十日ヨリ施行ス

現在ノ北海道集治監ハ本令施行ノ日ヨリ本令第一條ニ依リ北海道ニ設置スヘキ集治監トシ明治二十四年勅令第八號北海道集治監官制ハ同日ヨリ廢止ス

現在ノ北海道集治監ハ本令施行ノ日ヨリ本令第一條ニ依リ北海道ニ設置スヘキ集治監トシ明治二十四年勅令第八號北海道集治監官制ハ同日ヨリ廢止ス

○文部省 附 大學校、大學

沿革略記

明治元年三月十九日學務院ヲ開ク○同年六月二十六日醫學所ヲ江戸ニ置ク○同年同月廿九日昌平校ヲ復興ス
○同年八月二日昌平校并醫學所ヲ東京府ニ屬ス○同年同月十七日大學寮代ヲ開設ス○同年九月十二日開成所
ヲ復興ス○同年同月十六日皇學所漢學所ヲ京都ニ置ク○同年十月十九日昌平校ヲ行政官ニ屬ス○同年十二月十日昌平
校開成二校並醫學校ニ教授ヲ置キ又皇學所ノ規則ヲ定ム○同年同月二十五日醫學所ヲ昌平校ノ所轄トス○二年二月某
日醫學所ヲ改メテ醫學校並病院ト稱ス○同年三月二十日府縣學校取調局ヲ昌平校ニ設ク史料編輯國史校正局ヲ和學所
ニ置ク○同年五月十日東京府所屬ノ病院ヲ昌平校ニ屬ス○同年六月十四日府縣學校取調局ヲ罷止○同年同月十五日昌
平校ヲ改メテ大學校ト稱シ開成醫學ノ二校ヲ屬ス○同年七月八日大學校官制ヲ大少監、大中少博士、大中少助教等ト定
ム○同年八月二十日官位相當ヲ更定シ大學校ニ別監及正權大少監ヲ置ク○同年九月二日京都皇學所漢學所ヲ廢ス○同
年十月二十九日國史編輯局ヲ大學校ニ置ク○同年十一月五日大學校中大少監官位相當ヲ改メ權大少監ヲ置ク○同
年同月十二日大學校ノ職員ヲ別置、大少監正權大少監、正權大少監、大少監、大中少博士、大中少助教等ト定
成所ヲ大學南校醫學校ヲ大學東校ト稱ス○同年同月二十二日國史編輯局ヲ廢ス○三年二月十日天文府道ヲ大學ニ管セ
シム○同年同月二十八日大阪醫學南校病院並長崎病院ヲ大學南校ニ管セシム○同年三月十三日大學寮長ヲ改メテ會長ト
稱ス○同年四月三日大阪洋學所並化學所ヲ大學南校ニ屬ス○同年七月十二日學制ヲ改正シ假リニ大學本校ヲ開ク○同
年八月十四日天文府道局ヲ星學局ト改稱ス○同年十月十八日造幣局所轄ノ大阪醫學所ヲ管ス○同年同月二十五日大阪
洋學所ヲ改メテ開成所ト稱シ理學所ヲ開成所ノ分局ト爲ス○同年同月十九日箱根病院ヲ大學東校ニ屬ス○同年同月二
十七日京都星學局ノ支局ヲ屬ス○四年六月三日高知藩ノ病院ヲ大學南校ニ屬ス○同年七月十八日大學ヲ廢シテ文部省
ヲ置キ東南二校ヲ管ス○同年同月廿一日東南兩校ノ大學ノ二字ヲ省キ單ニ東校南校ト稱セシム○同年同月廿四日大
中少博士、大中少助教、正權大中少助教ノ教員ヲ置キ官位相當ヲ定ム○同年八月四日大史局所管書籍新刻事務ヲ管ス○同
年同月七日文部卿職制ヲ定ム○同年同月十日文部省官制ヲ定ム○同年八月四日大史局所管書籍新刻事務ヲ管ス○同
年同月七日文部卿職制ヲ定ム○同年同月十九日東京府中學校並洋學所ヲ管ス○同年九月十八日大少監ヲ置キ官等ヲ定メ
又編輯寮ヲ置キ二筆寮ト爲ス○同年十一月十四日長崎縣所屬ノ病院ヲ管ス○同年同月二十三日長崎運備ヲ管ス○同

年同月二十五日各府縣ノ學校ヲ直轄ス●五年正月第十六號ヲ以テ文部省官署ヲ改正シ編輯寮ニ正權頭、正權助、正權大
 中少屬下爲ス○同年同月二十八日博物館ヲ設ク○同年六月文部省編外邊ヲ以テ博物館中書審部ヲ設ク○同年八月文部
 省第十六號ヲ以テ東京ヲ改テ醫學學校第一大學區ト稱シ南校第一大學區及大阪開成所(第四大學區)長崎廣運館第六大
 學區ヲ以テ並ニ第一中學下爲ス○同年九月第三百四十六號ヲ以テ文部省中大中少博士以下ノ教官ヲ廢シ更ニ大中小學
 二大中少教授、大中小少助教ノ教官ヲ階キ一等ヨリ五等ニ至ル學士ノ階級ヲ定ム○同年九月第六十三號ヲ以テ編輯寮ヲ
 廢シ大中小少督學ヲ置ク○同年十月文部省第三十三號ヲ以テ第一大學區督學部本局ヲ設ク○同年同月第三百二十二號ヲ
 以テ文部省附屬ノ外國醫學所ヲ管セシム○同年七月文部省第九十五號ヲ以テ督學局ヲ本省ニ置ク○同年八月第二十九
 六號ヲ以テ大少監ヲ廢シ更ニ大中小少督學書記ヲ置キ又教員ノ等次學位ノ稱號ヲ改テ博士、學士、得業生ノ三級ト爲ス○
 七年六月十三日海外留學生監督吏員ヲ置ク○八年二月九日復々博物館書籍二部博物局及小石川藥園ヲ管セシム○同年五
 月第八十四號布告ヲ以テ六年八月所定教員ノ等級ヲ廢シ更ニ本省直轄官立學校教員ノ等次ヲ定ム○同年六月第一號
 布告ヲ以テ督學局官等ヲ改メ大中小少督學、大中小少視學、大中小少書記ト爲ス○同年二月二十八日宿生准則ノ事務ヲ內務省
 ニ屬ス○同年十二月第二號布告ヲ以テ督學局ノ官等ヲ改定シ更ニ權大中小少書記ヲ置ク○同年同月第二十七號達ヲ
 以テ職制章程ヲ定メ職員ヲ大少輔、正權大少丞、正權大中小少書記等及大中小少督學視學書記ト爲ス○同年一月第三號達ヲ
 改メ官等十七等ニ分ツ○同年同月第五號達ヲ以テ督學局ヲ廢シ更ニ督學局ヲ置キ管セシム○同年二月二日交部省ヨリ東京博物館ヲ教育博物館
 ト改稱セシム○同年四月文部省第三號布告ヲ以テ東京開成學校東京醫學學校ヲ合併シテ東京大學ト改稱シ同省
 第三號達ヲ以テ東京英學學校東京大學醫學部ト改稱シテ東京大學ニ附屬ス○同年四月十八日小石川植物園ヲ東京大學ニ
 屬ス○同年八月第五十八號達ヲ以テ官立學校教員等次ヲ廢シ更ニ東京大學ニ教授、助教、助教、助教員、外教授、外教授員ト稱シ
 他各學校ニ副學、助學ト稱シ○十三年一月第七號達ヲ以テ職制章程ヲ改正シ職員ヲ大少輔、正權大少書記官屬ト等ト
 爲ス○同年七月文部省第一號布告ヲ以テ東京府書籍部ヲ東京圖書部ト改稱ス○同年十二月第六十號達ヲ以テ職制
 前事務章程ヲ改正シ官立學校、地方學務、編輯、報告會計ノ五局ヲ管ス○十四年六月第二十四號達ヲ以テ內記局ヲ置ク
 ○同年六月第五十一號達ヲ以テ十年第五十一號達ヲ廢シ更ニ官立學校圖書部教育博物館職員名稱等級ヲ定メ職
 員ヲ總理長、教授、助教授、助教、助學、書記ト爲ス又第五十二號達ヲ以テ府縣立町村立學校職員名稱等級ヲ定メ職
 員ヲ總理長、教授、助教授、助教、助學、書記ト爲ス○同年十一月五日文部省ニ官立學務地方學務ノ二局
 ヲ廢シ更ニ專門學務、普通學務庶務ノ三局及內記局ヲ置キ事務整理ヲ定ム○同年同月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務
 章程ヲ廢シ更ニ諸省事務章程規則ヲ定ム○十五年一月第八號達ヲ以テ府縣立學校書記ノ准官等ヲ定ム○同年同月第九
 號達ヲ以テ東京大學ニ幹事ヲ置キ職制條給ヲ定ム○十七年十月第九十二號達ヲ以テ東京大學ニ副總理ヲ置キ職制條給
 ヲ定ム○十八年五月文部省第一號告示ヲ以テ農商務省所轄東京商業學校ヲ管ス○同年十二月第六十九號達ヲ以テ各省

卿ノ職制ヲ廢シ更ニ文部大臣ヲ置ク○同年同月第七十號達ヲ以テ工部大學校ヲ管セシム○十九年二月勅令第二號ヲ以
 テ官制ヲ定ム○同年三月勅令第九號ヲ以テ帝國大學ノ職員官等ヲ定ム○同年四月勅令第三十五號ヲ以テ高等師範學校
 高等中學校東京商業學校ノ官制ヲ定ム○同年十月勅令第六十五號ヲ以テ尋常師範學校官制ヲ定ム○二十一年十二月勅
 令第八十一號ヲ以テ天象觀測及曆書觀測ノ事業ヲ文部省ノ管理トス○二十二年三月勅令第二十一號ヲ以テ東京圖書館
 官制ヲ定ム○二十三年三月勅令第四十二號ヲ以テ女子高等師範學校ヲ置ク○同年六月勅令第九十二號ヲ以テ東京農林
 學校ヲ帝國大學ノ分科大學トス○同年同月勅令第一號ヲ以テ文部省官制ヲ改正ス○同年十月勅令第二百三十三號ヲ
 以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正ス○同年同月勅令第二百六十四號ヲ以テ東京學士會員規定ヲ定ム○同年十一月勅令
 第二百七十號ヲ以テ帝國大學職員官等ヲ改正シ定員ヲ定ム○二十四年七月勅令第九十三號ヲ以テ文部省官制ヲ改正ス
 ○同年同月勅令第三百三十六號ヲ以テ客年勅令第二百七十號ヲ廢シ更ニ帝國大學職員ヲ定ム○同年同月勅令第三百十七
 號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三百三十八號ヲ以テ東京圖書館官制ヲ改正ス○同年同月勅令第
 百四十一號ヲ以テ文部省直轄諸學校教員人員ヲ定ム○同年十一月勅令第二百二十七號ヲ以テ尋常師範學校官制ヲ改正ス
 ○二十五年六月勅令第五十五號ヲ以テ震災豫防調查會官制ヲ定ム○二十六年六月勅令第六十二號ヲ以テ東京商業學校
 高等師範學校附屬トシ高等商業學校附屬主計學校ヲ廢止ス○同年八月勅令第八十三號ヲ以テ帝國大學官制ヲ定ム○
 同年同月勅令第八十六號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正ス○同年八月勅令第八十七號ヲ以テ文部省直轄諸學校職
 員定員ヲ定メ二十四年勅令第四十一號ヲ廢止ス○同年七月勅令第三百三十二號ヲ以テ中央氣象臺官制ヲ改正シ內務
 省ヨリ文部省ノ管轄ニ移ス○同年同月勅令第三百三十四號ヲ以テ氣象臺觀測所條例中ヲ改正シ內務省ヨリ文部省ノ管理
 ニ移ス○同年同月勅令第四百四十四號ヲ以テ文部省官制ヲ改正ス○同年十一月勅令第二百八十八號ヲ以テ札幌農學校ニ關ス
 ル件ヲ定ム○二十四年勅令第四百四十二號同年勅令第四百四十三號及二十六勅令第九十五號ヲ廢止ス○二十八年十月
 勅令第四百四十九號ヲ以テ地方測候所職員ノ名稱待遇任免及等級配當ノ件ヲ定ム○二十九年五月勅令第八十五號ヲ以
 テ文部省ニ學校衛生顧問及學校衛生主任ヲ置ク○同年十二月勅令第三百九十號ヲ以テ高等教育會議規則ヲ定ム○三十
 年四月勅令第四百十號ヲ以テ帝國圖書館官制ヲ制定シ東京圖書館官制ヲ廢止ス○同年六月勅令第二百十號ヲ以テ東京帝
 國大學官制ヲ制定シ帝國大學官制ヲ廢止ス○同年同月勅令第二百一十一號ヲ以テ京師帝國大學官制ヲ制定ス○同年十月
 勅令第三百四十二號ヲ以テ文部省官制ヲ改正ス○三十一年四月勅令第八十四號ヲ以テ測地學委員會官制ヲ定ム○同年
 六月勅令第三百五號ヲ以テ高等教育會議規則ヲ改正ス○同年七月勅令第四百四十八號ヲ以テ中央氣象臺官制ヲ改正ス○同
 年十月勅令第二百七十九號ヲ以テ文部省官制ヲ改正ス○三十三年三月勅令第三百三十五號ヲ以テ教育檢定委員會官制ヲ
 定ム○同年六月勅令第二百六十八號ヲ以テ地方測候所職員ニ關スル件ヲ定ム

○文部省官制明治三十一年十月

勅令第二百七十九號

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省官制

- 第一條 文部大臣ハ教育學藝ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 總務局ニ於テハ通則ニ據クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル(三十二年勅令第百六號及第百八號ヲ以テ改正追加)
 - 一 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
 - 二 公立學校職員ニ關スル事項
 - 三 教員免許ニ關スル事項
 - 四 圖書ニ關スル事項
 - 五 建築營繕ニ關スル事項
 - 六 高等教育會議ニ關スル事項
 - 七 學校衛生ニ關スル事項
 - 八 博覽會ニ關スル事項
 - 九 褒賞ニ關スル事項
- 第三條 文部省專任參事官ハ四人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス(三十三年勅令第百八號ヲ以テ改正)
- 第四條 文部省ニ左ノ三局ヲ置ク(三十三年勅令第百六號ヲ以テ二局ヲ三局ニ改メ實業學務局ヲ加フ)
 - 專門學務局
 - 普通學務局

實業學務局

- 第五條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十三年勅令第百六號ヲ以テ改正)
 - 一 帝國大學及高等學校ニ關スル事項
 - 二 專門學校ニ關スル事項
 - 三 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
 - 四 海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スル事項
 - 五 圖書館及博物館ニ關スル事項
 - 六 天文臺氣象臺及測候所ニ關スル事項
 - 七 學術技藝ノ獎勵及調査ニ關スル事項
 - 八 測地學委員會及震災豫防調査會ニ關スル事項
 - 九 學士會院ニ關スル事項
 - 十 學術會ニ關スル事項
 - 十一 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項
- 第六條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十三年勅令第百六號ヲ以テ第二號ヲ追加シ第二號ヲ第三號トナシ以下順次繰下ク)
 - 一 師範教育ニ關スル事項
 - 二 中學校ニ關スル事項
 - 三 小學校及幼稚園ニ關スル事項

- 四 高等女學校ニ關スル事項
- 五 盲啞學校ニ關スル事項
- 六 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
- 七 教育博物館ニ關スル事項
- 八 通俗教育及教育會ニ關スル事項
- 九 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項
- 第六條ノ二 實業事務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十三年勅令第百六號ヲ以テ本條追加)
 - 一 工業學校ニ關スル事項
 - 二 農業學校ニ關スル事項
 - 三 商業學校ニ關スル事項
 - 四 公立及私立商船學校ニ關スル事項
 - 五 徒弟學校及實業補習學校ニ關スル事項
 - 六 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
 - 七 實業教育費國庫補助ニ關スル事項
 - 八 實業學校教員ノ養成ニ關スル事項
- 第七條 文部省ニ專任視學官五人ヲ置ク奏任トス學事ノ視察ヲ掌リ又各局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル
- 第八條 文部省ニ專任圖書審查官三人ヲ置ク奏任トス圖書ノ審查ヲ掌ル

- 第九條 文部省ニ專任技師四人ヲ置ク建築ニ關スル事務ヲ掌ル(三十二年勅令第百四十一號ヲ以テ技師技手ノ定員ヲ改ム)
- 文部省ニ專任技手十人ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク
- 第十條 文部省ニ學校衛生主事一人ヲ置ク奏任トス學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ル(三十三年勅令第百六號ヲ以テ條中削除)
- 第十一條 文部省屬ガ六十五人ヲ以テ定員トス(三十三年勅令第百六號ヲ以テ定員ヲ改正ス)
- 附則
- 第十二條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

○ 高等教育會議規則(明治三十一年六月勅令第百五號)

朕高等教育會議規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等教育會議規則

- 第一條 高等教育會議ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス
- 第二條 高等教育會議ハ文部大臣ノ諮詢ニ應ジテ左ノ事項ノ要領ヲ審議ス
 - 一 帝國大學及文部省直轄諸學校圖書館ノ設置廢止ニ關スル事項
 - 二 文部省直轄諸學校公立私立學校ノ教育ノ目的並ニ其ノ學科課程設備及管理ニ關スル事項
 - 三 學齡兒童ノ就學義務及小學校授業料ニ關スル事項
 - 四 學事監督ニ關スル事項

- 五 教科用圖書ニ關スル事項
- 六 文部省直轄諸學校並ニ公立私立學校職員ノ資格ニ關スル事項
- 七 文部大臣ニ於テ必要ト認ムル事項
- 第三條 高等教育會議ハ教育ニ關スル事項ニ就キ各省大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第四條 高等教育會議ハ左ノ議員ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 一 學習院長、華族女學校長、帝國博物館總長
 - 二 陸軍及海軍教育主任將校各一人
 - 三 帝國大學總長
 - 四 帝國大學分科大學長各科毎ニ一人
 - 五 文部省各局長及視學官二人
 - 六 高等師範學校長、女子高等師範學校長
 - 七 高等商業學校長、東京工業學校長、東京美術學校長、「高等師範學校附屬音樂學校」主事、帝國圖書館長
 - 八 高等學校長一人
 - 九 商船學校長
 - 十 師範學校長二人
 - 十一 公立「尋常」中學校長二人

- 十二 公立高等女學校長一人
 - 十三 高等師範學校附屬「尋常」中學校主事、女子高等師範學校附屬高等女學校主事
 - 十四 私立學校長二人
 - 十五 東京學士會院會長
 - 十六 文部省學校衛生顧問會議議長
 - 十七 學識アル者又ハ教育事業ニ関歴アル者七人以内
- 此ノ他臨時ノ必要ニ應シ臨時議員若干人ヲ置クコトヲ得
- 職務上當然議員タル者ヲ除ク外議員及臨時議員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス但シ第一項第十乃至第十二ノ議員ハ當該各學校長ニ於テ二倍ノ數ヲ互選セシメ其ノ中ニ就キ文部大臣奏請シ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第五條 文部大臣ハ必要ニ依リ前條ノ外部下高等官ヲ高等教育會議ニ臨時出席セシムルコトヲ得但シ可否ノ數ニ加ハラズ
 - 第六條 高等教育會議ニ議長及副議長ヲ置キ議員中ニ就キ文部大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス
 - 議長副議長共ニ事故アルトキハ議長ヨリ議員中ノ一人ヲ指名シテ事務ヲ代理セシム
 - 第七條 議員ノ任期ハ三箇年ヲ以テ一期トス但シ職務上當然議員タル者ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 第八條 議長ハ規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ文部大臣ニ開申ス
 - 第九條 高等教育會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 高等教育會議ハ毎年一回之ヲ開ク但シ必要ニ依リ臨時會議ヲ開クコトヲ得
高等教育會議ノ開會及開期ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 議員ニハ一箇年五百圓以内臨時議員ニハ事項ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ第
四條第一項第一乃至第十三ニ該當スル者ニハ之ヲ給セス

第十二條 高等教育會議ニ幹事一人ヲ置キ文部省高等官ヲ以テ之ニ充テ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以
テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理シ書記ハ議長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス
幹事ニハ一箇年二百圓以内書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

第十三條 明治二十九年勅令第三百九十號ニ依リ辭令ヲ用ヒテ任命セラレタル議員ハ本規則施行ノ
日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

○

○東京帝國大學官制明治三十年六月
勅令第二百十號

朕東京帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京帝國大學官制

第一條 東京帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

書記官

舍監

書記

第二條 總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ東京帝國大學一般ノ事
ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

第三條 總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第四條 舍監ハ專任二人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第五條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第六條 東京帝國大學及分科大學書記ハ通計專任五十三人ヲ以テ定員トス(三十二年勅令第七十
一號ヲ以テ定員ヲ改正)

第七條 各分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

助教授

助手

書記

第七條 教授ハ專任百一人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ

研究ヲ指導ス(三十二年勅令第百二號三十三年勅令第六十九號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

教授ニシテ分科大學長及醫科大學附屬醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

第八條 助教授ハ專任四十二人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス(三十二年勅令第百二號ヲ以テ四十一人ヲ四十二人ニ改ム)

講座ヲ擔任スル助教授ハ前項ノ定員外ニ置クモノトス但シ講座ヲ分擔スル助教授ハ此ノ限ニアラス(三十二年勅令第百二號三十二年勅令第百二十九號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第九條 助手ハ專任百十五人判任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス(三十二年勅令第百二十九號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第十條 第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事ヲ掌ル

第十一條 醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理ス(三十二年勅令第百七十一號ヲ以テ本項改正)

第十二條 理科大學附屬東京天文臺ニ天文臺長ヲ置キ理科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

天文臺長ハ總長監督ノ下ニ於テ東京天文臺ノ事務ヲ掌理ス(三十二年勅令第百七十一號ヲ以テ務ノ一字ヲ追加ス)

第十三條 理科大學附屬臨海實驗所ニ臨海實驗所長ヲ置キ理科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス(三十二年勅令第百七十一號ヲ以テ第百七十三條第十(四)條ヲ削リ更ニ第百七十三條乃至第百七十六條ヲ追加ス)

臨海實驗所長ハ總長監督ノ下ニ於テ臨海實驗所ノ事務ヲ掌理ス

第十四條 理科大學附屬植物園ニ植物園長ヲ置キ理科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

植物園長ハ總長監督ノ下ニ於テ植物園ノ事務ヲ掌理ス

第十五條 農科大學附屬演習林ニ演習林長ヲ置キ農科大學教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

演習林長ハ總長監督ノ下ニ於テ演習林ノ事務ヲ掌理ス

第十六條 東京帝國大學附屬圖書館ニ圖書館長ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

圖書館長ハ總長監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事務ヲ掌理ス

附則

第十七條 明治二十六年勅令第八十三號帝國大學官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス(三十二年勅令第百七十一號ニ改ム)

○ 京都帝國大學官制(明治三十年六月勅令第百二十一號)

朕京都帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

京都帝國大學官制

第一條 京都帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

書記官

舍監

書記

第二條 總長ハ一人勅任下ス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ京都帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條 書記官ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條 舍監ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ學生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第五條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

京都帝國大學及分科大學書記ハ通計專任二十七人ヲ以テ定員トス

第六條 分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教授

助教授

助手

書記

第七條 教授ハ專任五十七人奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其

研究ヲ指導ス

教授ニシテ分科大學長及醫科大學附屬醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セザルコトアルヘシ

第八條 助教授ハ專任三十四人奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス (三十二年勅令第三百三十三號第三十三條改正)

第九條 助手ハ專任三十七人判任トス教授助教授ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス (三十二年勅令第三百三十三號第三十四條改正)

第十條 第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事ヲ掌ル

第十一條 醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十二條 京都帝國大學附屬圖書館ニ館長ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

館長ハ總長監督ノ下ニ於テ圖書館ノ事ヲ掌理ス

○ 文部省直轄諸學校官制 (明治二十六年八月勅令第八十六號)

朕文部省直轄諸學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制

第一條 文部省直轄諸學校ハ高等師範學校女子高等師範學校札幌農學校高等商業學校第一高等中

學校第二高等中學校第三高等中學校第四高等中學校第五高等中學校第六高等學校東京工

業學校東京外國語學校東京美術學校東京音樂學校大阪工業學校及東京官廳學校トス (二十九勅令第

二百二十六號三

第二十三類 文部省直轄諸學校官制

五百七十九

十二年勅令第十七號三十二年勅令第八十四號ヲ以テ本條中改正

諸學校通則第一條ニ依リ文部大臣ノ管理ニ屬スル高等「中」學校ハ山口高等「中」學校トシ總テ此ノ官制ノ規定ニ依ラシム(二十九勅令第二百九十號ヲ以テ本項中改正)

第二條 高等師範學校ニ附屬「尋常」中學校及附屬小學校ヲ置キ東京教育博物館ヲ附設ス(三十二年勅令以テ條中刪除)

第三條 女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク

第四條 (三十年勅令第八號ヲ以テ本條ノ追加シ第四條以下(頭次條下)ケ三十二年勅令第十七號ヲ以テ廢止ス)

第五條 東京工業學校ニ附屬職工徒弟學校ヲ置ク

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

助教授

書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス(三十二年勅令第四百七號ヲ以テ)

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル(三十二年勅令第四百七號ヲ以テ)

助教授ハ勅任トス教授ノ職務ヲ助ク

第九條 書記ハ勅任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ舍監ヲ置ク他ノ學校ニ於テ舍監ヲ置クノ必要アルトキハ教官ヨリ兼任セシム

舍監ハ奏任トス校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第十一條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ第五條及第九條職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

教諭

助教諭

訓導

授業ヲ監督ス

第十二條 教諭ハ奏任トス附屬「尋常」中學校及附屬高等女學校ノ生徒ヲ教授シ兼テ師範生徒ノ實地

助教諭ハ勅任トス教諭ノ職務ヲ助ク

第十三條 訓導ハ勅任トス附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

第十四條 高等師範學校ニ助手ヲ置ク勅任トス教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ從事ス(三十二年勅令)

(第十條以下)

第十五條 女子高等師範學校ニ保姆ヲ置ク勅任トス附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十六條 東京盲啞學校ニ教授助教授ヲ置カス訓導ヲ置ク勅任トス生徒ノ授業ヲ掌ル

第十七條 專任教授中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ

若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十八條 文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校高等「中」學校及東京工業學校教官ノ中ヨリ各其ノ附屬學校主事東京教育博物館主事附屬幼稚園主事專門學部主事ヲ命シ其ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得(三十二年勅令第八號三十二年勅令第十七號ヲ以テ改正)

第十八條ノ二 札幌農學校ニ農事部長、植物園長及博物館長ヲ置キ同校教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス(三十三年勅令第八十號四號ヲ以テ本條追加)

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附則

第二十條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

○

○ 文部省直轄諸學校職員定員(明治二十六年八月勅令第八十七號)

朕文部省直轄諸學校職員定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校職員定員

第一條 文部省直轄諸學校職員ノ定員ハ左ノ如シ但兼任ハ此ノ限ニアラス(二十八年勅令第四百四十八號二十九年勅令第四百八十八號三十三年勅令第八十六號ヲ以テ定員中ヲ改正ス)

高等師範學校	十六人
校長	一人
教授	四十四人
助教授	九人
助手	二人
教諭	七人
助教諭	十一人
訓導	十九人
舍監	三人
書記	十二人
女子高等師範學校	八人
校長	一人
教授	二十三人
助教授	七人
教諭	七人
助教諭	十三人
訓導	十四人

舍監	二人
保母	七人
書記	七人
札幌農學校	
校長	三人
教授	十一人
助教授	十八人
書記	八人
高等商業學校	
校長	一人
教授	十六人
助教授	十四人
書記	八人
第一高等「中」學校	
校長	一人
教授	四十八人
助教授	十六人

書記	十二人
第二高等「中」學校	
校長	一人
教授	三十七人
助教授	十三人
書記	八人
第三高等「中」學校	
校長	一人
教授	三十八人
助教授	二十人
書記	十二人
第四高等「中」學校	
校長	一人
教授	三十二人
助教授	十五人
書記	八人
第五高等「中」學校	

校長	一人
教授	四十六人
助教授	十九人
書記	十三人
第六高等學校 <small>(三十二年勅令第八十六號ヲ以テ追加)</small>	一人
校長	一人
教授	七人
助教授	四人
書記	四人
山口高等「中」學校	一人
校長	一人
教授	十四人
助教授	六人
書記	六人
<small>(二十九年勅令第二百九十八號ヲ以テ 鹿兒島高等中學校士館ノ項ヲ削除ス)</small>	
東京工業學校	十八人
校長	十八人

教授	十七人
助教授	三十三人
書記	七人
東京外國語學校 <small>(三十二年勅令第一百十八號ヲ以テ本項追加)</small>	一人
校長	一人
教授	十七人
助教授	十一人
書記	四人
東京美術學校	一人
校長	一人
教授	十八人
助教授	二十三人
書記	六人
東京音樂學校 <small>(三十二年勅令第一百十八號ヲ以テ本項追加)</small>	一人
校長	一人
教授	六人
助教授	八人

書記 四人

大阪工業學校(二十九年勅令第二百二十七號ヲ以テ本項追加)

校長 一人

教授 十一人

助教授 二十一人

書記 五人

東京官立學校

校長 一人

訓導 十一人

書記 四人

附則

第二條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

第三條 明治二十四年勅令第四百一十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○附則

○師範學校官制明治二十四年十一月勅令第二百十七號

朕尋常師範學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 尋常師範學校官制ハ

三十一年勅令第六號
以テ尋常師範學校
ヲ改テ尋常師範學校
トスルニ改メ

第一條 尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 一人 訓導 十一人 書記 四人 助教諭 一人 舍監 一人

第二條 教諭助教諭舍監訓導及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但教諭三名以内ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ(三十一年勅令第三十號ヲ以テ條中改正)

第三條 尋常師範學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督シ兼テ其府縣内ニ於ケル小學教

育ニ屬スル學事ヲ視察ス(二十六年勅令第八十五號ヲ以テ改正)

第四條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條 舍監ハ教諭助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス

第七條 訓導ハ附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌ル

第八條 書記ハ學校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條 教諭助教諭合監訓導及書記ノ人員及俸額ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 府縣知事ハ教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

附則

第十一條 本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

○

○文部省ニ學校衛生顧問及學校衛生顧問會議幹事ヲ置ク明治二十九年五月勅令第百八十五號

朕文部省ニ學校衛生顧問及學校衛生主事ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 文部省ニ學校衛生顧問九人以内及學校衛生顧問會議幹事一人ヲ置ク(三十二年勅令第六十五號ヲ以テ主事ノ顧問會議幹事ニ改ム)

(以下)

第二條 學校衛生顧問ハ文部大臣ノ諮詢ニ應シテ學校衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第三條 學校衛生顧問會議幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ學校衛生顧問會議ニ關スル庶務ヲ整理ス(三十二年勅令第六十五號ヲ以テ改ム)

(第六十五號)

第四條 學校衛生顧問及學校衛生顧問會議幹事ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 學校衛生顧問會議幹事ハ學校衛生顧問ト同一ノ資格ヲ以テ會議ニ參列ス

文部大臣ハ部下ノ官吏ヲシテ學校衛生顧問ノ會議ニ參列セシムルコトヲ得但可否ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第六條 大學校衛生顧問ノ會議ニ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 大學校衛生顧問ニハ一箇年三百圓以内學校衛生顧問會議幹事ニハ一箇年千二百圓以内ノ手當ヲ給ス

ヲ給ス

○

○帝國圖書館官制明治三十年四月勅令第百十號

朕帝國圖書館官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○帝國圖書館官制

第一條 帝國圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ内外古今ノ圖書記錄ヲ蒐集保存シ及衆庶ノ閱覽參考ノ

用ニ供スル所トス

第二條 帝國圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第百八十號ヲ以テ職員ノ項ヲ改正ス)

館長 一人 奏任

司書 七人 判任

書記 二人 判任

第三條 館長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 (三十二年勅令第百八十號ヲ以テ本條刪除)

第五條 司書ハ上官ノ命ヲ承ケ圖書記錄ヲ整理保存及閱覽ニ關スル事務ニ従事ス

第六條 書記ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス
第七條 圖書記録ノ選定若ハ分類等ニ關シ必要アルトキハ館長ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ囑託員ヲ置クコトヲ得

第八條 文部大臣ハ館務上ノ須要ニ依リ帝國圖書館ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附則

第九條 明治二十四年勅令第百三十八號東京圖書館官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○中央氣象臺官制明治三十一年七月勅令第百四十八號

朕中央氣象臺官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央氣象臺官制

第一條 中央氣象臺ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ氣象ニ關スル事項ヲ攻究シ氣象事業ヲ統轄ス

第二條 中央氣象臺ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 全國氣象ノ調査及報告
- 二 暴風警報
- 三 天氣豫報

四 氣象通報

五 氣象器械檢定

六 氣象、地磁氣、空中電氣、地震等ノ觀測

第三條 中央氣象臺ニ左ノ職員ヲ置ク

臺長

技師

技手

書記

第四條 臺長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ文部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ臺務ヲ管理シ所屬職員ヲ統轄ス

第五條 技師ハ專任四人奏任トス臺長ハ指揮ヲ承ケ臺務ヲ分掌ス(三十三年勅令第百十一號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第六條 技手ハ專任十五人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ中央氣象臺又ハ附屬測候所ノ事務ニ従事ス(三十一年勅令第百八十一號三十三年勅令第百四十一號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第七條 書記ハ專任四人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス(三)

第八條 事務ノ分課ハ文部大臣之ヲ定ム

第九條 中央氣象臺ニ附屬測候所ヲ置ク其ノ位置ハ鹿兒島縣下大島沖繩縣下石垣島トス

第十條 附屬測候所ニ所長ヲ置キ中央氣象臺技手ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ臺長監督ノ下ニ於テ測候所ノ事務ヲ掌理ス

○氣象臺測候所條例明治二十年八月勅令第四十二號

朕氣象臺測候所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

氣象臺測候所條例

第一條 東京ニ中央氣象臺ヲ置キ地方便宜ノ場所ニ地方測候所ヲ置ク其位置ハ文部大臣之ヲ指定ス

(二十六號勅令第三百三十四號ヲ以テ內務大臣ヲ文部大臣ニ改メ以下倣之)

第二條 前條ノ外測候所ヲ設置セントスル者アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ク可シ

第三條 中央氣象臺ハ文部大臣之ヲ直轄ス地方測候所ハ地方長官之ヲ管理シ文部大臣之ヲ監督ス其
他ノ測候所ハ地方長官之ヲ監督ス

第四條 地方測候所ノ費用ハ該測候所所在地ノ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ

第五條 中央氣象臺及各測候所ハ事業上互ニ氣脈ヲ通シ通信ヲ爲ス可シ

第六條 本條例施行ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

○教員檢定委員會官制明治三十三年三月勅令第三百三十五號

朕教員檢定委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教員檢定委員會官制

第一條 教員檢定委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ教員檢定ニ關スル事務ヲ管掌ス

第二條 教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一會長 文部大臣ノ指定スル者ニシテ其職務ニ關シテ學識豐富者ニシテ之ヲ充テ

一常任委員

一主事 文部大臣ノ指定スル者ニシテ其職務ニ關シテ學識豐富者ニシテ之ヲ充テ

一臨時委員

第三條 會長、常任委員、主事及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

主事ハ文部省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

本臨時委員ハ試驗施行ノ際之ヲ命ス

第四條 會長ハ一切ノ會務ヲ總理シ檢定ノ成績ヲ文部大臣ニ報告ス

會長事故アルトキハ文部大臣ノ指命シタル委員其ノ事務ヲ代理ス

第五條 常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 主事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル庶務ヲ整理ス

第七條 臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試驗檢定ノ事務ヲ掌ル

第八條 會長、常任委員、主事及臨時委員ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第九條 教員檢定委員會ニ書記三人ヲ置キ文部省判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長及主事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

書記ニハ一箇年五十圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○測地學委員會官制明治三十一年四月勅令第八十四號

朕測地學委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

一 測地學委員會官制

第二條 測地學委員會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ萬國測地學協會ニ關スル事務ヲ掌理シ及測地學ニ關

スル事項ヲ攷究スルヲ以テ之ヲ設ケ其ノ員數ハ左ノ如クシ

第二條 測地學委員會ハ測地學ニ關シ主任各省大臣ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ開申スヘク又主任各省大

臣ニ建議スルヲ得

第三條 測地學委員會ハ事務ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第四條 測地學委員會ハ委員長一人幹事二人委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス(三十三年勅令第三十八號ヲ以テ十八人トシ五人ニ改メ)

第五條 委員長及委員ハ測地學ニ關係アル官廳ハ高等官中ヨリ幹事ハ委員中ヨリ文部大臣ノ奏請ニ

依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條 臨時必要アルトキハ測地學委員會ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得

臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 委員長ハ測地學委員會一切ノ事務ヲ整理シ萬國測地學協會ニ對シテ帝國委員ヲ代表ス

第八條 幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條 委員ニハ一箇年三百圓以内臨時委員ニハ事項ノ輕重ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條 測地學委員會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ議事ヲ筆記シ及庶務ニ従事ス

書記ハ定員二人トシ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 書記ニハ一箇年百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十二條 臨時必要ノ場合ニ於テハ委員長ハ僱員ヲ使用スルコトヲ得

○震災豫防調査會官制明治二十五年六月勅令第五十五號

朕震災豫防調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

震災豫防調査會官制

- 第一條 震災豫防調査會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ震災豫防ニ關スル事項ヲ攻究シ其施行方法ヲ審議ス
- 第二條 震災豫防調査會ハ事務ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得
- 第三條 震災豫防調査會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 第一 會長
 - 第二 幹事
 - 第三 委員
- 第四條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ理學及工學專門ノ者ヨリ文部大臣以奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第五條 調査上必要アルトキハ震災豫防調査會ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得
- 第六條 臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第七條 會長ハ震災豫防調査 關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第八條 震災豫防調査ノ職員ニハ二箇年三百圓以内ノ手當ヲ給スルヲ得

- 第九條 震災豫防調査會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承テ辦事ノ筆記及庶務ニ從事ス
- 第十條 調査上必要アルトキハ會長ハ臨時雇員ヲ使用スルコトヲ得

學校職員恩給審査規程 明治二十九年七月

第一章 公立學校職員恩給審査委員

- 第一條 文部省ニ公立學校職員恩給審査委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
- 公立學校職員恩給審査委員ハ市町村立小學校及公立實業補習學校ニアラサル公立學校ノ學校長及教員ノ退隱料及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス
- 第二條 公立學校職員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ 審査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申ス

第三十三年勅令第九十九號
文部大臣ノ依リ定ムルニ依リ
公立學校職員恩給審査規程
施行ス

第三條 公立學校職員恩給審査委員長及委員ハ文部省高等官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス

第四條 文部省ニ恩給顧問醫三人ヲ置キ内一人ヲ常務顧問醫トス

恩給顧問醫ハ公立學校職員恩給審査委員長ノ諮詢ニ應シ退隱料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス但委員長ニ於テ總顧問醫ノ意見ヲ聞クコトヲ必要ト認メサルモノハ常務顧問醫之ヲ審査ス

第五條 審査上特殊ノ専門家ヲ要スル場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第六條 恩給顧問醫ハ文部大臣之ヲ命ス

第七條 常務顧問醫ニハ一箇年五百圓以内其ノ他ノ顧問醫ニハ事件ノ輕重難易ヲ斟酌シ毎件三圓以上十圓以下ノ手當ヲ給ス

第八條 公立學校職員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ

第二章 市町村立小學校教員恩給審査委員

第九條 北海道廳府縣ニ市町村立小學校教員恩給審査委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

市町村立小學校教員恩給審査委員ハ市町村立小學校教員並ニ公立實業補習學校ノ學校長及教員ノ退隱料及遺族扶助ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス(三十二年勅令第二百一號ヲ以テ本項中改正)

第十條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ北海道廳長

官府縣知事ニ具申ス

第十一條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ其ノ廳高等官委員ハ其廳官吏ノ中ヨリ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス

第十二條 北海道廳府縣ニ恩給顧問醫三人以内ヲ置ク

恩給顧問醫ハ市町村立小學校教員恩給審査委員長ノ諮詢ニ應シ退隱料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス

第十三條 審査上特殊ノ専門家ヲ要スル場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第十四條 恩給顧問醫ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス

第十五條 顧問醫ニハ相當ノ手當ヲ給ス其ノ費用ハ北海道廳及沖繩縣ニ在テハ地方經濟ニ屬スル費用ノ負擔トシ其ノ他ノ府縣ニ在テハ府縣ノ負擔トス

第十六條 市町村立小學校教員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ北海道廳府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

○農商務省

沿革略記

明治十四年四月第二十五號達ヲ以テ農商務省ヲ置キ職制並事務章程ヲ定メ書記農務、商務、工務、山林、礦業、博物、會計ノ諸局及農商工上等會議ノ九ニ分ツ○同年同月第二十六號達ヲ以テ内務省所屬ノ墾務、山林、博物、勸業ノ四局並大藏省ノ商務局ヲ管ス○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程規則ヲ定ム

商工局
山林局
鑛山局
特許局
水産局
地質調査所

- 第五條 農務局ニ於テハ農事、蠶、茶、畜産、家畜衛生及狩獵ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第六條 商工局ニ於テハ商事、工業及度量衡ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第七條 商工局ニ商品陳列館ヲ置キ内外ノ商品見本ヲ蒐輯陳列シ衆庶ノ觀覽參考ニ供セシム
- 第八條 山林局ニ於テハ森林原野ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第九條 鑛山局ニ於テハ鑛業ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十條 特許局ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十一條 水産局ニ於テハ水産ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十二條 地質調査所ニ於テハ地質、土性、地形及分折ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十三條 所長ハ農商務省高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム
- 第十四條 第十一條ノ二 商工局ニ保險事務官一人ヲ置ク(三十二年勅令第十八號ニ以テ次項トモ追加)

保險事務官ハ委任トス保險ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條 (特許局ニ專任審判官五人專任審査官十五人專任審査官補二十人ヲ置ク(三十二年勅令第二百三十三號ニ以テ各項トモ正改))

審判官ハ委任トス但シ兼任ノ者ノ本官勅任ナルトキハ勅任ト爲スコトヲ得

審査官ハ特許、意匠及商標ニ關スル審判ヲ掌ル

審査官補ハ委任トス特許、意匠及商標ニ關スル審査ヲ掌ル

第十三條 商品陳列館ニ技師一人書記四人ヲ置ク

書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十四條 農商務省ニ專任技師二十九人專任技師四十八人ヲ置ク(三十二年勅令第二百三十六號三十三號ニ以テ定員ヲ改ム)

第十五條 農商務省屬ハ百二十八人ヲ以テ定員トス(上全)

附則

第十六條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

○

○特許局審判事務章程(明治三十二年六月勅令第二百七十九號)

朕特許局審判事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許局審判事務章程

- 第一條 特許局長ハ各審判事件ニ付審判官ヲ指定ス可シ
- 第二條 特許局長ハ審判官中審判ニ參與スルコト能ハサル故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他ノ審判官ヲ指定シテ之ヲ補充ス可シ
- 第三條 審判長ハ指定審判官ノ中上席者ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 審判長ハ審判ニ關スル事務ヲ統理ス
- 第五條 審判長ハ一名若ハ二名ノ主査審判官ヲ命スルコトヲ得
- 第六條 審決ハ審判評議ヲ經ルニ非サルニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 審決ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ審判長ノ決スル處ニ依ル
- 第八條 審判官ハ左ノ事件ニ參與スルコトヲ得ス
 - 一 自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件
 - 二 直接又ハ間接ニ利害ノ關係ヲ有シタル事件
 - 三 審判官トシテ審査ニ參與シタル事件
- 第九條 本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

○林區署官制 明治三十年六月
勅令第八十六號 關シテ 林區署官制ニ付テハ 附則

- 朕林區署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 林區署官制ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第二條 大田區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 國有林野ノ保管經營及利用ニ關スル事項(三十年勅令第四百五十三號ヲ以テ國有林野ノ字ヲ加フ)
 - 二 部分林ニ關スル事項(三十年勅令第四百五十三號ヲ以テ國有林野ノ字ヲ加フ)
 - 三 森林ノ監督ニ關スル事項(三十年勅令第四百五十三號ヲ以テ國有林野ノ字ヲ加フ)
- 第三條 大田區署ニ左ノ職員ヲ置ク
 - 一 林務官
 - 二 林務官補
 - 三 營林主事
 - 四 書記
 - 五 營林主事補
- 第四條 森林監督ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第五條 各大林區署長ハ 一 人 林務官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス
- 第六條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第七條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第八條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第九條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第十條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第十一條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第十二條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第十三條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第十四條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第十五條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第十六條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第十七條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第十八條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第十九條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第二十條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第二十一條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第二十二條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第二十三條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第二十四條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第二十五條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第二十六條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第二十七條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第二十八條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第二十九條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第三十條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第三十一條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第三十二條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第三十三條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第三十四條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第三十五條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第三十六條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第三十七條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第三十八條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第三十九條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第四十條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第四十一條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第四十二條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第四十三條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第四十四條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第四十五條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第四十六條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第四十七條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第四十八條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第四十九條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第五十條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第五十一條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第五十二條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第五十三條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第五十四條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第五十五條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第五十六條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第五十七條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第五十八條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第五十九條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第六十條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第六十一條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第六十二條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第六十三條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第六十四條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第六十五條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第六十六條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第六十七條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第六十八條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第六十九條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第七十條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第七十一條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第七十二條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第七十三條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第七十四條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第七十五條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第七十六條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第七十七條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第七十八條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第七十九條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第八十條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第八十一條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第八十二條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第八十三條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第八十四條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第八十五條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第八十六條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第八十七條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第八十八條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第八十九條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第九十條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第九十一條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第九十二條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第九十三條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第九十四條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第九十五條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第九十六條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第九十七條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第九十八條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第九十九條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス
- 第一百條 林務官ハ 附則ニ據リテ 施行ス

第五條 林務官補ハ判任トシ各大林区署ヲ通シテ專任八十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス(三十二年勅令第七十一號ヲ以テ專任ノ二字ヲ加フ)

第六條 營林主事ハ判任トシ各大林区署ヲ通シテ專任三百十三人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ營林事務及森林調査ニ從事ス(三十二年勅令第二百八十三號ヲ以テ定員ヲ改正シ三十二年勅令第七十一號ヲ以テ專任ノ二字ヲ加フ)

第七條 書記ハ判任トス各大林区署ヲ通シテ專任百五十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス(上全)

第八條 營林主事補ハ判任トシ各大林区署ヲ通シテ七百三十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事シ營林事務及森林調査ヲ分擔ス(三十二年勅令第二百八十三號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第九條 森林監守ハ判任トシ各大林区署ヲ通シテ六百二十六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ森林ノ保護ニ從事ス(三十二年勅令第二百八十三號三十二年勅令第七十一號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第十條 大林区署ノ事務ヲ分掌スル爲メ管轄内須要ノ地ニ小林区署ヲ置ク各小林区署長ハ一人營林主事ヲ以テ之ニ充テ大林区署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理ス(三十年勅令第四百五十三號ヲ以テ條中削除)

第十一條 (三十年勅令第四百五十三號ヲ以テ本條削除)

第十二條 大林区署ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十三條 小林区署ノ名稱位置及其ノ管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル(三十年勅令第四百五十三號ヲ以テ條中削除)

第十四條 明治二十六年勅令第四百十七號大林区署官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス(別表略之)

○ 林野整理局官制(明治三十二年四月勅令第四百五十三號)
朕林野整理局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

林野整理局官制

第一條 林野整理局ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ國有林野ノ處分、國有林ノ實測、施業案ノ編製、造林及森林買上ニ係ル特別經營ノ業務ヲ掌ル

第二大林区署所在地ニ林野整理支局ヲ置キ林野整理局ノ業務ヲ分掌セシム

第二條 林野整理局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

監督書記官

監督官

支局長

監督官補

技師

腕 判任

技手

支局長監督官補及技師ハ林野整理支局ニ屬及技師ハ林野整理局及支局ニ勤務セシム

第三條 局長ハ農商務省山林局長ヲシテ之ヲ兼ネシム農商務大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 書記官ハ專任二人トス上官ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌ル

第五條 監督官ハ專任四人トス上官ノ命ヲ承ケ支局業務ノ監督事務及局中各課ノ事務ヲ分掌ス

第六條 支局長ハ支局所在地ノ大林區署長タル林務官ヲシテ之ヲ兼ネシム上官ノ命ヲ承ケ所管ノ事

務ヲ掌理ス

第七條 監督官補ハ專任十六人トス林野整理業務ノ監督及支局中ノ庶務ヲ掌ル

第八條 技師ハ專任三十二人トス(三十二年勅令第七十四號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第九條 屬技手ハ通シテ專任三百二十六人トス(上全)

屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 林野整理支局ノ管轄區域ハ其ノ所在地大林區署ノ管轄區域ニ依ル

第十一條 農商務大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ林野整理支局出張所ヲ置クコトヲ得

第十〇臨時林野下戻處分調査ニ關スル職員(明治三十二年四月勅令第七十九號)

朕臨時林野下戻處分調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 臨時林野下戻處分ノ調査ヲ爲サシムル爲農商務省ニ左ノ職員ヲ置キ山林局ニ屬セシム

山林局事務官 奏任

山林局技師

山林局鑑定官 奏任

山林局屬 判任

山林局技手

第二條 山林局事務官ハ專任三人山林局技師ハ專任二人山林局鑑定官ハ專任一人山林局屬及技手ハ

通シテ專任六十九人ヲ以テ定員トス(三十二年勅令第七十九號ヲ以テ條中改正)

第三條 山林局鑑定官ノ官等ハ高等官六等以下トシ其ノ年俸ハ八百圓以下トス

第四條 農商務大臣ハ事務上必要ニ依リ第一條ノ職員ヲ大林區署ニ勤務セシムルコトヲ得

○林野整理審査會規則(明治三十二年四月勅令第七十九號)

朕林野整理審査會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

林野整理審査會規則

第一條 林野整理審査會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ國有林野ノ特別經營ニ關スル重要ノ事項ニ

就キ農商務大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申スルヲ以テ其ノ任務トス

第二條 林野整理審査會ハ會長一人委員十一人ヲ以テ組織ス
委員ハ農商務省高等官四人、内務省高等官一人、陸軍省、海軍省、大藏省、文部省及逓信省高等官各一人ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外五人以内ノ臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第四條 會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

會長委員及臨時委員ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第五條 會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ農商務大臣ニ具申ス

第六條 會長事故アルトキハ委員中上席ノ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第七條 林野整理審査會ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第八條 林野整理審査會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

書記ハ林野整理局判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 林野整理審査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

山縣○事務官 奏請

○鐵山監督官制(明治二十九年八月勅令第二百八十三號)ニ依リ鐵山監督官ニ鐵山監督官補ニ鐵山監督官書記ニ鐵山監督官事務掌理スルノ職ヲ設ケ

朕鐵山監督官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵山監督官制 丙一八ノ轉

第一條 鐵山監督署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鐵山監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 鐵山監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

鐵山監督官
鐵山監督官補
書記

第三條 鐵山監督署長ハ每署一人監督官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 鐵山監督官ハ奏任トシ各鐵山監督署ヲ通シテ專任十九人ヲ以テ定員トス鐵山監督署ニ分屬シテ事務ニ従事ス(三十三年勅令第二十六號)ニ以テ定員ヲ改ム

第五條 鐵山監督官補ハ判任トシ各鐵山監督署ヲ通シテ專任百十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス(上)

第六條 書記ハ判任トシ各鐵山監督署ヲ通シテ專任十六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス(全)

第七條 鐵山監督署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

(別表略ス)(三十一年勅令第二十九號)ニ以テ本表中改正

○臨時鑛區調查職員

明治三十一年七月
勅令第三百六十八號

朕臨時鑛區調査ニ關スル職員、件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時鑛區調査ヲ爲サシムル爲農商務省ニ左ノ職員ヲ置キ鑛山局ニ屬セシム

技師 專任三人

技手 專任四十二人

農商務大臣ノ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

○
農商務大臣ノ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

○
農商務大臣ノ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

○
農商務大臣ノ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

○
農商務大臣ノ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

○
農商務大臣ノ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

○
農商務大臣ノ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

○
農商務大臣ノ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

○
農商務大臣ノ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

○
農商務大臣ノ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

○
農商務大臣ノ事務ノ必要ニ依リ前項ノ職員ヲ鑛山監督署ニ勤務セシムルコトヲ得

技師 專任三十人 内一人ハ勅任トス

事務官 專任三人 勅任トス

長官 專任一人 勅任トス

第一條 製鐵所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵製造ノ事ヲ掌ル

第二條 製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第七十八號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

技師 專任三十人 内一人ハ勅任トス

事務官 專任三人 勅任トス

長官 專任一人 勅任トス

第一條 製鐵所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵製造ノ事ヲ掌ル

第二條 製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第七十八號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

技師 專任三十人 内一人ハ勅任トス

事務官 專任三人 勅任トス

長官 專任一人 勅任トス

第一條 製鐵所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵製造ノ事ヲ掌ル

第二條 製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第七十八號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

技師 專任三十人 内一人ハ勅任トス

事務官 專任三人 勅任トス

長官 專任一人 勅任トス

第一條 製鐵所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵製造ノ事ヲ掌ル

第二條 製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第七十八號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

技師 專任三十人 内一人ハ勅任トス

事務官 專任三人 勅任トス

長官 專任一人 勅任トス

第一條 製鐵所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵製造ノ事ヲ掌ル

第二條 製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第七十八號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

技師 專任三十人 内一人ハ勅任トス

事務官 專任三人 勅任トス

技術長ハ長官ノ命ヲ承ケ技術官ヲ指揮監督シ技術ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條 各部ニ部長ヲ置キ工務部製鐵部製鋼部製品部ニ在テハ技師經理部ニ在テハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ上官ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第十二條 農商務大臣ハ製鐵所豫算定額内ニ於テ製鐵所出張所ヲ設置スルコトヲ得

出張所所管ノ事務ハ農商務大臣之ヲ定ム

農事試驗場官制

○農事試驗場官制明治二十六年四月勅令第十八號

朕農事試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農事試驗場官制

第一條 農事試驗場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 農産ノ増殖改良ニ關スル試驗

二 巡回講話

三 土壤、肥料、農産物、農産製造品其他農業上ニ關係アル物料ノ分析鑑定(二十九年勅令第五十二號ヲ以テ改正)

第二條 農事試驗場 左ノ職員ヲ置ク

技師

技手

書記

第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ハ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル專任技師ハ三十八人ヲ以テ定員トス(二十九年勅令第五十二號及三十二年勅令第八十八號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス專任技手ハ二十五人ヲ以テ定員トス(上)

第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス專任書記ハ十三人ヲ以テ定員トス(上)

第七條 農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ農事試驗支場ヲ置キ農事試驗場職員ヲ派シ本場ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第八條 農事試驗場及支場ノ名稱位置及管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

○農商工高等會議規則明治三十年六月勅令第八十八號

朕農商工高等會議規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商工高等會議規則

第一條 農商工高等會議ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付農商務大臣ノ諮問ニ應ジ意見ヲ開申ス

- 第二條 農商工高等會議ハ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付關係各省大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第三條 農商工高等會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第四條 農商工高等會議ハ議長副議長各一人及議員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲ニ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時議員ヲ命スルコトヲ得
- 第六條 議長副議長議員及臨時議員ハ官吏又ハ農商工ニ關スル學識若ハ經驗アル者ノ中ニ就キ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第七條 議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ農商務大臣ニ具申ス
- 第八條 議長事故アルトキハ副議長ヲシテ事務ヲ代理セシム
- 第九條 農商工高等會議ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十條 議長副議長議員及幹事ニハ一箇年三百圓以内臨時議員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
- 第十一條 農商工高等會議ニ書記ヲ置ク議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第十二條 書記ハ農商務省判任官又ハ其ノ他ノ者ニ就キ之ヲ命ス
- 第十三條 農商務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ議員又ハ其ノ他ノ者ヲシテ農商工業ニ關スル諸般ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

附則

- 第十四條 従前ノ議長副議長議員臨時議員及幹事ハ別ニ辭令ヲ用キ本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カシタルモノトス
- 生絲検査所官制明治二十八年七月勅令第九十三號
- 朕生絲検査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 生絲検査所官制
- 第一條 各生絲検査所ニ左ノ職員ヲ置ク
- 所長
- 技師
- 技手
- 書記
- 第二條 所長ハ一人奏任トス技師ヲシテ之ヲ兼テシム農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス
- 第三條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル
- 第四條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス
- 第五條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 各生絲検査所ヲ通シテ專任技師七人專任技手十七人專任書記八人ヲ以テ定員トス(三十年勅令第三十二年勅令第二百八十六號三十二年勅令第七號三十三年勅令第二百五十一號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

○生絲検査所臨時商議員規程明治二十九年一月勅令第一號

朕生絲検査所臨時商議員規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

生絲検査所臨時商議員規程

第一條 生絲検査所ニ臨時商議員十名以内ヲ置クコトヲ得

臨時商議員ハ横濱若クハ神戸ニ於テ現ニ生絲ノ貿易ニ從事シ經驗アル者ノ中ヨリ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第二條 臨時商議員ハ農商務大臣ノ諮詢ニ應シ生絲ノ検査及之カ施行ニ必要ナル事項ヲ審議スルモノトス

○蠶業講習所官制明治三十三年三月勅令第八十九號

朕蠶業講習所官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

蠶業講習所官制

第一條 蠶業講習所ハ二箇所トス農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 蠶業ニ關スル講習

二 蠶業ニ關スル試験及調査

三 巡回講話

四 蠶種配布

五 質問應答

第二條 蠶業講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

舎監

技手

書記

第三條 所長ハ一人技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 舎監ハ二人技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ講習生ノ取締ヲ掌ル

第六條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ニ從事ス

第七條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 蠶業講習所ヲ通シテ專任技師七人專任技手十二人專任書記六人ヲ以テ定員トス

第九條 蠶業講習所ノ位置及名稱ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

○水産講習所官制明治三十年三月
勅令第四十七號

朕水産講習所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水産講習所官制

第一條 水産講習所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ水産ノ傳習及試験ニ關スル事務ヲ掌ル(三十二年勅令第
二百八十九號ヲ
以テ修正)

第二條 水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第七十二號ヲ
以テ修正)

所長 一人

監事 專任一人

技師 專任四人

教授 專任二人

技手 專任八人

助教 專任三人

書記 專任四人

第三條 所長ハ水産局長ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス(三十
二年勅令第
二百八十九
號ヲ以テ修正)

第四條 監事ハ奏任トス所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ處理ス

第五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第六條 教授ハ奏任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第八條 助教ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第九條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 農商務大臣ハ講習所ニ須要ニ依リ水産講習所ニ商議委員ヲ設クルコトヲ得

第十一條 (三十二年勅令第
二百八十九號ヲ以テ削除)

○種馬牧場及種馬所官制明治二十九年四月
勅令第百三十九號

朕種馬牧場及種馬所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

種馬牧場及種馬所官制

第一條 種馬牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 馬匹ノ改良蕃殖、育成及其ノ試験ニ關スル事項

二 種馬ノ補充及配布ニ關スル事項

第二條 各種馬牧場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長

技師

技手

書記

第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス

第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 種馬所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 種馬ノ飼養管理ニ關スル事項

二 牝牡馬配合ニ關スル事項

三 民有種馬ノ監督ニ關スル事項

四 種付牝馬ノ産駒成績ニ關スル事項

第八條 各種馬所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

第九條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第十條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十二條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十三條 各種馬牧場及各種馬所ヲ通シテ專任技師九人專任技手二十六人專任書記十二人ヲ以テ定員トス(三十七年勅令第二百九十二號三十二年勅令第八十號七號三十二年勅令第七十三號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第十四條 種馬牧場ハ二箇所以内トシ種馬所ハ十六箇所以内トス

第十五條 種馬牧場及種馬所ノ名稱位置並種馬所ノ管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

○ 種牛牧場官制明治三十三年三月勅令第八十八號

種牛牧場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 種牛牧場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 牛種ノ改良、繁殖、育成及其ノ試験ニ關スル事項

二 種牛ノ配付及普及ニ關スル事項

第二十三類 種牛牧場官制

六百二十五

三 配布種牛ノ監督ニ關スル事項
四 種付牝牛ノ產犢成績ニ關スル事項

第二條 種牛牧場ニ左ノ職員ヲ置ク

場長 一人

技師 專任一人

技手 專任三人

書記 專任二人

第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス

第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 種牛牧場ノ名稱位置ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○鹽業調査所官制明治三十二年三月
勅令第九十一號

朕鹽業調査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鹽業調査所官制

第一條 鹽業調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鹽業改良ニ關スル調査及試験ノ事務ヲ掌ル

第二條 鹽業調査所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

技師 專任四人

技手 專任八人

書記 專任二人

第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル

技師ノ内一人ハ勅任ト爲スコトヲ得

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス

第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

第七條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

○

○鹽業調査所ニ顧問ヲ置ク明治三十二年六月勅令第三百二十九號

朕鹽業調査所ニ顧問ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 鹽業調査所ニ顧問一人ヲ置クコトヲ得

第二條 顧問ハ所務ニ關シ意見ヲ開陳ス

第三條 顧問ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 顧問ハ勅任官ノ待遇ヲ受ク

第五條 顧問ニハ俸給豫算定額内ニ於テ年俸三千圓ヲ給ス

○廣島鑛山官制明治二十六年十月勅令第四百十號

朕廣島鑛山官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

廣島鑛山官制

第一條 廣島鑛山ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ廣島鑛山ノ事業經營ニ關スル事務ヲ掌ル(三十一年勅令第三百九十四號)

第二條 廣島鑛山ニ左ノ職員ヲ置ク

管理長

技師

技手

技師

技手

管理長

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

廣島鑛山官制

第二十三類 工業試驗所官制

第八條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

附則

第七條 技師ハ一人ヲ以テ定員トス 管理長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ管理ス(三十二年勅令第二百九十九號)

第六條 技師ハ一人ヲ以テ定員トス 管理長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ管理ス(三十二年勅令第二百九十九號)

第五條 管理長ハ廣島縣知事理事ハ廣島縣書記官ヲ以テ之ニ充ツ(三十二年勅令第二百九十九號)

第四條 理事ハ管理長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル

第三條 管理長ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廣島鑛山一切ノ事務ヲ掌理ス

技師

技手

○工業試驗所官制明治三十三年六月勅令第三百五十八號

朕工業試驗所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工業試驗所官制

第一條 工業試驗所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ工業ニ關スル試驗、分析及鑑定ノ事ヲ掌ル

第二條 工業試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人
 技師 四人
 技手 八人
 書記 三人

第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス
 第四條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス
 第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス
 第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○臨時工場調査ニ關スル職員ヲ置ク
明治三十三年四月 勅令第四百九號
 臨時工場調査ニ關スル職員ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 工場及職工ニ關スル事項ノ調査ヲ掌理セシムル爲農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置ク
 書記官 專任一人
 屬 專任三人

附則 ○

○臨時油田調査ニ關スル職員
明治三十三年六月 勅令第四百八十一號
 臨時油田調査ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 油田ノ調査ヲ爲サシムル爲農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ地質調査所ニ屬セシム
 技師 專任二人
 技手 專任九人
 屬 專任一人

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○第五回内國勸業博覽會事務局官制
明治三十三年六月 勅令第四百五十六號
 第五回内國勸業博覽會事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第五回内國勸業博覽會事務局官制
 第一條 第五回内國勸業博覽會事務局ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ第五回内國勸業博覽會ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル
 第二條 第五回内國勸業博覽會事務局ニ總裁一人ヲ置キ第五回内國勸業博覽會ニ關スル事項ヲ總裁セシム

總裁ハ皇族中ヨリ勅ニリ之ヲ命ス

第二條 第五回内國勸業博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

副總裁 一人

審査總長 一人

事務官長 一人

審査部長

事務官

審査官

書記

第四條 副總裁ハ農商務大臣ヲ以テ之、充テ審査總長ハ勅任官ノ中ヨリ之ヲ命シ事務官長ハ農商務
總務長官ヲ以テ之ニ充テ事務官ハ高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

副總裁、審査總長、事務官長及事務官ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ク

審査部長及審査官ハ學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ命ス

審査部長、審査官ニシテ官吏タル者ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ケ其ノ官吏ニ非サル者ハ奏任官ノ待

遇ヲ受ク

書記ハ勅任官又ハ官吏ニ非サル者ノ中ヨリ之ヲ命ス

書記ハ勅任官ノ待遇ヲ受ク

第五條 重要ノ事項ヲ審議調査セシムル爲學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ選定シテ評議員若干人ヲ置

クコトヲ得

第六條 審査總長、審査部長、事務官、審査官及評議員ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ

命シ書記ハ副總裁之ヲ命ス

第七條 副總裁ハ所部ノ職員ヲ統督シ局務ヲ總判ス

第八條 事務官長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

第九條 事務官ハ副總裁又ハ事務官長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十條 審査總長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條 審査部長ハ副總裁又ハ審査總長ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ分掌ス

第十二條 審査官ハ副總裁、審査總長及審査部長ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ掌

第十三條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○

○臨時博覽會事務局官制明治二十九年五月
勅令第百八十九號

朕臨時博覽會事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時博覽會事務局官制

第一條 臨時博覽會事務局ハ之ヲ農商務省ニ置ク明治三十三年佛國巴里府ニ於テ開設スヘキ萬國博覽會參同ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス

第二條 臨時博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク(三十年勅令第二百三十一號ヲ以テ本條中改正)

總裁 一人

副總裁 二人

事務官長 一人

事務官 十八

評議員 若干人

鑑査官 若干人

書記 若干人

第三條 總裁ハ農商務大臣、副總裁ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ(三十一年勅令第三十三號ヲ以テ改正)

事務官長事務官評議員及鑑査官ハ官吏又ハ學識經驗アル者ノ中ニ就キ選定シテ之ニ充ツ其ノ官吏ニ非サル者ノ取扱ハ評議員ヲ除ク外勅任官又ハ委任官ニ準ス

書記ハ判任官其ノ他ノ者ヲ以テ之ニ充テ其ノ判任官ニ非サル者ノ取扱ハ判任官ニ準ス

第四條 總裁ハ諸部ノ職員ヲ統督シ局務ヲ總判ス

第五條 副總裁以下ノ職員ハ總裁ノ奏請ニ依リ裁可ヲ經テ内閣ニ於テ之ヲ命ス但書記ハ總裁之ヲ命ス

第六條 總裁ハ本局ノ事務ニ關シ諸規則ヲ定メ及警視總監北海道廳長官府縣知事ニ指令又ハ訓令スルコトヲ得

第七條 總裁ハ本局ノ經費豫算定額内ヲ以テ外國人ヲ雇入レ又ハ本局ノ事務ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 總裁ハ本局ノ經費豫算定額内ヲ以テ僱員ヲ使用シ又ハ第二條ノ職員及第七條ノ者ニ賞與シ又ハ報酬スルコトヲ得

第九條 副總裁ハ總裁ヲ輔ケ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十條 事務官長ハ總裁又ハ副總裁ノ命ヲ承ケ一切ノ事務ヲ掌理ス

第十一條 事務官ハ總裁副總裁又ハ事務官長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十二條 評議員ハ總裁ノ諮詢ニ應シ重要ノ事項ヲ審議ス

第十三條 鑑査官ハ總裁ノ命ヲ承ケ出品鑑査及之ニ關スル事務ニ從事ス

第十四條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○遞信省

沿革略記

明治十八年十二月第七十號達ヲ以テ遞信省ヲ置キ、郵便電信燈塔管船ノ事務ヲ管セシム。十九年二月勅令第二號ヲ以テ官制ヲ定メ省中ニ遞選、電信燈塔管船會社ノ五局ヲ置ク。同年三月勅令第八號ヲ以テ地方郵便官制ヲ定ム。同年四月勅令第十九號ヲ以テ商船學校電信修技學校ノ官制ヲ定ム。同年同月勅令第二十三號ヲ以テ遞信管理局長官位及管轄區域ヲ定ム。同年八月遞信省令第二十號ヲ以テ遞信建築官官制ヲ定メ二十年三月遞信省令第一

第一條 管船局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 航路標識ニ關スル事項

二 航路、船舶、海員、水運及保護海事會社ノ監督ニ關スル事項

第七條 電信燈臺用品製造所ニ於テハ電信燈臺用品ノ作業ニ關スル事務ヲ掌ル
所長ハ遞信省官ヲシテ之ヲ兼ネシム

第八條 遞信省ニ專 技師二十一人ヲ置ク但シ内三人以内ヲ勅任トス(三十二年勅令第七十七號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第九條 遞信省屬ハ二百六十九人ヲ以テ定員トス(上)

第十條 遞信省ニ專任技師七十二人ヲ置ク(上)

附則

第十一條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

○鐵道作業局官制(明治三十年八月勅令第二百六十八號)

朕鐵道作業局官制ヲ裁可シ茲ニシテ公布セシム

鐵道作業局官制

第一條 鐵道作業局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ官設鐵道ノ建設、保存及運輸ノ業務ヲ掌ル

第二條 鐵道作業局ニ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第二百五十一號同年勅令第二百九十六號三十二年勅令第八十五號ヲ以テ職員ノ項ヲ改正ス)

長官

部長

鐵道事務官

鐵道事務官補

鐵道技師

鐵道書記

鐵道技師

鐵道書記補

第三條 長官ハ一人勅任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 (三十二年勅令第二百九十六號ヲ以テ削除)

第五條 部長ハ定員五人奏任トシ長官ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ分掌ス

第六條 鐵道事務官ハ專任十九人奏任トス各部ニ分屬シ部務ヲ掌ル(三十二年勅令第二百五十一號同年勅令第二百九十六號ヲ以テ條中改正)

第六條ノ二 鐵道事務官補ハ專任十一人奏任トス各部ニ分屬シテ部務ヲ掌ル(三十二年勅令第八十號ヲ以テ本條追加)

第七條 鐵道技師ハ專任七十六人ヲ以テ定員トシ内三人以内ヲ勅任トス(三十二年勅令第二百五十一號同年勅令第二百九十六號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第八條 鐵道書記ハ九百九十九人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス(上)

第九條 鐵道技師ハ四百九人ヲ以テ定員トス(三十二年勅令第二百五十一號同年勅令第二百九十六號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第十條 鐵道書記補ハ六百八十四人判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク(三十二年勅令第二百五十一號及同年勅令第二百九十六號ヲ以テ定員ヲ改正)

三十二年勅令
第三百二十七號
ヲ以テ鐵道事務
官補ニ缺員ヲ

ルトキハ豫算
定額内ニ於テ
員ヲ使用ス
ルコトヲ得

第十一條 鐵道作業局ニ左ノ五部ヲ置ク

建設部

工務部

汽車部

運輸部

評理部

各部事務ノ分掌ハ逓信大臣之ヲ定ム

第十二條 建設部長工務部長汽車部長運輸部長ハ鐵道技師ヲシテ之ヲ兼キシム(三十一年勅令第二百九十六號ヲ以テ技師ヲ技師ニ改ム)

第十三條 逓信大臣ハ必要ニ應シ局中ニ課ヲ置キ又ハ地方ニ鐵道業務取扱ノ部所ヲ置キ各部ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

課ニ課長部所ニ部所長ヲ置キ高等官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第十四條 明治二十九年勅令第八十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○鐵道會議規則(明治二十七年八月勅令第五百五十三號)

朕鐵道會議規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道會議規則

第一條 鐵道會議ハ逓信大臣ノ監督ニ屬シ鐵道敷設法第十五條ニ掲グル事項ヲ審議シ及鐵道ニ關スル事項ニ就キ逓信大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申スルモノトス

第二條 鐵道會議ハ鐵道ニ關スル事項ニ就キ主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 鐵道會議ハ事務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ逓信大臣ヲ認可ヲ受クヘシ

第四條 鐵道會議ハ議長一人議員二十一人以内ヲ以テ之ヲ組織ス(二十九年勅令第二百五十七號ヲ以テ次項トモ改正)

逓信省高等官四人陸軍省及參謀本部高等官二人海軍省及海軍軍令部高等官二人内務省大藏省農

商務省高等官各一人ハ議員ニ加フヘキモノトス(三十年勅令第三百五十七號ヲ以テ本項中改正)

第五條 特別ノ事件ヲ審議スル爲メ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時議員ヲ命スルコトヲ得

第六條 議長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官シ内ヨリ命スヘキ議員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其ノ他ノ議員及臨時議員ハ逓信大臣ノ奏請

ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條 議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ逓信大臣及主任各省大臣ニ具申ス

第八條 議長事故アルトキハ其以指名シタル議員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條 鐵道會議ハ幹事二人ヲ置キ逓信省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

當ヲ給スルコトヲ得

第十一條 鐵道會議ニ書記ヲ置ク議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
書記ハ遞信屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 書記ニハ一箇年二百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附則

第十三條 從前ノ議長、議員及臨時議員ハ別ニ辭令ヲ用ヰス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタル
モノトス

○

○郵便及電信局官制明治三十年八月
勅令第二百六十九號

朕郵便及電信局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便及電信局官制

第一條 郵便及電信局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便電信ノ事務ヲ執行スルコトヲ掌ル

第二條 郵便及電信局ヲ分テ一等郵便電信局、二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局、三等郵便電
信局、三等郵便局、三等電信局トス

第三條 一等郵便電信局ニ於テハ管轄内ノ各郵便電信局、郵便局、電信局ヲ監督ス
遞信大臣ヲ指定シタル一等郵便電信局ニ於テハ電信建築ノ事務ヲ兼掌ス

遞信大臣ハ二等郵便電信局、二等郵便局ヲシテ其ノ指定シタル區域内ノ三等郵便電信局、三等郵便
局、三等電信局監督事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトアル可シ

遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便及電信ノ支局所ヲ置キ郵便電信ノ業務ヲ分掌セシムルコト
ヲ得

第四條 一等郵便電信局ニ左ノ職員ヲ置ク
局長

通信事務官

通信書記

通信書記補

電信建築ノ事務ヲ兼掌スル一等郵便電信局ニハ前項職員ノ外通信技師通信技手ヲ置ク
第五條 二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局ニ左ノ職員ヲ置ク
局長

通信書記

通信書記補

第六條 一等郵便電信局、二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局ニ通信事務官補ヲ置クコトヲ得
第七條 三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局ニ左ノ職員ヲ置ク
局長

第八條 一等郵便電信局長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第九條 二等郵便電信局長、二等郵便局長、二等電信局長ハ通信書記ヲ以テ之ニ充ツ所轄一等郵便電信局長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十條 三等郵便電信局長、三等郵便局長、三等電信局長ハ判任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十一條 通信事務官ハ奏任トス第八條ニ依リ局長タル者ノ外各局ニ分屬シ局長ノ事務ヲ助ク

第十二條 通信技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十三條 通信事務官補ハ奏任トス第九條ニ依リ局長タル者ノ外各局ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第十四條 通信書記ハ判任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ局務ニ從事ス

第十五條 通信技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第十六條 通信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク

第十七條 一等郵便電信局ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十八條 二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局、三等郵便電信局、三等郵便局、三等電信局ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

(別表略之)

○在外郵便電信局郵便局官制明治三十年八月勅令第二百七十號

朕在外郵便電信局、郵便局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

在外郵便電信局、郵便局官制

第一條 在外各地ノ郵便電信局、郵便局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、電信ノ業務ヲ執行スルコトヲ掌ル

第二條 在外各地ノ郵便電信局、郵便局ニ左ノ職員ヲ置ク
局長
通信書記
通信書記補

第三條 在外各地ノ郵便電信局長、郵便局長ハ奏任又ハ判任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ局務ニ從事ス

第五條 通信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ通信書記ノ事務ヲ助ク

第六條 通信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ通信書記ノ事務ヲ助ク

第六條 在外郵便電信局、郵便局ノ名稱、位地ハ遞信大臣之ヲ定ム

○郵便爲替貯金管理所官制明治三十年八月勅令第二百七十一號

朕郵便爲替貯金管理所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便爲替貯金管理所官制

第一條 郵便爲替貯金管理所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便爲替資金郵便貯金ヲ管理シ及郵便爲替郵便貯金ノ検査計算ニ關スル事務ヲ掌理スル所トス

第二條 郵便爲替貯金管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

通信事務官

通信事務官補

通信書記

通信書記補

第三條 郵便爲替貯金管理所長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 通信事務官、通信事務官補ハ奏任トス第三條ニ依リ所長タル者ノ外所長ノ事務ヲ助ケ又ハ

郵便爲替貯金管理支所長トナリテ其ノ事務ヲ掌理ス

第五條 通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記、簿記、計算ノ事務ニ従事ス

第六條 通信書記補ハ判任トス通信書記ノ事務ヲ助ク

第七條 遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便爲替貯金管理支所ヲ置キ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

○航路標識管理所官制明治二十六年十月勅令第五百五十四號

朕航路標識管理所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

航路標識管理所官制

第一條 航路標識管理所ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航路標識ノ工事及其ノ保守ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 航路標識管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

書記

技手

看守

第三條 所長ハ一人奏任トス 遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス(三十年勅令第二百七)

第四條 技師ハ六人ヲ以テ定員トス 所長ノ指揮ヲ承ケ所中ノ事務ヲ分掌ス(二十九勅令第八十三)

第五條 書記ハ判任トシ二十四人ヲ以テ定員トス 所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス(二十九勅令第六十三)

第六條 技手ハ二十六人ヲ以テ定員トス 所長ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ工事ニ従事ス(二十九勅令第八十三)

第七條 看守ハ判任トス 上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ従事ス 其定員ハ左ノ如シ

一等燈臺 各三人

二等燈臺 各三人

三等燈臺

四等燈臺

五等燈臺

六等燈臺

等外燈臺

各二人

第八條 本令ハ明治二十六年十二月十日ヨリ施行ス(三十年勅令第六十三)

附則

第八條 本令ハ明治二十六年十二月十日ヨリ施行ス(三十年勅令第六十三)

○航路標識管理所ニ兼任ノ技師書記及技手ヲ置ク(明治二十八年十月勅令第五十一號)

朕航路標識管理所ニ兼任ノ技師書記及技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

航路標識管理所ニハ技師書記及技手定員ノ外必要ニ應シ兼任ノ技師書記及技手ヲ置クコトヲ得

○港務局官制(明治三十一年七月勅令第五十二號)

朕港務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

港務局官制

第一條 港務局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ開港港則ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 各港務局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク(三十一年勅令第二百九十七號三十三勅令第八十三號ヲ以テ職員ノ項ヲ改正ス)

局長 四人

港務官 專任四人

醫官 專任三人

書記 專任十六人

技手 專任四人

港吏 專任八人

港吏補 專任四十人

第三條 港務局長ハ奏任トス遞信大臣ノ命ヲ受ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ港長ノ事ヲ行フ

第四條 港務官ハ奏任トス各港務局ニ分屬シ局長ノ事務ヲ助ク(三十二年勅令第二百九十七號ヲ以テ改正)

第五條 (三十二年勅令第二百九十六號ヲ以テ削除)

第六條 醫官ハ奏任トス局長ノ指揮ヲ承ケ衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 港吏ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ港務ニ從事ス

第九條 港吏補ハ判任トス港吏ノ事務ヲ助ク

第十條 遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ開港港則チ施行スル開港ニ港務局支局ヲ置クコトヲ得(三十三年勅令第百八十三號ヲ以テ改正)

港務局支局ニ支局長ヲ置キ港長ノ事ヲ行ハシメ港務官ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 港務局港務局支局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム(三十三年勅令第百八十三號ヲ以テ本條追加)

附則

○

○海事局官制(明治三十二年六月勅令第二百六十三號)

朕海事局官制ヲ裁可シ茲之ヲ公布セシム

海事局官制

第一條 海事局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ船舶職員及水先人ノ試験船舶ノ測度検査其ノ他法令ノ定ムル所ニ從ヒ管海官廳ノ事務ヲ掌ル

第二條 海事局ノ名稱位置及管轄區域ハ別表ニ依ル

第三條 海事局管轄區域内須要ノ地ニ海務署又ハ出張所ヲ置キ局務ヲ分掌セシム其ノ名稱位置及管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

第四條 各海事局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク(三十三年勅令第百八十一號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

局長 奏任 四人

海事官 奏任 專任四十九人

書記 判任 專任三十五人

技手 專任三十三人

第五條 局長ハ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第六條 海事官ハ海務署長タル者ノ外海事局又ハ海務署ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第七條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條 海事官ハ臨時命ヲ承テ遞信省管船局ノ事務ヲ助ク

第九條 海務署ニ署長ヲ置キ海事官ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ施行ス

第十一條 本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ船舶司檢所司檢官ニシテ船舶司檢所長

ノ職ニ在ル者ハ海事局長ニ船舶司檢所司檢官及船舶司檢所司檢官補ハ海事官ニ船舶司檢所書記ハ海事局書記ニ船舶司檢所技手ハ海事局技手ニ任セラレタルモノトス

(別表略之)

○海員審判所職員定員及任用令 明治三十年四月 勅令第七十八號

朕海員審判所職員定員及任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海員審判所職員定員及任用令

第一條 高等海員審判所職員定員ハ左ノ如シ

- 所長 一人 (三十二年勅令第六十一號三十二年勅令第二十六十五號ヲ以テ定員ヲ改ム)
- 審判官 十二人 (三十二年勅令第六十一號三十二年勅令第二十六十五號ヲ以テ定員ヲ改ム)

理事官 四人 (三十二年勅令第六十一號三十二年勅令第二十六十五號ヲ以テ定員ヲ改ム)

書記 四人 (三十二年勅令第六十一號三十二年勅令第二十六十五號ヲ以テ定員ヲ改ム)

第二條 地方海員審判所職員定員ハ各所ヲ通シテ左ノ如シ

所長 一人 (三十二年勅令第六十一號三十二年勅令第二十六十五號ヲ以テ定員ヲ改ム)

審判官 二人 (三十二年勅令第六十一號三十二年勅令第二十六十五號ヲ以テ定員ヲ改ム)

理事官 一人 (三十二年勅令第六十一號三十二年勅令第二十六十五號ヲ以テ定員ヲ改ム)

書記 一人 (三十二年勅令第六十一號三十二年勅令第二十六十五號ヲ以テ定員ヲ改ム)

第三條 高等海員審判所長ハ勅任トシ遞信省高等官ヲ以テ之ヲ兼ネシム

高等海員審判所審判官ハ奏任トシ中十六人ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム (三十二年勅令第四百十九號三十二年勅令第六十五號ヲ以テ本項中改正ス)

高等海員審判所理事官ハ奏任トシ中一名ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム (三十二年勅令第四百十九號三十二年勅令第六十五號ヲ以テ本項中改正ス)

高等海員審判所書記ハ判任トシ中三名ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム (三十二年勅令第四百十九號三十二年勅令第六十五號ヲ以テ本項中改正ス)

地方海員審判所長ハ奏任トシ中一名ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム (三十二年勅令第四百十九號三十二年勂令第六十五號ヲ以テ本項中改正ス)

地方海員審判所審判官ハ奏任トシ中二十四名ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム (三十二年勅令第四百十九號三十二年勂令第六十五號ヲ以テ本項中改正ス)

地方海員審判所書記ハ判任トシ中三名ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム (三十二年勅令第四百十九號三十二年勂令第六十五號ヲ以テ本項中改正ス)

地方海員審判所審判官ハ奏任トシ中二十四名ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム (三十二年勂令第四百十九號三十二年勂令第六十五號ヲ以テ本項中改正ス)

地方海員審判所書記ハ判任トシ中三名ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム (三十二年勂令第四百十九號三十二年勂令第六十五號ヲ以テ本項中改正ス)

地方海員審判所審判官ハ奏任トシ中二十四名ハ遞信部内ノ高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム (三十二年勂令第四百十九號三十二年勂令第六十五號ヲ以テ本項中改正ス)

九號ヲ以テ本項ヲ追加シ三十二年勅令第百六十號ヲ以テ中二十四名ハノ六字ヲ追加ス

地方海員審判所理事官ハ奏任トス

第五條 高等海員審判所審判官理事官及地方海員審判所審判官理事官ハ文官任用令第二條ニ該當ス

ル者又ハ海軍高等武官主理判事檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者又ハ遞信部内ノ高等官ヨリ任用ス
(三十年勅令第四百九十九號三十二年勅令第百六十號三十二年勅令第百八十二號ヲ以テ條中改正)

○海員審判所事務章程 明治三十年六月勅令第百八十九號

朕海員審判所事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海員審判所事務章程

第一條 審判所長ハ海員審判所ノ事務ヲ總理ス

審判所長故障アルトキハ審判官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ先ナル者之ヲ代理ス

第二條 審判所長ハ自ら審判長ト爲リ若ハ審判官ニ審判長ヲ命スルコトヲ得

第三條 各審判事件ノ掛審判官ハ審判長ノ指定ニ依ル

第四條 四日以上引續クヘキ見込アル審判ニ於テ審判所長ハ補充審判官一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此補充審判官ハ其ノ審判中或ル審判官ノ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第五條 審判官若ハ理事官差支アリテ同一審判所ノ審判官若ハ理事官中其ノ職務ヲ行フヘキ者

ナキ場合ニ遞信大臣ニ於テ其ノ事件緊急ヲ要スト認ムルトキハ他ノ審判所ノ審判官若ハ理事官ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第六條 審判ノ公開ヲ停止スルハ決定ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

第七條 審判ハ定數ノ審判官之ヲ評議シ及之ヲ言渡ス

評議ハ其ノ審判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ頗未立各審判官ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ秘密ヲ守ルコトヲ要ス

評議ノ際各審判官意見ヲ述フルノ順序ハ官等ノ最モ低キ者ヲ始トシ審判長ヲ終トス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ後ナル者ヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命審判官ヲ始トス

第八條 審判官ハ審判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 裁決及決定ハ過半數ノ意見ニ依ル其ノ意見三説以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ル迄被審人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第十條 裁決ヲ言渡シタルトキハ審判所長ハ直ニ遞信大臣ニ裁決ノ原本ヲ差出スヘシ

第十一條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シ取調ヲ爲シタル後審判ヲ要セスト思料スルトキハ理由ヲ具シ審判所長ヲ經由シテ遞信大臣ニ報告スヘシ

第十二條 審判所ニ於テ或ル事件ニ付審判ヲ開始セス若ハ繼續セスト決定シタルトキハ審判所

長ハ之ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ
 第十三條 審判所長ハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ事務取扱ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得
 第十四條 事務ノ執行ニ關シ遞信大臣ハ各審判所長ヲ監督シ高等海員審判所長ハ各地方海員審判所長ヲ監督ス

職務ノ執行ニ關シ高等海員審判所理事官ハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ地方海員審判所理事官ハ遞信大臣及高等海員審判所理事官ノ命令ニ從フ

○地方海員審判所管轄區域明治三十二年六月勅令第二百六十四號
 朕地方海員審判所管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

附則

本令ハ明治三十二年六月十六日ヨリ施行ス
 明治三十年勅令第九十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(管轄區域略之)

○管轄區域略之

○電話交換局官制明治三十年八月勅令第二百七十四號

朕電話交換局官制 改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

電話交換局官制

第一條 電話交換局ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ電話交換ノ業務ヲ執行スル所トス

第二條 電話交換局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

通信技師

通信書記

通信技手

遞信大臣ハ必要ナシト認ムル場合ニ於テ電話交換局ニ通信技師ヲ置カサルコトヲ得

第三條 局長ハ通信技師又ハ通信技手ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 通信技師ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局中ノ事務ヲ分掌ス

第五條 通信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ電話交換ノ工事ニ従事ス

第七條 電話交換局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム

第八條 遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ電話交換支局ヲ設置シ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

○郵便及電信局在外郵便電信局郵便局郵便為替貯金管理所及電話交換局職員定員明治三十年八月勅令第三百七十六號 於郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局、郵便為替貯金管理所及電話交換局職員定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局、郵便為替貯金管理所及電話交換局職員ノ定員ハ各局所ヲ通シテ左ノ通トス但シ在外郵便電信局長郵便局長ハ三等郵便電信局長三等郵便局長三等電信局長ハ定員ノ外トス(三十二年勅令第三百七十七號第三百七十八號及三十二年勅令第三百七十九號第三百八十號ヲ以テ定員ヲ改メ)

通信事務官 專任二十六人

通信事務官補 專任三十一人

通信技師 專任三十三人

通信書記 專任三千五百二十三人

通信技手 專任四百二十八人

通信書記補 專任五千二百九十四人

第二條 各局所ノ定員ハ遞信大臣之ヲ定ム

○商船學校官制明治二十九年三月勅令第八十一號

第三十一年勅令
第二百七十七號
以テ電信書
記補ニ於テ
ハ職員ヲ
定ムルニ
於テ
ル
ト
ス

朕商船學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商船學校官制

第一條 商船學校ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海、運用、機關ニ關スル學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條 商船學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

幹事

教授

學生監

教諭(三十二年勅令第三百七十五號ヲ以テ追加フ)

分校長

助教

書記

第三條 校長ハ勅任又ハ奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス(三十二年勅令第三百六十六號ヲ以テ

物件又ハノ
四字ヲ加フ)

第四條 幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第五條 教授ハ奏任トシ專任十一人ヲ以テ定員トス學生ノ教授ヲ掌ル(三十二年勅令第三百五十四號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

第六條 學生監ハ奏任トシ專任一人ヲ以テ定員トス學生ノ取締ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 教諭ハ奏任トシ專任十人ヲ以テ定員トス按業ヲ教授シ又ハ實地練習ヲ監督ス(三十年勅令第二百七十五號)

第三十一年勅令第五百五十四號ヲ以テ改正

第八條 分校長ハ教授又ハ教諭之ヲ兼任シ分校ノ事務ヲ掌理ス(三十年勅令第二百七十五號ヲ以テ改正)

第八條ノ二 助教ハ判任トシ專任八人ヲ以テ定員トス教授及教諭ノ職掌ヲ佐ク(三十年勅令第二百七十五號ヲ以テ追加)

第九條 書記ハ判任トシ專任七人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十條 遞信大臣ハ簡易ノ學術及技藝ヲ教授セシムルカ爲メ必要ト認ムル地ニ商船學校分校ヲ置クコトヲ得

第十一條 遞信大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ遞信大臣之ヲ命ス

附則

第十二條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○東京郵便電信學校官制(明治二十四年七月勅令第五百五十四號)

朕東京郵便電信學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京郵便電信學校官制

第一條 東京郵便電信學校ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便電信事業上須要ノ學術及技藝ヲ教授スル所

第二條 東京郵便電信學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

幹事

教授

助教

書記

第三條 校長ハ一人奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理ス(三十二年勅令第六百六號ヲ以テ條中改正)

第四條 幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス校長ノ監督ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

第五條 教授ハ奏任トシ專任九人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル(二十九勅令第六百七十三號ヲ以テ專任ノ二字ヲ加シ三十二年勅令第六百六號第三十三年勅令第六百七十九號ヲ以テ定員ヲ改メ)

第六條 助教ハ判任トシ專任十人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職掌ヲ助ク(二十九勅令第六百七十三號第三十二年勅令第六百六號及三十三勅令第六百七十九號ヲ以テ條中改正)

第七條 書記ハ判任トシ七人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス(三十三年勅令第六百七十九號ヲ以テ定員ヲ改正)

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

○會計検査院法 明治二十二年五月 法律第十五號

沿革略記 明治十三年三月第十八號法律ヲ以テ太政官中ニ會計検査院ヲ置キ取扱事務ヲ定ム○同年同月第十九號法律ヲ以テ會計検査院ニ院長幹事検査官監査ノ職員ヲ置ク○十四年四月第三十五號法律ヲ以テ會計検査院職制章程ヲ更定ス
 ●十五年一月第五號法律ヲ以テ會計検査院職制章程ヲ改正シ院長、副院長、検査官、書記官、検査官補ノ職員ト爲ス●十九年四月勅令第二十號ヲ以テ會計検査院ノ官制ヲ定ム○二十二年五月法律第十五號ヲ以テ會計検査院法ヲ定ム●二十三年十月會計検査院ニ試補ヲ置ク○二十四年十一月勅令第二十號ヲ以テ會計検査院職制章程ヲ改正ス●二十六年十月勅令第五十八號ヲ以テ會計検査院ノ職制ヲ改定ス●二十九年五月法律第九十二號ヲ以テ會計検査院職制章程ヲ改定ス●三十一年十月勅令第三百一號ヲ以テ會計検査院ノ定員ヲ改正ス●三十二年十二月勅令第四百五十七號ヲ以テ會計検査院職制章程ヲ改正ス●三十三年四月勅令第三百十七號ヲ以テ會計検査院ノ定員ヲ改正ス○同年同月勅令第三百三十八號ヲ以テ會計検査院臨時設置ノ件ヲ廢止ス○同年同月法律第八十號ヲ以テ會計検査院事務支應ヲ廢止ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計検査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計検査院法

第一章 組織

- 第一條 會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス
- 第二條 會計検査院ハ院長一員部長三員検査官十二員ヲ置キ之ヲ會計検査官トシ別ニ書記官二員検査官補二十員及屬若干員ヲ置ク(二十九法律第九十號三十二年法律第八十一號ヲ以テ検査官補ノ定員ヲ改正ス)
- 第三條 院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ検査官書記官及検査官補ハ奏任トシ屬ハ判任トス
- 第四條 院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス

二十九勅令
 第三百十號
 以テ院長ハ親
 任官ノ待遇ヲ
 賜フ

院長事故アルトキハ上層ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

- 第五條 會計検査院ニ三部ヲ設ケ各部部长一員検査官四員ヲ以テ検査ノ事務ヲ分掌ス
- 第六條 會計検査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
- 會計検査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ「非職」ニ命セラル、コトナシ
- 會計検査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第七條 父子兄弟ハ同時ニ會計検査官トナルコトヲ得ス
- 第八條 會計検査官ハ他ノ官職ヲ兼テ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス
- 第九條 會計検査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス
- 議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第十條 左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス
 - 一 第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ 天皇ノ下問ニ奉答スルトキ
 - 二 第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ
 - 三 第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ
- 四 検査事務ノ規程計算ノ明ノ様式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ
- 五 其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條 計算検査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計検査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章 職權

第十二條 會計検査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ検査確定シテ會計ヲ監督ス

第十三條 會計検査院ノ検査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一 總決算

二 各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算

第十四條 會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ検査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一 總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用官有物ノ得有沽買讓與及利用ハ各々其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケザルモノナキヤ否ヤ

第十五條 會計検査院ハ各年度ノ會計検査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條 會計検査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ検査及責任解除ヲ其ノ廳ニ委託スルコトヲ得

但シ其ノ検査ノ成績ハ該廳ヲシテ之ヲ會計検査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘ラス會計検査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ検査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條 第三項團體及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條 金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計検査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計検査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條 會計検査院ハ計算書及計算證明ノ様式並ニ其ノ提出及推問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條 會計検査院ハ各官廳ヲシテ検査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計検査院長ハ検査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地検査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本廳長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ検査ニ立合ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算書及證書類ヲ検査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ推問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本廳長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條 會計検査院ノ判決ニ據リ辨償ノ責ヲ負フ者ハ 天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條 出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ様式ヲ守ラサルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條 政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計検査院ニ於テ検査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條 會計検査院ハ認可狀ヲ付スルノ後ト 其ノ付シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏ニ重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐偽ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計検査院再審ノ判決ニ對シテ再ヒ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 附則

第二十五條 會計検査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○會計検査院屬定員明治三十三年三月
勅令第三百三十七號

朕明治三十一年勅令第三百一號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十一年勅令第三百一號左ノ通改正ス

會計検査院屬ハ二百十八ヲ以テ定員トス

○會計検査院事務章程明治三十二年十二月
勅令第四百五十七號

三十年勅令
三百五十九號
ヲ以テ屬定員
内ニ於テ是レハ
技手二人ヲ附
シ

朕會計検査院事務章程ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計検査院事務章程

第一條 會計検査院ニ第一部第二部第三部ヲ設ケ各部ニ課ヲ置キ検査ノ事務ヲ分掌セシム

第二條 會計検査院ニ院長官房ヲ置ク

第三條 會計検査院ノ會議ハ會計検査官ヲ以テ組織ス

總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第四條 總會議ハ會計検査官現員ノ三分ノ二以上部會議ハ其ノ部ノ會計検査官現員ノ半數以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

出席會計検査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ總會議ニ於テハ三名部會議ニ於テハ一名ヲ限リ検査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

第五條 總會議及部會議ハ會計検査官、委員又ハ検査官補ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第六條 會計検査官總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要スル事件ニ付議案ヲ提出セムトスルトキハ其ノ案ヲ具ヘ理由ヲ附シ總會議ノ議決ヲ要スルモノハ院長ニ部會議ノ議決ヲ要スルモノハ部長ニ之ヲ提出スヘシ

委員ヲ設ケタル場合ニ於テ其ノ委員ヨリ提出スル議案ニ付テ亦同シ

第七條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ又ハ其ノ檢定若ハ判決ニ與ルコトヲ得ス

第八條 院長ハ所部ノ職員ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ自ラ之ヲ行フ

第九條 院長ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部職員ノ叙位叙勳ヲ上奏シ又ハ増休賞與ヲ行フ

第十條 院長ハ會計検査院全般ニ關スル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理セシムル爲メ會計検査院高等官中ヨリ委員ヲ設クルコトヲ得

第十一條 左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

- 一 各部ノ分課ヲ定ムルコト
 - 二 各部課主管ノ事務及職員ノ配置ヲ定ムルコト
 - 三 各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノヲ處分スルコト
 - 四 検査官補ニ總會議出席ヲ命スルコト
 - 五 所部ノ職員ニ出張ヲ命スルコト
 - 六 議事ニ關シ細則ヲ定ムルコト
 - 七 部會議ノ議決スルキ事項ヲ定ムルコト
 - 八 行務監督規程及其ノ他ノ行政事務ニ關スル諸規程ヲ定ムルコト
- 第十二條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニ付主任部長及検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若シ其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ
- 總會議又ハ部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限リ院長ハ文章ノ訂正ヲ爲スコトヲ得
- 第十三條 院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スヘシ

再議ノ議決ニ對シテハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

院長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ其ノ議決書ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ總會議ニ付スヘシ

第十四條 院長ハ各部ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條 左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

- 一 其ノ名ヲ以テ審理書ヲ發スルコト
 - 二 検査官補ニ部會議出席ヲ命スルコト
 - 三 部員ヲシテ其ノ部主管ノ事務ニ付一時相互ニ補助セシムルコト
 - 四 部員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告スルコト
- 第十六條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ヲ審查シ其ノ總會議若ハ部會議ノ議決ヲ要セサルモノ又ハ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ直ニ之ヲ處分スヘシ
- 其ノ部會議ニ付シタルモノハ總テ之ヲ院長ニ提出スヘシ
- 第十七條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニ付主任検査官ノ同意ヲ得テ其ノ主意ヲ變更スルコトヲ得若シ其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ之ヲ總會議ニ提出スヘシ
- 部會議ノ議決ヲ經タル文書ト雖其ノ主意ヲ變更セサル限リ部長ハ文章ヲ訂正スルコトヲ得
- 第十八條 部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止シ議決ノ日ヨリ七日以内ニ之

ヲ總會議ニ提出スヘシ

第十九條 部長ハ各課ヨリ提出スル文書ニシテ總會議又ハ部會議ノ議決ヲ要セザルモノニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條 検査官ハ各課ノ長トナリ課務ヲ掌理ス

第二十一條 検査官ハ検査ノ執行ニ因リ檢定、判決、審理等ニ關スル文書ヲ調製シ之ヲ部長ニ提出ス

第二十二條 検査官補ハ各課ニ分屬シ課長ヲ助ケ又ハ院長官房若ハ各部ニ分屬シ審議立案ヲ掌ル

第二十三條 検査官補ハ検査ノ事項ニ關シ意見アル場合ニ於テ總會議又ハ部會議ニ議案ヲ提出セムトスルトキハ院長又ハ當該部長ノ承認ヲ經ヘシ

第二十四條 書記官ハ院長官房ニ屬シ庶務ヲ掌ル

第二十五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ検査ノ事務又ハ庶務ニ従事ス

速記接手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ速記ノ事務ニ従事ス

第二十六條 會計検査院ハ行務年度ヲ定メ検査ノ事務ヲ執行ス

第二十七條 會計検査院ハ検査ノ事項ニ付當該官吏ニ對シテハ審理書ヲ發シ國務大臣ニ對シテハ質問書又ハ注意書ヲ發スルコトヲ得

第二十八條 會計検査院ハ出納官吏ノ計算正否ナリト判決シタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付シ正常ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ對シテ處分要求書ヲ發スヘシ

會計検査院ハ出納官吏其ノ負擔スヘキ缺損金ノ辨償ヲ終ヘタルトキハ本屬長官ヲ經由シテ認可狀ヲ交付スヘシ

第二十九條 會計検査院ハ國ノ代表者ニ於テ出納官吏ニ對スル公訴附帶ノ私訴ヲ提起シタル事項ニ關シテハ之ニ對スル通常又ハ特別裁判所ノ判決執行ノ結果ニ依リ其ノ検査判決ヲ行フヘシ

第三十條 會計検査院ハ第二十八條ノ處分要求書ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認めルトキハ其ノ事由ヲ検査成績書ニ載セテ上奏スヘシ

第三十一條 會計検査院ハ出納官吏ニ對シ再審ヲ行フ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セザリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第三十二條 會計検査院ハ出納官吏ノ請求ニ因リ再審ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ本屬長官ニ通知スヘシ

會計検査院ハ職權ヲ以テ再審ヲ行フ場合ニ於テハ本屬長官ヲ經由シテ其ノ旨ヲ當該出納官吏ニ通知スヘシ

第三十三條 會計検査院ハ左ノ場合ニ於テ本屬長官ヲシテ直ニ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

一 出納官吏其ノ保管スル現金ヲ亡失シタルトキ

二 各省大臣出納官吏ニ對シ辨償ヲ命シタルトキ

三 出納官吏ニ對スル公訴ニ附帶シテ國ノ代表者私訴ヲ提起シタルトキ

第三十四條 會計検査院ハ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期又ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

○行政裁判所處務規程明治二十三年八月
勅令第百九十二號

行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判所處務規程

第一條 行政訴訟各事件ノ掛評定官ハ行政裁判所長官ノ指定ニ依ル

第二條 行政裁判法第八條ニ依リ評定官ヲシテ裁判長タラシムルトキハ同法第七條第二項ノ順序ニ從ヒ之ヲ命スヘキモノトス

第三條 裁判長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ掛評定官中ノ一名若ハ二名ニ專理員ヲ指命スルコトヲ得

第四條 裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記ヲシテ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入セシム

第五條 毎年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認ムルモノハ外既ニ著手シタル訴訟ヲ中止シ並ニ新ナル訴訟ニ著手セス

第六條 行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上列席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス

第八條 行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若ハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常裁判所ニ囑

託シテ送達セシムルコトヲ得

第九條 行政裁判所ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權ニ屬スル事件ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十條 行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム

○行政裁判所評定官員數並書記ノ員數職務明治二十三年六月
勅令第百一十一號

朕行政裁判所評定官員數並書記ノ員數及職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 行政裁判所評定官ノ定員ハ專任十一人トス(三十二年勅令第百五十五號
以テ專任ノ二字ヲ加フ)

第二條 行政裁判所書記ハ行政裁判法其他法律勅令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ

第三條 行政裁判所書記ハ往復會計記録其他庶務ニ從事ス

第四條 行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令ニ從フ

○警視廳

沿革略記 明治七年一月第六號達ヲ以テ警視廳ヲ置キ警視長、正權大少警視、正權大中少警部ノ職員ト爲シ官等ヲ定ム○
 級ヲ定ム○同年四月八日事務章程第三章中追加ナ内務省へ達ス○同年十月第百三十二號達ヲ以テ假ニ司法警察事務ヲ
 掌ル○同年同月第百三十六號達ヲ以テ正權大中警視ノ官等ヲ改正ス○同年十二月第百六十八號達ヲ以テ警部補ヲ置ク
 ○八年十二月内務省ノ第百六十七號達ヲ以テ東京府所轄ノ囚獄及懲役場ノ事務ヲ管セシム○九年一月第一號布告ヲ以
 テ東京府内務部取締事務ヲ管ス○十年一月第十五號達ヲ以テ警視廳ヲ廢シ更ニ内務省ニ警視官ヲ置キ警部補ヲ置ク
 ○十四年一月第一號達ヲ以テ再ヒ警視廳ヲ置キ本廳巡查本部警察署消防本部監獄署ノ衙署ト爲シ本廳ニ正副總監警
 視五等巡查本部ニ正副巡查總長方面監督警察署ニ二等警察使等消防本部ニ正副消防司令長等監獄署ニ正副典獄等
 ヲ置キ官等ヲ定ム○同年同月第三號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ定メ内局及書記、第二、第三局並巡查本部警察署消
 防本部監獄署ヲ整理ス○十八年七月第三十四號達ヲ以テ警視廳職制並事務章程ヲ改正ス○十九年五月勅令第四十二號
 ヲ以テ官制ヲ定ム○二十三年四月勅令第七十四號ヲ以テ警視廳官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三十五號ヲ以テ警視廳高
 等官俸給ヲ改正ス○二十四年四月勅令第三十四號ヲ以テ警視廳官制ヲ改正ス○同年同月勅令第三十五號ヲ以テ警視廳高
 等官俸給ヲ定ム○同年同月勅令第三十六號ヲ以テ巡查本部警察署同分署結警部及消防士同機關士監獄書記看守長俸
 給令ヲ定ム○二十六年十月勅令第百五十九號ヲ以テ警視廳官制ヲ改正ス

○警視廳官制 明治二十六年十月勅令第百五十九號

朕警視廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警視廳官制

第一條 警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク (二十九號勅令第百五十二號三十)

- 警視總監
- 警視
- 技師

警察醫長

典獄

警部

警視屬

技手

消防士

警察醫

監獄書記

看守長

消防機關士

第二條 警視總監ハ一人勅任トス

第三條 警視ハ二十五人警察醫長ハ一人典獄ハ三人奏任トス (二十九號勅令第百五十二號三十號及三十一號勅令第百四十九號改正)

第四條 警部、警視屬、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ハ判任トス

警部、警視屬、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ノ定員ハ通シテ三百六十人トシ其ノ各官ノ定員ハ主務大臣ノ認可ヲ經テ警視總監之ヲ定ム (三十年勅令第百六十二號三十一號勅令第百四十九號改正)

第五條 技師、技手ハ警視廳ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六條 警視總監ハ主務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及監獄ノ事務ヲ管理ス

第七條 警視總監ハ各省ノ主務ニ關スル警察事務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ高等警察事務ニ就テハ内閣總理大臣及内務大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第八條 警視總監ハ東京府下ノ警察事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ得

第九條 警視總監ハ其ノ主務ニ就テハ東京府下ノ島司郡市區長及町村長ヲ指揮監督ス(三十年勅令第百九十一號三十一號勅令第百二十八號ヲ以テ改正)

第十條 警視總監ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ進退ハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十一條 警視總監ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條 警視總監ハ廳中職務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十三條 警視總監事故アルトキハ第一部長其ノ職務ヲ代理ス
前項ノ場合ニ於テ第一部長事故アルトキハ内務大臣ニ於テ警視廳ノ高等官ノ一人ヲシテ警視總監ノ職務ヲ代理セシム

第十四條 警視廳ニ總監官房ヲ置ク(二十九年勅令第百五十一號ヲ以テ各項トモ改正)
總監官房ニ三課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一 各部著成案ノ審査及制規ニ關スル事項

二 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

三 公文ノ編纂、保存、統計並書籍ノ管守ニ關スル事項

四 文書ノ往復及官印廳印ノ管守ニ關スル事項

五 他課及各部署ノ主務ニ屬セサル事項

第二課

一 高等警察ニ關スル事項

二 外國人ニ關スル事項

第三課

一 經費豫算、決算及金錢出納ニ關スル事項

二 金錢物品出納ノ検査ニ關スル事項

三 需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項

四 官沒並保管ノ金錢物品及不用品ニ關スル事項

第十五條 總監官房ニ主事一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ補ス(二十九年勅令第百五十一號三十年勅令第百九十一號及三十一年勅令第百四十四號ヲ以テ各項トモ改正)

主事ハ警視總監ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

官房第二課長ハ主事ヲ以テ之ニ充テ第一課長及第三課長ハ警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

官房各課員ハ警部警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上官ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其課ノ

庶務ニ従事ス

第十六條 警視廳ニ左ノ部署ヲ置ク

第一部

第二部

第三部

第四部(二十九年勅令第二百五十一號ヲ以テ第四部ヲ削除シ三十年勅令第九十一號ヲ以テ更ニ本項ヲ追加ス)

消防署

(三十年勅令第九十一號ヲ以テ消防署ノ項ヲ削ル)

第十七條 第一部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ(三十年勅令第九十一號ヲ以テ改正)

第一課

一 犯罪ノ捜査、刑餘人、無賴徒、變死傷者其ノ他公安ニ關スル事項

二 失踪者、瘋癲者、不良子弟、棄兒、迷兒及戸口民籍ニ關スル事項

三 遺流失物理藏物等ニ關スル事項

第二課

一 警衛ニ關スル事項

二 警察署警察分署派出所ノ廢置及其ノ職員ノ配置ニ關スル事項

三 巡查召募及其ノ教習ニ關スル事項

第十八條 第二部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ(二十九年勅令第二百五十一號及三十年勅令第九十一號ヲ以テ改正)

第一課

一 營業及風俗警察並銃砲火藥刀劍等ニ關スル事項

第二課

一 交通警察並田野森林河海堤防取締及水火災豫防等ニ關スル事項

第十九條 (二十九年勅令第二百五十一號ヲ以テ各取トモ削除ス)

第二十條 第三部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ(二十九年勅令第二百五十一號及三十年勅令第九十一號ヲ以テ改正)

第一課

一 衛生警察ニ關スル事項

第二課

一 警察監獄ニ關スル事務及分析等ニ關スル事項

第二十條ノ二 第四部ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル(三十年勅令第九十一號ヲ以テ本條追加)

第二十一條 第一部長第二部長ハ警視第三部長ハ警察署長第四部長ハ典獄ヲ以テ之ニ補ス(二十九年勅令第二百五十一號及三十年勅令第九十一號ヲ以テ改正)

部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第一部及第二部ノ課長ハ警部又ハ警視屬、課員ハ警部、警視屬ヲ以テ之ニ充ツ

第三部ノ課長ハ警視屬又ハ警察警課員ハ警視屬、警察警ヲ以テ之ニ充ツ

第四部員ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充テ監獄署員ノ内ヲシテ之ヲ兼テシム(三十年勅令第九十一號ヲ以テ本項追加)

第三十二條 部長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
第一部長ハ警察事務ニ付警察署長以下第四部長ハ監獄事務ニ付監獄署長以下ヲ指揮スルコトヲ得(三十年勅令第九十一號ヲ以テ本項改正)

課長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ課務ヲ處理シ課員ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其課ノ庶務ニ従事ス

第二十三條 消防署ニ於テハ水火消防ニ關スル事項ヲ掌ル
第二十四條 警視總監ハ東京市内ニ消防分署ヲ配置ス

第三十五條 消防署長ハ第二部長タル警視ヲ以テ之ニ兼補シ署員ハ消防士、消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ(三十二年勅令第三百四號ヲ以テ本項改正)

消防署長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
消防分署長ハ消防士ハ分署員ハ消防士、消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

第二十六條 消防署長ハ警視總監ノ命ヲ受ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
警察署長ハ水火災ニ際シ消防署長出場前ニ於テ消防分署長以下ヲ指揮スルコトヲ得(三十年勅令第九十一號ヲ以テ本項追加)

消防分署長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ分署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
消防士ハ上官ノ指揮ヲ受ケ消防組ヲ指揮監督ス
消防機關士ハ上官ノ指揮ヲ受ケ消防機關ノ運用ヲ掌ル

第二十七條 東京府下ニ三監獄ヲ置ク在監人ノ分配ハ警視總監之ヲ定ム(三十年勅令第九十一號ヲ以テ本項改正)

監獄署ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルトキハ警視總監之ヲ定メ司法大臣ニ報告ス(三十二年勅令第九十一號ヲ以テ本項改正)

第二十八條 警視總監ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ東京府下ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得(三十二年勅令第九十一號ヲ以テ本項改正)

第二十九條 監獄署長ハ典獄ヲ以テ之ヲ補ス但シ監獄署長ノ内一人ハ第四部長ヲシテ之ヲ兼テシム(三十年勅令第九十一號ヲ以テ本項改正)

監獄署長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ(三十年勅令第九十一號ヲ以テ本項改正)

第三十條 監獄署長ハ警視總監ノ命ヲ受ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シテ部下ノ官吏ヲ監督ス
監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

監獄署員監獄支署員ハ監獄書記看守長ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮ヲ受ケ監獄ノ事務ニ従事ス(三十年勅令第九十一號ヲ以テ本項改正)

第三十一條 東京府下ニ二十三警察署ヲ置ク其管轄區域ハ別表ノ定ムル所ニ依ル
東京府下ニ一水上警察署ヲ置ク

警視總監ハ警察署ノ下ニ便宜分署ヲ置クコトヲ得
第三十二條 警察署長ハ警視又ハ警部、署員ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
警察署署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

必要ノ場合ニ於テハ警部ヲ以テ分署員ニ充ツルコトヲ得

第三十三條 警察署長、警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
署員ハ上官ノ指揮ヲ受ケ其ノ署ノ事務ニ從事シ巡查ヲ指揮監督ス

第三十四條 警視廳職員ノ外監獄將ヲ置ク判任官ノ待遇トス

第三十五條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則

第三十六條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

(別表略之)

○北海道廳附開拓使

沿革略記 明治元年四月十二日西館裁判所ヲ設キ蝦夷開拓事務ヲ管ス○同年閏四月十二日西館裁判所ヲ改メ西館府ト
爲ス○二年七月八日開拓使ヲ置キ職制ヲ定メ職員ヲ長官次官正權判官正權大少主典史生ト爲ス○同年同月
十三日官ノ官等ヲ諸省縣同等ト爲ス○同年同月二十日官位相當表ヲ改ム○同年同月廿四日西館府ヲ廢ス○同年八月
十五日蝦夷地ヲ北海道ト稱シ十二ヶ國八十五郡ヲ置ク○同年同月某日海關ヲ函館ノ手宮郡札幌ノ四所ニ置ク○三年
二月十三日樺太ニ開拓使ヲ置ク○同年三月十二日各地方ニ在ル西館府會所ヲ管ス○同年四月五日正權監事ヲ置ク○
同年七月某日北海道產物取締所ヲ那珂下關、撫後、新湯、石卷等ノ地ニ置ク○同年閏十月九日西館府會所ヲ廢ス○
同年八月七日樺太開拓使ヲ本使ニ併ス○同年同月十日官等ヲ改定ス○同年十一月十四日官圖ヲ東京ニ設ク○五年正月
第十六號ヲ以テ官等表ヲ改定ス○同年六月第九十號ヲ以テ室蘭府岸ニ海關ヲ設ケ樺太海關ヲ廢ス○手宮海關ヲ小樽港

ト改稱ス○同年八月第二十三號ヲ以テ官等表ヲ改メ長官、次官、大中少判官、正權幹事、正權大中少主典ト爲ス○同
年九月十四日西館府會所ヲ廢ス○浦河、樺太ニ支廳ヲ置ク○同年同月二十日假ニ學校ヲ東京芝山内ニ設ク○同年同月第二
百八十九號ヲ以テ渡島國江刺港ニ海關ヲ置ク○六年二月十五日松前ニ出張所ヲ置ク○同年同月二十五日宗谷支廳ヲ置
前郡ニ移シ留萌支廳ト改稱ス○七年五月十四日浦河支廳ヲ廢ス○同年十月第三十二號達ヲ以テ假ニ司法警察事務ヲ
管ス○同年同月第三十九號達ヲ以テ選卒長選卒檢官五等及選卒部長ヲ置キ官等ヲ定ム○八年三月第三十七號布告ヲ
以テ北海道田邊兵ヲ設ケ職員ヲ陸軍大中少佐大中少尉等ト爲シ官等ヲ定ム○同年同月十三日留萌支廳ヲ廢ス○同年
同月十五日開拓使達ヲ以テ屯田事務局ヲ置ク○同年八月七日在東京開拓使學校ヲ札幌ニ移ス○同年同月十五日西館稅
關事務ヲ大藏省ニ屬ス○同年十一月第六百六十四號布告ヲ以テ樺太島ヲ西館國ニ屬シ「クワリ」島ヲ我國ニ屬ス○同年
同月第八十號布告ヲ以テ西館國ト交換ノ「クワリ」諸島ヲ管ス○同年十二月第二十七號達ヲ以テ十一月二十五日
職制及事務章程改定ノ旨ヲ示ス○九年二月第十號達ヲ以テ選卒長以下ノ官名等級ヲ改メ警部(六等)警部補(四等)
ト爲ス○十年一月第四號達ヲ以テ四等官以下等級ヲ定ム○同年八月第二十三號達ヲ以テ正權大中少判官、幹事並主典
以下ノ職シ正權大少判官、官及警部十等巡查四等ヲ改メ置ク○准陸軍武官故ノ如シ○同年八月第五十六號ヲ以テ准陸
軍少尉候補ヲ置キ官等ヲ定ム○十三年十二月第六十號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ改定ス○十五年二月第八號布告
ヲ以テ開拓使ヲ廢シ函館札幌根室ヲ三縣ヲ置ク○十九年一月第一號布告ヲ以テ函館札幌根室三縣並北海道事務管理局
ヲ廢シ更ニ北海道廳ヲ札幌ニ支廳ヲ函館根室ニ置ク○同年同月第六號達ヲ以テ北海道廳官制ヲ定メ長官、理事官、廳ノ
職員並警部部長警部部長警部部長警部部長警部部長警部部長警部部長警部部長警部部長警部部長警部部長警部部長
幹事教授助教ノ學務官ト爲ス○同年十二月開令第三十七號ヲ以テ函館根室支廳ヲ廢ス○同年同月勅令第八十三號ヲ以
テ北海道廳官制ヲ改正ス○同年同月勅令第八十四號ヲ以テ札幌農學校官制ヲ定ム○二十二年十二月開令第二十九號ヲ
以テ北海道鐵道事務所官制ヲ廢ス○二十三年七月勅令第九十九號ヲ以テ北海道廳官制ヲ改正ス○二十四年四月札幌農
學校官制ヲ定ム○同年七月勅令第八十八號ヲ以テ北海道集積官制ヲ定ム○同年同月勅令第九十一號ヲ以テ北海道
廳官制ヲ改正ス○同年同月勅令第九十二號ヲ以テ札幌農學校官制ヲ改正ス○二十六年一月勅令第六十一號ヲ以テ
北海道集積官制ヲ改正ス○同年十一月勅令第二十八號ヲ以テ札幌農學校ヲ文部省ノ直轄トシ同校官制ヲ廢止ス○二
十七年一月勅令第四號ヲ以テ函館府會所ヲ定ム○二十八年七月勅令第九十八號ヲ以テ北海道集積官制ヲ廢止シ
集積分監ヲ置ク○二十九九月勅令第二百九十九號ヲ以テ北海道衛生會規則ヲ定ム○同年十一月勅令第三百六十二
號ヲ以テ集積監假監並廳府縣看守守定員ヲ定メ二十七號令第四號廳府縣看守 員ヲ廢止ス○三十年四月勅令第三百二
號ヲ以テ北海道廳森林看守規則ヲ制定ス○同年同月勅令第三百三十三號ヲ以テ北海道廳ニ事務手ヲ置ク○同年十月勅令
第三百九十二號ヲ以テ北海道廳官制ヲ改正ス○三十一年十月勅令第三百六號ヲ以テ北海道鐵道官制ヲ定ム○三十二
年六月勅令第二百九十七號ヲ以テ北海道鐵道官制ヲ改正ス○三十三年三月勅令第九十七號ヲ以テ函館府縣ニ臨時檢校
官ヲ置キ二十八年勅令第四十四號ヲ廢ス○同年五月勅令第八十八號ヲ以テ砂金採取者取締ノ々々警部ヲ置ク

○北海道廳官制(明治三十年十月
勅令第三百九十二號)
朕北海道廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳官制

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第三
百五號ヲ以テ改正)

長官

事務官

警部長

支廳長

參事官

視學官(三十二年勅令第二百
五十二號ヲ以テ追加)

警視

技師

典獄

屬

視學(三十二年勅令第二百
五十二號ヲ以テ追加)

接手

警部

翻譯生

監獄書記

看守長

監獄警

第二條 長官ハ一人勅任トス(全)

第三條 事務官ハ專任二人奏任トス内務部長及殖民部長ニ充ツ但シ内務部長ニ充ツル事務官ハ勅任
トナスコトヲ得(全)

第四條 警部長ハ一人奏任トシ警察部長ニ充ツ(全)

第五條 支廳長ハ各支廳一人奏任トス

第六條 參事官二人視學官警視及典獄各一人奏任トス(三十二年勅令第三百五號ヲ以テ本條ヲ改正シ三十二
年勅令第二百五十二號ヲ以テ視學官ノ三字ヲ加フ)

第七條 專任技師ハ十人ヲ以テ定員トス(三十二年勅令第三百五號ヲ以テ改正)

第八條 屬、視學警部、翻譯生、監獄書記、看守長、監獄警ハ判任トス屬、警部、監獄書記、看守長、監獄

警ヲ通シテ四百九十二人ヲ以テ定員トス(三十二年勅令第三百五號ヲ以テ本條ヲ改正シ三十二年勅令
第二百五十二號及三十二年勅令第四百九號ヲ以テ條中追加)

第九條 視學ノ定員ハ内務大臣及文部大臣之ヲ定ム(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ次項トモ改正)

接手ハ八十三人翻譯生ハ二人ヲ以テ定員トス(三十二年勅令第四百十九號
ヲ以テ接手ノ定員ヲ改正)

第十條 長官ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ

北海道ノ拓地殖民並部内ノ行政事務ヲ總理ス

長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督ス

第十一條 長官ハ北海道ノ事務ニ付其ノ職權若ハ特別ノ委任ニ任リ管内一般又ハ其ノ一部ニ廳令ヲ

發スルコトヲ得

第十二條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒シ出兵ヲ請フコトヲ得

第十三條 長官ハ支廳長ノ處分若ハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分若ハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第十四條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ高等官ノ進退ハ内務大臣若ハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ條中追加)

第十五條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其ノ高等官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣若ハ主務大臣ニ具狀シ其ノ他ハ之ヲ專行ス(上)

第十六條 長官ハ廳中及所轄官廳ノ分課並處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 長官事故アルトキハ内務部長タル事務官其ノ職務ヲ代理ス
長官及内務部長タル事務官共ニ事故アルトキハ内務大臣ニ於テ道廳高等官ノ内一名ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシム

第十八條 長官ハ道廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ支廳長ニ委任スルコトヲ得

第十九條 北海道廳ニ長官官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム
一 官吏ノ進退身分及褒賞ニ關スル事項
二 文書ノ往復及記録編纂ニ關スル事項

三 官印應印ノ管守ニ關スル事項

第十九條 道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ左ノ三部及一署ヲ置ク(二十一年勅令第三百五號ヲ以テ改正)

内務部

殖民部

警察部

監獄署

第二十條 内務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(上全)

一 支廳戶長役場ノ廢置分合並區區會郡町村總代人ニ關スル事項

二 區町村ノ經濟其ノ他區町村及公共組合ニ關スル事項

三 賑恤救濟ニ關スル事項

四 兵事、社寺及教育ニ關スル事項

五 外國人ニ關スル事項

六 豫算、決算、會計、官有財産及物品ニ關スル事項

七 所轄官廳ノ會計監督ニ關スル事項

八 出納官吏ノ身元保證ニ關スル事項

九 土木、建築及修繕ニ關スル事項

十 水面埋立ニ關スル事項

- 十一 統計報告ニ關スル事項
- 十二 廳中他部署ノ主掌ニ屬セサル事項
- 第二十一條 殖民部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(三十二年勅令第三百五號ヲ以テ第九ヲ追加ス)
 - 一 殖民地ノ選定計畫其ノ他殖民ニ關スル事項
 - 二 土地ノ處分及開墾ニ關スル事項
 - 三 地籍ニ關スル事項
 - 四 官有地管理ニ關スル事項
 - 五 土地收用ニ關スル事項
 - 六 農商工務ニ關スル事項
 - 七 水陸運輸ニ關スル事項
 - 八 水産及漁獵ニ關スル事項
 - 九 山林ニ關スル事項
- 第二十二條 (三十二年勅令第三百五號ヲ以テ本條削除)
- 第二十三條 警察部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 行政警察ニ關スル事項
 - 二 高等警察ニ關スル事項
 - 三 圖書出版及版權ニ關スル事項

四 衛生ニ關スル事項

- 第二十四條 (三十二年勅令第三百五號ヲ以テ本條削除)
- 第二十五條 (上同)
- 第二十六條 監獄署ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 道廳監獄ニ關スル事項
- 第二十七條 部長ハ長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及部中各課ノ事務ヲ指揮監督ス
- 第二十八條 支廳長ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス
- 第二十九條 支廳長ハ行政事務ニ就テ其ノ部内ノ部長ヲ指揮監督ス
- 第三十條 支廳長ハ法律命令ニ依リ若ハ長官ヨリ委任セラレタル事件ニ付支廳令ヲ發スルコトヲ得
- 第三十一條 支廳長事故アルトキハ其ノ廳勤務ノ主席屬其ノ職務ヲ代理ス
- 支廳長ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
- 第三十二條 參事官ハ長官ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル
- 第三十三條 參事官ハ長官ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌理シ又ハ各部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ
- 第三十三條ノ二 視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル事務ヲ掌ル(三十二年勅令第三百五號ヲ以テ追加)
- 第三十四條 警視ハ警察部ニ屬シ又ハ警察署長ト爲リ上官ノ命ヲ承ケ其ノ事務ヲ掌理ス
- 第三十五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス
- 第三十六條 典獄ハ監獄署長ト爲リ長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及署中各課ノ事務ヲ指揮監督

第三十七條 長官官房及各部署中便宜課ヲ設クルトキハ各課ニ課長一人ヲ置キ部署長ノ指揮ヲ承ケ
課務ヲ掌理セシム

課長ハ屬警部監獄書記又ハ看守長ヲ以テ之ニ充ツ但シ參事官視學官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツルコ
トアルヘシ(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ廢止)

第三十八條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ廢止)

第三十九條 按手ハ上官ヲ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ廢止)

第四十條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ廢止)

第四十一條 翻譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ従事ス(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ廢止)

第四十二條 監獄書記ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ廢止)

第四十三條 看守長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ廢止)

第四十四條 監獄醫ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ従事ス(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ廢止)

第四十五條 管内須要ノ地ニ道廳支廳ヲ置ク(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ廢止)

第四十六條 每郡區若ハ數郡區ニ警察署ヲ置キ各警察署部内ニ警察分署ヲ配置ス但シ郡區ノ區域ニ
依ラスシテ警察署ヲ置クコトヲ得(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ廢止)

三十二年勅令
第二百五十二號
以テ廢止
ノ位置
名稱
中
サ
改
正
ス

警察署及警察分署ノ位置名稱及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第四十七條 警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十八條 監獄支署若干ヲ置キ監獄書記ヲ以テ其ノ長ニ充ツ

監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ支署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十九條 巡查看守及森林監守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第五十條 本令ハ明治三十年十一月五日ヨリ施行ス

第五十一條 從前ノ法律命令ニ於テ北海道郡區長ヲ管掌ニ屬シタル事項ハ北海道廳支廳長ニ於テ處
理スヘキモノトス

從前郡區長ノ兼掌シタル戶長ノ事務ハ支廳長ニ於テ之ヲ其ノ廳在勸屬ニ委任スルコトヲ得(三十二年勅令第二百五十二號ヲ以テ廢止)

北海道廳支廳長ノ發スル支廳令ニハ明治二十六年勅令第九十九號中郡令ニ關スル規程ヲ適用ス

第五十二條 臨時北海道鐵道敷設部官制及北海道廳臨時築港ニ要スル職員ハ本令施行ノ日ヨリ廢止

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

北海道鐵道部官制

第一條 北海道廳ニ北海道鐵道部ヲ置キ北海道ニ於ケル官有鐵道ノ建設保存及運輸ノ業務ヲ掌理セシム

第二條 北海道鐵道部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 一人

鐵道事務官 專任一人 奏任

鐵道技師 專任九人内一人ハ勲任ト爲スコトヲ得

鐵道書記 專任八十一人 判任

鐵道技手 專任六十人

第三條 部長ハ北海道廳高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム

部長ハ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ一切ノ部務ヲ掌理ス

第四條 鐵道事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務運輸ヲ掌ル

第五條 鐵道技師ハ上官ノ命ヲ承ケ工務ヲ掌ル

第六條 鐵道書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務運輸ニ從事ス

第七條 鐵道技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

○北海道廳森林監守規程 明治三十年四月 勅令第三百二號

朕北海道廳森林監守規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳森林監守規程

第一條 北海道廳ニ森林保護費豫算定額内ニ於テ森林監守ヲ置ク (三十三年勅令第五號ヲ以テ改正)

第二條 森林監守ハ上官ノ指揮監督ヲ承ケ官林保護ニ從事ス

第三條 森林監守ハ判任官ノ待遇ヲ受ク (三十三年勅令第五號ヲ以テ改正)

第四條 森林監守ノ月俸ハ十圓以上十五圓以下トス (上全)

第五條 森林監守勤績七箇年以上ノ者ハ月俸二十圓迄ヲ給スルコトヲ得

○

○北海道衛生會規則 明治二十九年九月 勅令第二百九十九號

朕北海道衛生會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道衛生會規則

第一條 北海道衛生會ハ北海道廳長官ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應シテ管内公衆衛生獸疫衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 北海道衛生會ハ前條ノ事項ニ就テハ北海道廳長官ニ建議スルコトヲ得

第三條 北海道衛生會ハ議事整理ノ爲メ規則ヲ議定シ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 北海道衛生會ハ會長一人委員十二人ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ北海道廳長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ事務官一人、警部長、參事官二人、支廳長四人、醫師三人、獸醫二人、藥學家一人ヲ以テ之ニ充

ツ(三十一勅令第三百四十號ヲ以テ本項中改正)

第五條 臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得但シ臨時委員ハ三人以上

ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 委員(警部長ヲ除ク)及臨時委員ハ北海道廳長官之ヲ命ス

第七條 醫師獸醫藥學家ヨリ出ツル委員之任期ハ二年トス但滿期後再任セララルコトヲ得

第八條 會長ハ會務ヲ總管シ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ北海道廳長官ニ具申ス

第九條 會長事故アルトキハ事務官之ヲ代理シ事務官ヨリ出ツル委員事故アルトキハ北海道廳長官

ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム(三十一勅令第三百四十二號ヲ以テ條中改正)

第十條 委員ハ第一條ノ事項ニ就キ意見アルトキハ何時ニテモ會長ニ開申スルコトヲ得

第十一條 北海道衛生會ニ書記ヲ置キ北海道廳屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ(三十一勅令第三百四十二號ヲ以テ又ハ警部ノ四字ヲ追加ス)

第十二條 書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

第十三條 委員及臨時委員ハ給與官職ヲ帶ヒザル者ニハ開會中一日一圓五十錢以内ノ手當ヲ

給與スルコトヲ得

○北海道廳ニ事業手ヲ置ク明治三十年四月勅令第三百三十三號

朕北海道廳ノ事業ニ要スル經費豫算内ニ於テ事業手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳長官ハ土地ノ處分ニ關スル事業及土木水産農事等ノ事業ニ從事セシムル爲メノ事業ニ要ス

ル經費豫算内ニ於テ事業手ヲ置クニ得

事業手ハ親任官ノ待遇ヲ受ク

○集治監假留監並廳府縣看守定員明治二十九年十一月勅令第三百六十二號

朕集治監假留監並廳府縣看守定員改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 集治監假留監並廳府縣看守定員ハ拘禁男子五百人ニ付キ七十五人トシ拘禁男子五百人以

上ハ五十人ヲ加フル毎ニ看守五人ヲ加ヘ拘禁男子五百人未滿ハ五十人ヲ減スル毎ニ看守五人ヲ減

シ毎年前年度ヨリ起算シ既往三年間ノ拘禁男子平均數ニ依リ之ヲ定ム但集治監ニ於テ拘禁男子

ノ定員アルトキハ之ニ依リ看守ノ定員ヲ定ム

第二條 監獄支署アル廳府縣ニ於テハ前條定員ノ外各支署ニ三人以下ノ看守ヲ増置スルコトヲ得

第三條 監獄ノ構造役業ノ種類其ノ他特別ノ事情ニ依リ必要アル場合ニ於テハ第一條定員ノ外更ニ

五十人以下ノ看守ヲ増置スルコトヲ得

第四條 拘禁男子ノ現在數第一條ノ平均數ニ比シ百人以上ノ減少ヲ生シタルトキハ百人ニ付キ看守

第二條 知事ハ一人勅任トス

第三條 書記官、警部長、參事官、視學官及典獄ハ各一人奏任トス(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ視學官ノ三字ヲ加フ)
但シ内務大臣ノ指定スル府縣ニ於テハ參事官二人ヲ置クコトヲ得(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ參事官ノ二字ヲ加フ)

第四條 屬、警部、監獄書記及看守長ハ判任トシ各府縣ヲ通シテ左ノ人員ヲ以テ定員トス
屬、警部、監獄書記、看守長 七千十八人(二十九年勅令第十五號三十二年勅令第九十五號ヲ以テ人員ヲ改正ス)

屬、警部、監獄書記及看守長ノ每府縣ノ定員ハ主務大臣之ヲ定メ其各官ノ定員ハ主務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム(三十三年勅令第七十號ヲ以テ主務大臣ニ改ム)

視學ハ判任トシ其ノ定員ハ内務大臣及文部大臣之ヲ定ム(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ本項追加)

第五條 技師、技手及通譯ハ府縣ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得(三十三年勅令第九十五號ヲ以テ)
(本條改正)
通譯ハ判任トス

第六條 知事ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第七條 知事ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ府縣令ヲ發スル權ヲ得

第八條 知事ハ郡長又ハ島司ヲ處分若クハ命令ヲ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムル時其處分若クハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長又ハ旅團長ニ移牒シ出兵ヲ請フコトヲ得

第十條 知事ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行スル權ヲ得

第十一條 知事ハ所理ノ奏任官ノ懲戒ヲ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行スル權ヲ得

第十二條 知事ハ廳中職務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十三條 知事ハ所部ノ官吏ハ書記官其職務ヲ代理スル者ハ書記官ニ依リテ之ヲ代理スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ書記官事故アルトキハ内務大臣ニ於テ府縣高等官一人ヲシテ知事ノ職務ヲ代理セシム

第十四條 知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡長又ハ島司ニ委任スルコトヲ得

第十五條 各府縣ニ知事官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ第四號ヲ追加ス)
一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

二 文書ノ往復ニ關スル事項
三 官印府縣印ノ管守ニ關スル事項
四 褒賞ニ關スル事項

第十六條 各府縣ニ左ノ部署ヲ置ク

内務部

警察部

監獄署

第十七條 内務部ニ五課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左リ如シ但シ知事ハ事務ノ情況ニ依リ内務

大臣ノ認可ヲ經テ課ヲ増置シ若ハ其ノ事務ノ分掌ヲ變更スルコトヲ得(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ改正)

第一課

一 議員選舉ニ關スル事項

二 府縣行政並郡市町村其ノ他公共團體ノ行政ノ監督ニ關スル事項

三 府縣經濟並郡市町村其ノ他公共團體ノ經濟ノ監督ニ關スル事項

四 兵事ニ關スル事項

五 社寺及宗教ニ關スル事項

六 名勝舊蹟ニ關スル事項

七 民籍ニ關スル事項

八 賑恤救濟ニ關スル事項

九 右ノ外他ノ主掌ニ屬セサル事項

東京府ニ於テハ右ノ外衛生ニ關スル事項

第二課

一 土木ニ關スル事項

二 地理ニ關スル事項

三 土地收用ニ關スル事項

第三課

一 教育學藝ニ關スル事項

第四課

一 農工商ニ關スル事項

二 森林及水産ニ關スル事項

三 度量衡ニ關スル事項

第五課

一 府縣ニ屬スル國庫費ノ會計ニ關スル事項

二 府縣經濟ニ屬スル收支出納ニ關スル事項

第十八條 警察部ニ於テハ高等警察、行政警察及衛生ノ事務ヲ掌ル

第十九條 (三十九年勅令第三百三十七號ニ依リ消滅)

第二十條 監獄署ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十一條 書記官ハ内務部長、警部長、警察部長、典獄ハ監獄署長トナリ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官

吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第二十二條 内務部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシメ警察部長又ハ監獄署長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第二十三條 參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ審査立案ヲ掌ル

參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ内務部ノ課長トナリ又ハ臨時部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

第二十三條ノ二 視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル事務ヲ掌ル(三十二年勅令第三百五十三號ヲ以テ)

視學官ハ知事ノ命ヲ承ケ内務部第三課ノ課長ト爲ル

第二十四條 警察部及監獄署ニ分課ヲ設クルコト要スルトキハ知事之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘシ

第二十五條 内務部各課長ハ參事官又ハ視學官ヲ以テ課長ト爲ス場合ヲ除ク外屬ヲ以テ之ニ充ツ但シ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得(三十二年勅令第三百五十三號ヲ以テ本項改正)

課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其課務ヲ處理ス

第二十六條 屬ハ内務部各課及知事官房ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第二十七條 警部ハ警察部又ハ警察署若クハ警察分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十八條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ従事ス(二十九年勅令第三百三十七號ニ依リ消滅)

第二十九條 監獄書記ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第三十條 看守長ハ監獄署又ハ監獄支署 屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第三十條ノ二 視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ従事ス(三十二年勅令第三百五十三號ヲ以テ)

第三十一條 各郡市ニ警察署ヲ置ク但シ地方ノ必要ニ應シ郡市ノ區域ニ依ラスシテ警察署ヲ置クコトヲ得此ノ場合ニ於テハ内務大臣其ノ管轄區域ヲ定ム(二十九年勅令第三百四十九號ヲ以テ本項改正)

知事ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得

第三十二條 警察署長及警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十三條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 (二十九勅令第三百三十七號ニ依リ消滅)

第三十五條 (上全)

第三十六條 知事ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ須要ノ地ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得(三十三年勅令第三百七十七號ヲ以テ内務大臣ヲ司法大臣ニ改ム)

監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ

監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ支署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十七條 府縣職員ノ外監獄醫ヲ置ク判任官ノ待遇トス特ニ警察醫ヲ置クトキ亦同シ(二十九年勅令第三百四十九號ヲ改正)

第三十八條 東京府ノ警察及監獄ニ關スル事項ハ警視廳官制ニ依ル

第二十六勅令
第二十七勅令
第二十八勅令
第二十九勅令
第三十勅令
第三十一勅令
第三十二勅令
第三十三勅令
第三十四勅令
第三十五勅令
第三十六勅令
第三十七勅令
第三十八勅令
第三十九勅令
第四十勅令

第三十九條 郡職員ヲ置クコト左ノ如シ(三十二年勅令第二百五十號ヲ以テ郡視學ヲ加フ)

郡長

郡書記

郡視學

第四十條 明治十一年第十七號布告郡區町村編制法第五條ニ依リ數郡ニ郡長一人ヲ置キタル地方ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ要スルトキ及同條ニ依リ新ニ數郡ニ郡長一人ヲ置クコトヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郡制ヲ施行シタル地方ニ於テハ每郡ニ郡長一人ヲ置ク

第四十一條 郡長ハ奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理

シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十二條 郡長ハ行政事務ニ就テ其ノ部内ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十三條 郡長ハ部下ノ判任官ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ條中改正)

第四十四條 郡長ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付郡令ヲ發スルコトヲ得

第四十五條 郡長事故アルトキハ上席郡書記其ノ職務ヲ代理ス

第四十六條 郡長ハ郡ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十七條 郡書記ハ判任トス其ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム

郡書記ハ郡長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ本項追加)

第四十八條 郡視學ハ一人判任トス郡長ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ從事ス(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ改正)

第四十八條ノ二 知事ハ須要ニ依リ郡ニ技手ヲ置クコトヲ得(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ追加)

第四十九條 勅令ヲ以テ指定スル所ノ島地ニ特ニ島廳ヲ置ク

第五十條 各島廳ニ左ノ職員ヲ置ク(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ島廳視學ヲ加フ)

島司

島廳書記

島廳視學

島司

第五十一條 島司ハ一人奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ

掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第五十二條 島司ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付島廳令ヲ發スルコトヲ

得

第五十三條 島司ハ部下ノ判任官ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ條中改正)

第五十四條 島司ハ行政事務ニ就テ其ノ部内町村ノ吏員ヲ指揮監督ス

第五十五條 島司事故アルトキハ上席島廳書記其ノ職務ヲ代理ス

第五十六條 島司ハ島廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第五十七條 島廳書記ハ判任トス其ノ定員ハ其ノ府縣判任官ノ定員内ニ於テ知事之ヲ定ム
島廳書記ハ島司ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ本項追加)

第五十八條 島廳視學ハ一人判任トシ管分ノ内島廳書記ヲシテ之ヲ兼ネシム島司ノ命ヲ承ケ學事ノ
視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ従事ス(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ改正)

第五十八條ノ二 知事ハ須要ニ依リ島廳ニ接手ヲ置クコトヲ得(三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ追加)

附則

第五十九條 本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス

○府縣ニ警視ヲ置ク明治三十三年五月勅令第二百四十三號

朕府縣ノ警視ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府縣ニ於テ府縣ニ警視ヲ置クコトヲ得

第二條 警視ハ警察部ニ屬シ又ハ警察署長ト爲リ上官ノ命ヲ承ケ其ノ部署ノ事務ヲ掌理ス

第三條 警察部ニ屬スル警視ハ大阪府ハ二人、其ノ他ノ府縣ハ一人ヲ踰ユルコトヲ得ス

警察署長ニ補スル警視ハ各府縣ヲ通シテ八十人以内トス

警視ヲ置クヘキ警察署ハ内務大臣之ヲ指定ス

第四條 警視ハ俸給左表ノ如シ

一級	二級	三級	四級	五級	六級
千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓

○廳府縣巡查定員明治二十九年四月勅令第四百四十八號

朕廳府縣巡查定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 廳府縣巡查ノ定員ハ左ノ定限内ニ於テ土地ノ狀況ヲ斟酌シ内務大臣之ヲ定ム

一 市ニ於テハ人口三百乃至八百ニ付 一人

二 郡ニ於テハ人口千乃至二千ニ付 一人

第二條 教習中ノ巡查及請願ニ依リ配置スル巡查ハ定員以外トス

第三條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第四條 第一條ニ依リ巡查ノ増員ヲ要スル廳府縣ニ於テ三時ニ増加シ難キ事情アルトキハ内務大臣

ハ本令施行ノ日ヨリ五箇年内ニ漸次増加シテ定員ヲ充タスコトヲ得

第五條 本令ハ北海道廳及沖繩縣ニ適用セス

○地方官御料地ヲ管理ス明治二十三年六月勅令第八十八號
地方官ヲシテ御料地ヲ管理セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
地方長官ハ宮内大臣ノ委託ニ由リ御料地ヲ管理スヘシ其管理ニ係ル費用ハ皇室ノ支辨トス

○郡市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域表明治二十六年十一月勅令第二百十四號
朕郡市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
郡市ノ區域ニ依ラサル警察署管轄區域別表ノ通之ヲ定ム

附則

本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス
(別表略ス)(二十七年勅令第四十五號二十九號勅令第九十五號ヲ以テ別表ヲ改正ス)

○島地指定明治三十三年三月勅令第九十四號
朕島地指定ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 地方官官制第四十九號ニ依リ左ノ島地ヲ指定ス

- 一 東京府大島
- 二 東京府八丈島 小島 青ヶ島 鳥島

第二條 大島ニ置ク島廳ヲ大島島廳ト稱シ八丈島小島青ヶ島鳥島ニ置ク島廳ヲ八丈島島廳ト稱

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○地方測候所職員明治三十三年六月勅令第二百六十八號

朕地方測候所職員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 地方測候所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長
- 技師
- 技師
- 技師
- 書記

土地ノ情況ニ依リ當分ノ内技師ヲ置カサルコトヲ得

第二條 所長ハ技師技師又ハ道廳府縣官吏ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 技師ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

技師ノ任免奏薦及宣行ハ明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸給令第四條第五條ノ例ニ依リ

之ヲ行フ

第四條 技手及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

技手及書記ノ任免ハ地方長官之ヲ行フ

第五條 技師ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 三年以上中央氣象臺又ハ附屬測候所ニ於テ氣象事務ニ從事シ判任官四級俸以上ノ俸給ヲ受クル者又ハ受ケタル者

二 五年以上同一測候所ニ於テ氣象事務ニ從事シ月俸四十五圓以上ノ俸給ヲ受クル者又ハ受ケタル者

三 氣象ニ關シ特別ノ學術技藝アル者

第六條 技手ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 中學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二 三年以上中央氣象臺又ハ測候所ニ於テ氣象事務ニ從事シタル者

第五條 技師技手及書記ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應ジ別表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス但シ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

附則

本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

技師官等配當表

任		任		任	
五等	年俸千六百圓以上	六等	年俸千二百圓以上	七等	年俸千八百圓以上
	年俸千六百圓未滿		年俸千二百圓未滿		年俸千八百圓未滿
				八等	年俸八百圓以上
					年俸八百圓未滿

技手書記等級配當表

判		任		任	
技手	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等
書記	月俸六十圓以上	月俸四十五圓以上	月俸三十五圓以上	月俸二十五圓以上	月俸二十一圓以上
	月俸六十圓未滿	月俸四十五圓未滿	月俸三十五圓未滿	月俸二十五圓未滿	月俸二十一圓未滿

○ 地方衛生會規則 明治二十九年七月 勅令第二百七十號

朕地方衛生會規則ヲ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方衛生會規則

第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ其ノ府縣内公衆衛生改善衛生ニ關スル事項ニ就キ警視

總監府縣知事ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條 地方衛生會ハ前條ノ事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第三條 地方衛生會ハ議事整理ノ爲メ規則ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 地方衛生會ハ會長一人委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ府縣書記官、警部長、東京府ハ警視廳第三部長、參事官、名譽職府縣參事會員四人、府縣廳所在

地ノ郡長又ハ市長(沖繩縣ニ於テハ區長)、醫師藥學家獸醫若干人ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 臨時必要ノ場合ニ於テハ前條定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得

第六條 委員中名譽職府參事會員ハ郡部議員ヨリ出ツル者及市部議員ヨリ出ツル者各二名ヲ互選シ

府知事之ヲ命ス

委員中醫師藥學家獸醫及臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス

醫師藥學家獸醫ヨリ出ツル委員ノ任期ハ四箇年トス但シ滿期後再任セララルコトヲ得

第七條 會長ハ會務ヲ總管シ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ警視總監府縣知事ニ具申ス

第八條 會長事故アルトキハ府縣書記官ヨリ出ツル委員之ヲ代理シ府縣書記官ヨリ出ツル委員事故

アルトキハ府縣知事ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條 委員ハ第一條ノ事項ニ就キ意見アルトキハ何時ニテモ會長ニ開申スルコトヲ得

第十條 地方衛生會ニ書記ヲ置キ府縣屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

第十一條 會長委員臨時委員及書記ニハ府縣稅(府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テハ地方稅、沖繩縣ニ於テハ沖繩縣地方費以下依之)ヲ以テ手當ヲ給ス

ルコトヲ得

第十二條 官吏ノ資格ヲ以テ委員トナリタル者ノ旅費ハ其ノ所屬廳ノ經費ヨリ支給シ其ノ他ノ委員

ニ係ル旅費ハ府縣稅ヨリ支給ス

附則

第十三條 府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テハ常置委員ヲ以テ名譽職參事會員ニ代フ此ノ場合ニ於テ

ハ常置委員互選シ府縣知事之ヲ命ス但シ市部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ於テハ市部議員ヨリ出

ツル者及郡部議員ヨリ出ツル者各二名ヲ互選スヘシ

第十四條 沖繩縣ニ於テハ其ノ地方ニ於テ學識名望アル者若干人ヲ以テ第四條第三項ノ名譽職府縣

參事會員ニ代フルモノトス

前項委員ノ任命ハ第六條第二項ノ例ニ依リ其ノ任期ハ同條第三項ノ例ニ依ル

第十五條 此ノ規則ハ明治二十九年八月一日ヨリ施行ス

第十六條 従前ノ委員ハ別ニ辭令ヲ用非ス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

○廳府縣ニ臨時檢疫官ヲ置ク(明治三十三年三月勅令第九十七號)

朕廳府縣ニ臨時檢疫官ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 傳染病流行シ又ハ流行ノ兆アルトキハ内務大臣ノ指定シタル廳府縣ニ檢疫官若干人ヲ置キ之ヲ警察部(警視廳ニ在リテハ第三部)ニ屬セシム

第二條 檢疫官ハ上官ノ命ヲ承ケ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ分掌ス

第三條 檢疫官ハ醫師藥劑師等ニ就キ警視總監地方長官之ヲ命ス

第四條 檢疫官ニシテ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニハ一箇月百二十四圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第五條 檢疫官ニハ内國旅費規則ニ依リ四等旅費ヲ給ス

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十八年勅令第四十四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○地方森林會規則(明治三十年十二月勅令四百四十號)

朕地方森林會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方森林會規則

第一條 地方森林會ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ審議ス

一 保安林ノ編入又ハ解除

二 保安林買上價格ノ評決

三 保安林補償金額ノ評決

第二條 地方森林會ハ會務整理ノ爲必要ナル規則ヲ議定シ農商務大臣ニ届出ツヘシ(三十一年勅令第三百二十九號ヲ以テ次項トモ改正)

前項ノ規則ニ對シ農商務大臣ハ訂正ヲ命スルコトヲ得

第三條 地方森林會ハ議事上實地ノ調査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ議員ヲ派遣スルコトヲ得

第四條 地方森林會ノ開會及閉會期日ハ府縣知事之ヲ定メ農商務大臣ニ届出ツヘシ(廿一年勅令第三百二十九號ヲ以テ次項トモ改正)

正

地方森林會ノ審議事項ニシテ其ノ利害ノ關係ニ府縣以上ニ涉ルトキハ聯合地方森林會ヲ設クヘシ

其ノ開會地及閉會期日ハ關係地方府縣知事之ヲ協定シ農商務大臣ニ届出ツヘシ

第五條 農商務大臣ハ左ノ場合ニ於テ地方森林會又ハ聯合地方森林會ノ解散ヲ命シ又ハ其ノ議事ヲ

停止スルコトヲ得

一 第一條ニ掲グル事項ヲ審議セサルトキ

二 議事其ノ權限ヲ越ヘ若ハ法律命令ニ背クト認ムルトキ

聯合地方森林會解散ノ場合ニ於テハ之ニ關聯スル地方森林會ハ同時ニ解散セラレタルモノトス
解散ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ解散ヲ命シタル日ヨリ三十日以内ニ更ニ地方森林會ノ議員ヲ選
定スヘシ

第六條 地方森林會ハ議長一名議員十四名以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條 議長ハ議事ヲ整理シ會務ヲ指揮ス

第八條 議長ハ府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ議長事故アルトキハ府縣知事ノ指名シタル府縣高等官之ヲ
代理ス(三十二年勅令第三百二十九號ヲ以テ改正)

議員ハ左ニ掲クル者ニ就キ農商務大臣之ヲ選定ス但シ第五ニ該ルモノハ其ノ互選ニ依ル

一 府縣高等官

一人

二 土木監督署高等官

一人

三 鑛山監督署高等官

一人

四 大林區署高等官

一人

五 名譽職府縣參事會員

二人

六 府縣制ヲ實施セザル地方ニ在リテハ府縣常置委員 二人

七 森林事業ニ經驗アル者 若干

七 治水土木及鑛山事業ニ經驗アル者 若干

第九條 官吏ニシテ議員タル者ノ外議員ノ任期ハ二箇年トス

第十條 地方森林會ニ幹事一名書記若干名ヲ置ク

幹事ハ府縣高等官ノ中ヨリ書記ハ府縣判任官ノ中ヨリ府縣知事之ヲ命ス(三十二年勅令第三百二十九號ヲ以テ改正)

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一條 聯合地方森林會ハ關係地方森林會議員ノ總數ヲ以テ組織シ其ノ議長幹事書記及會務規則

ハ開會地ノ地方森林會議長幹事及書記規則ヲ以テ之ニ充ツ(三十二年勅令第三百二十九號ヲ以テ改正)

第十二條 官吏ニシテ議長議員タルモノ及幹事書記ノ旅費ハ所屬官廳ノ經費ヲ以テ之ニ充ツ(上全)

前項ノ外議員ノ手當及旅費其ノ他地方森林會ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 聯合地方森林會ノ費用ハ議員ノ手當及旅費ヲ除ク外總テ開會地府縣ノ負擔トス

○ 橫濱港灣維持ニ關スル職員(明治三十年二月勅令第十三號)

朕橫濱港灣維持ニ關スル職員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

橫濱港灣維持ノ事務ヲ掌理セシムル爲メ左ノ職員ヲ置キ神奈川縣廳ニ屬セシム

技師 一人

屬 五人 判任

技手 六人

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○府社縣社以下神社ノ神職明治二十七年二月勅令第二百二十二號

朕府社縣社以下神社ノ神職ニ關スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 府社縣社及齋社ニ左ノ神職ヲ置ク

社司 一人

社掌 若干人

社掌ノ員數ハ社司及氏子(氏子ナキト)總代之ヲ議定シ北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 村社以下神社ニ左ノ神職ヲ置ク

社掌 若干人

社掌ノ員數ハ氏子(氏子ナキト)總代之ヲ議定シ北海道廳長官府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 社司ハ社掌ヲ指揮シテ神明ニ奉任シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第四條 府社縣社及齋社ノ社掌ハ社司ノ命ヲ受ケ神明ニ奉任シ祭祀及庶務ニ從事ス

第五條 村社以下神社ノ社掌ハ神明ニ奉任シ祭祀ヲ掌リ庶務ヲ管理ス

第六條 北海道廳長官府縣知事ハ氏子(氏子ナキト)總代ヲシテ社司及社掌ノ候補者ヲ推薦セシメ其中

ヨリ之ヲ補ス
候補者ノ資格及推薦ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

第七條 社司社掌ハ判任官ノ待遇トシ

第八條 社司社掌ノ服務及懲戒ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム

附則

第九條 本令施行ノ際祠官タル者ハ社司ニ祠掌タル者ハ社掌ニ補セラレタルモノト看做ス

○貴族院事務局官制明治二十三年七月勅令第二百二十二號

朕貴族院、事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貴族院事務局官制

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ(二十四年勅令第九十九號ヲ以テ各項共改正)

書記官長 一人

書記官 專任五人(二十六年勅令第三百六十五號三十二年勅令第三百七號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

屬 十二人(三十一年勅令第三百七號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

速記技手 三十五人(三十年勅令第三百四十號ヲ以テ本項追加)

守衛長 一人(二十四年勅令第二百六號ヲ以テ本項追加)

守衛番長 三人(七同)

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス
局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬及速記助手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其事務ニ從フ(三十年勅令第三百四十九號ヲ以テ屬ノ下ニ及速記助手ノ五字ヲ追加ス)

第六條 守衛長ハ判任トス守衛番長以下ヲ部署シ院中ノ取締ニ任ス(二十四年勅令第二百六號ヲ以テ追加)

第七條 守衛番長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス(四年勅令第二百六號ヲ以テ追加)

○貴族院事務局ニ拱手ヲ置ク(明治三十年十一月勅令第四百十三號)

○貴族院、事務局ニ拱手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○貴族院事務局ニ屬定員以內ニ於テ拱手二人ヲ置クコトヲ得

○衆議院事務局官制(明治二十三年七月勅令第二百二十二號)

衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衆議院事務局官制

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ(二十四年勅令第百號ヲ以テ各項共改正)

書記官長 一人

書記官 專任五人(二十六勅令第百六十六號三十二年勅令第三百八號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

屬 十二人(三十二年勅令第三百八號ヲ以テ定員ヲ改正ス)

速記助手 二十五人(三十年勅令第三百五號ヲ以テ本項追加)

守衛長 一人(二十四年勅令第二百七號ヲ以テ本項追加)

守衛番長 三人(全)

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬及速記助手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其事務ニ從フ(三十年勅令第三百五號ヲ以テ屬ノ下ニ及速記助手ノ五字ヲ追加ス)

第六條 守衛長ハ判任トス守衛番長以下ヲ部署シ院中ノ取締ニ任ス(二十四年勅令第三百七十七號ヲ以テ追加)

第七條 守衛番長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス(二十四年勅令第二百七十七號ヲ以テ追加)

○衆議院事務局ニ技手ヲ置ク(明治三十年十一月勅令第四百十四號)

朕衆議院事務局ニ技手ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衆議院事務局ニ屬定員以內ニ於テ技手二人ヲ置クコトヲ得

○外國政府ノ招聘ニ應スル官吏ハ定員外ト爲スコトヲ得(明治三十三年一月勅令第九號)

朕外國政府ノ招聘ニ應スル官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官吏許可ヲ受ケ外國政府ノ招聘ニ應シタル者ハ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得但シ招聘ニ應シタル日ヨリ解約歸朝ノ日ニ至ル迄ノ間俸給及旅費ヲ支給セス

○民部省

○民部省 附神祇省

沿革略記 明治元年二月五日内國事務局ヲ置キ督正權輔正權判事等ノ職員ヲ設ケ職制ヲ定ム(同年閏四月二十一日内國事務局ヲ廢ス)○同年十一月六日沿河使ヲ設ク二年四月八日民部官ヲ置キ府縣事務ヲ總理セシメノ職權ヲ定ム

○同年七月八日民部官ヲ廢シ民部省ヲ置キ地理土木職權ヲ三司ヲ管シ本省三卿大少輔正權判事等ヲ置キ定メ職權ヲ定ム○同年七月八日民部官ヲ廢シ民部省ヲ置キ地理土木職權ヲ三司ヲ管シ本省三卿大少輔正權判事等ヲ置キ定メ職權ヲ定ム○同年七月八日民部官ヲ廢シ民部省ヲ置キ地理土木職權ヲ三司ヲ管シ本省三卿大少輔正權判事等ヲ置キ定メ職權ヲ定ム

○教部省

沿革略記 明治元年二月五日神祇事務局ヲ置キ督正權輔正權判事等ノ職員ヲ設ケ職制ヲ定ム(同年閏四月二十一日神祇事務局ヲ廢シ更ニ神祇官ヲ置キ職員ヲ伯大少副大少佐大少史等ト爲ス)○二年四月某日教部局ヲ建ツ○同年七月八日官制ヲ改定シ神祇官ヲ改置シ職員ヲ伯大少副大少佐大少史等ト爲ス○同年九月九日宣教師ヲ神祇官ニ屬ス

○同年九月九日宣教師ヲ神祇官ニ屬ス○同年九月九日宣教師ヲ神祇官ニ屬ス○同年九月九日宣教師ヲ神祇官ニ屬ス○同年九月九日宣教師ヲ神祇官ニ屬ス○同年九月九日宣教師ヲ神祇官ニ屬ス○同年九月九日宣教師ヲ神祇官ニ屬ス○同年九月九日宣教師ヲ神祇官ニ屬ス○同年九月九日宣教師ヲ神祇官ニ屬ス○同年九月九日宣教師ヲ神祇官ニ屬ス○同年九月九日宣教師ヲ神祇官ニ屬ス

○兵部省

沿革略記 明治元年二月五日軍防事務局ヲ置キ職員ヲ管、正權輔、正權判事等ト爲シ職制ヲ定ム。○同年四月三日裁別所ヲ
 置ク。○同年四月二十二日軍防事務局ヲ廢シ軍務官ヲ置キ職制ヲ定メ陸軍、海軍ノ二局ヲ設テ兵船、兵馬、馬政
 廢ス。○同年十一月二日海軍局ヲ東京ニ置ク。○同年十一月十七日醫學所ヲ東京府ノ管理ニ屬ス。○同年九月二十五日裁別所ヲ
 都府ノ管理ニ屬ス。○同年十二月四日從天病院ヲ管ス。○同年五月二十七日大和國十津川郷ヲ管ス。○同年七月某日軍務
 官治務所ヲ廢ス。○同年七月八日軍務官ヲ廢シ兵部省ヲ置キ職制官等ヲ定メ兵學寮及武庫、會計、糾問ノ三司ヲ管シ本省
 三卿、大少輔、正權大少丞、大少總等寮ニ正權頭正權副正權允等司ニ正權正正權佐等ノ職員ト爲ス。是日又海陸軍ヲ置
 ク。○同年八月二十日兵部省官位相當ヲ改正ス。○同年十一月二日大阪城ヲ管ス。○同年十二月二十日京都ニ出張所ヲ設ク
 ●三年正月十日京城街成ノ諸藩兵隊ヲ管ス。○同年二月二日遣兵司ヲ置ク。○同年四月十九日陸軍省及海軍省ヲ置ク。○同年四月
 二日陸軍省同月二十日京都警備ノ海兵ヲ支應ニ隸ス。○同年八月二十七日十津川郷ノ管轄ヲ罷止ス。○同年七月二十四日
 外國人訛謔別手組ヲ東京府ノ管轄ニ屬ス。○同年八月七日兵學寮ニ大少教授、大中少助教、得業生、準得業生ヲ置ク。○同
 年九月十八日大中少佐、大中少尉ヲ海陸軍ニ正權頭長ヲ陸軍ニ置キ官位相當ヲ定ム。○同年閏十月某日兵學寮中進得業
 生ヲ廢ス。○同年十一月四日海軍操練所ヲ海軍兵學寮ト改メ大阪兵學寮ヲ陸軍兵學寮ト改メ。○四年正月十七日京都出張
 所ヲ廢ス。○同年二月八日警備ノ管轄ヲ管ス。○同年四月十三日御親兵ヲ置キ本省ニ隸ス。○同年四月廿三日東山四海兩
 道ニ鎮邊ヲ置キ本省ニ屬ス。○同年七月某日會計司ヲ廢ス。○同年八月十五日軍醫寮ヲ置ク。○同年八月十日官制ヲ廢定シ兵
 學、軍醫ノ二寮及武庫、糾問、遣兵ノ三司ヲ管シ本省ニ屬ス。○大少輔大少丞正權大中少丞、寮ニ正權頭、正權副、正權大中少
 各地方城郭ヲ廢ス。○同年同月某日官制ヲ改メ陸軍海軍ノ二部ニ分テ兩部ニ秘史、軍務、會計ノ三局陸軍部
 ニ砲兵、鐵道ノ二局海軍部ニ造船、水路ノ二局ヲ置キ又陸軍海軍ニ各兵學寮ヲ建テ軍醫寮糾問、遣兵武庫ノ三局海軍部
 ニ造船水路ノ二局及水兵部提督府、保全港司ヲ海軍ニ參謀局三兵本部陸軍ニ設ケ東京大阪東北福岡ノ四管鎮邊ヲ爲
 ス。○五年正月第十六號ヲ以テ兵部省官等ヲ改正ス。○同年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ海軍省陸軍省ヲ置ク。

○工部省

沿革略記 明治三年閏十月廿日工部省ヲ置キ鑛山製鐵燈明暨鐵道電信機等ノ事ヲ管シ其職制ヲ定ム。○三年十二月十九日
 鑛山司ヲ廢シ鑛山掛ヲ置ク。○四年四月九日長崎製鐵所ヲ管ス。是日橫須賀製鐵所ヲ造船所ト改メシ橫濱
 製鐵所ヲ製作所ト改稱ス。○同年七月廿七日土木司ヲ置ク。○同年八月十四日工學、鑛山、鐵道、土木、燈塔造船、
 電信、製鐵製作、並ニノ十寮及測量司等ヲ置ク。○同年十月二十四日文書會計ノ二局ヲ置ク。○同年九月三十日土木寮所轄橋
 梁ノ事務ヲ大藏省管轄ニ屬ス。○同年十月八日土木寮ヲ大藏省ニ屬ス。○同年十二月十七日各科工術等級ヲ定メ職員ヲ
 都府、大中少長上中少師大中少手見習ト爲ス。○五年正月十三日工學校ヲ設ク。○同年十月八日橫濱造船所ヲ長崎製作所
 ヲ海軍省ニ屬ス。○同年十一月十三號ヲ以テ造船製鐵ノ二寮ヲ廢シ製作寮ニ併ス。○長崎造船所ヲ長崎製作所ト改稱ス。
 ●六年十一月第三百九十九號ヲ以テ工部省ヲ廢シ製作寮ニ併ス。○七年二月九日測量司ヲ廢シ事務司ニ併ス。○同年
 同月廿二日內務省土木寮管轄事務ヲ本省ニ管ス。○八年六月第十號ヲ以テ管轄局ヲ置ク。○同年十二月十七號
 布告ヲ以テ工學寮ヲ改メテ二等寮ト爲ス。○同年同月十九號布告ヲ以テ管轄寮ヲ置キ二等寮ト爲ス。○同年十二月第
 二百十七號ヲ以テ職制官等ヲ改正シ鑛山鐵道、并ニ燈塔電信製作管轄工學、并ニノ七寮ヲ管シ職員ヲ大少輔、正權大
 少丞、正權大中少丞等ト爲ス。○九年十二月百十四號ヲ以テ各科工術技長ノ等級ヲ改定ス。上師以下ハ滿ニ依ル。○十
 年一月第三號ヲ以テ諸寮及正權大少丞並以下ノ職制官等ヲ改定ス。○同年同月第四號ヲ以テ四等官以下ノ等
 級ヲ定メ官等ヲ十七等ニ分シ。○同年二月第二十三號ヲ以テ各科工術等級ヲ改メ更ニ技監ヲ置ク。○十三年十二月第六十號ヲ以テ
 職制及事務章程ヲ改定シ鑛山鐵道燈塔電信工作管轄會計検査金庫書記ノ十局ヲ管ス。○十四年八月第六十三號ヲ以テ
 検査局ヲ廢ス。○同年十一月第九十四號ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸寮事務管轄規則ヲ定ム。○十五年一月第七號
 ヲ以テ各科工術等級并月給ヲ改正ス。○同年四月第十八號ヲ以テ各科工術等級並月給表中ニ追加ス。○同年八月第五十
 一號ヲ以テ工部大學校職制及職員等級俸給ヲ定ム。○十七年一月第十四號ヲ以テ諸寮事務管轄規則第十條ヲ改正ス。
 ○同年五月第四十二號ヲ以テ各科工術等級並月給表ヲ更正ス。○同年十月第八十七號ヲ以テ工部大學校職員中助教
 授ニ委任ヲ置キ俸給ヲ定ム。○十八年十二月第七十號ヲ以テ工部省ヲ廢シ鑛山工作ノ事務ハ農商務省ニ電信燈塔ノ事
 務ハ遞信省ニ工部大學校ハ文部省ニ屬シ鐵道事務ハ姑ク內閣ノ直轄ト爲ス。

○拓殖務省

沿革略記 明治二十九年三月勅令第八十七號ヲ以テ拓殖務省ヲ置ク。○同年九月勅令第三百九號ヲ以テ同省官制第一條ヲ
 改正ス。○三十年八月勅令第二百九十四號ヲ以テ廢止ス。

左院附集議院

沿革略記 明治元年九月十九日議事取調局ヲ置ク○同年十一月十九日議事取調所ヲ置キ攝政公議人ヲ管ス○同年十月廿六日公議所ヲ東京ニ置ク○二年三月十二日待留局ヲ東京ニ置ク○同年四月十七日議事取調局ヲ廢ス○同年七月廿日待留局ヲ廢シ待留院ヲ置キ公議所ヲ廢シ集議院ヲ置キ兩院ヲ上下二局ニ分シ集議院職制ヲ定メ長官次官正副議長主典等ノ職員ト爲ス○同年八月十日集議院中ニ幹事ヲ置ク○同年十月十五日待留院下局ノ事務ヲ集議院ニ合ス○同年十月廿日集議院官制ヲ改正シ同院規則ヲ定メ尋テ翌月某日新定規則ヲ達ス○四年七月廿九日左院ヲ置キ議長議員ノ職員ヲ設ケ官制等級ヲ定ム○同年八月十日左院官制ヲ改正シ正副議長大中小少議員ヲ設ク○同年十月十八日制度局ヲ左院ニ合ス○同年十月廿日集議院ヲ左院管轄ト爲ス○同年十月十四日左院中少議員ヲ廢シ職制ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ左院官等ヲ改正ス○同年同月第廿二號ヲ以テ左院中正權大中小少議員ヲ廢シ職制ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ左院官等ヲ改正シ正副議長、議員五等、職生三等、書記官三等、書記生五等及庶生三等ノ職員ト爲ス○六年六月第二十八號ヲ以テ集議院ヲ廢シ事務ヲ左院ニ屬ス○同年同月第廿九號ヲ以テ左院中議員ヲ廢ス○七年二月十二日正院中法制財務兩課ヲ廢シ事務ヲ左院ニ附ス是日假ニ職制章程ヲ定ム○八年四月第五十九號布告ヲ以テ左院ヲ廢ス

元老院

沿革略記 明治八年四月第五十九號布告ヲ以テ左右兩院ヲ廢シ元老院ヲ置ク○同年同月第六十七號布告ヲ以テ元老院ニ正副議長、議員及正權大少書記官大中小書記官等職制ヲ定メ同時職制章程ヲ設ク○同年六月三十日職制條例ヲ定ム○同年七月二日職制條例ヲ定ム○同年十二月第十七號ヲ以テ十一月廿五日元老院職制章程ヲ改正セシメテ達ス是日同院中ニ幹事ヲ置ク○同年同月廿二日議長幹事職務條例並儀事條例修正條例檢視條例ヲ定メ元老院ヘ達ス○九年三月八日內閣委員會議出閣規則ヲ定メ元老院ヘ達ス○十年一月第四號達ヲ以テ文官四等以下官等俸給ヲ改正シ官等十七等ト爲ス○同年同月第十五號達ヲ以テ正權大中小書記官等職制ヲ改訂シ書記生三等ヨリ十等ニ改ム○官等ヲ定ム○十八年三月第十號達ヲ以テ元老院職制中ヲ改正シ議員ノ職制ヲ三等ニ分シ○十九年三月勅令第十一號ヲ以テ元老院官制ヲ改正ス○同年勅令第十二號ヲ以テ元老院議長副議長書記官等ヲ改ム○二十三年三月勅令二百五十五號ヲ以テ元老院ヲ廢ス

第二十四類 官等、俸給、旅費

官等俸給

沿革略記 明治元年三月假ニ月給規則ヲ定メ上中等ノ階級ヲ立テ總裁職以下給額ヲ定ム○同年四月官等ヲ定メ九等因テ暫ク諸官月給ヲ半減ス○同年六月月給規則ヲ改正シ且關東平定迄三等以下半額五等以上三分一ヲ減給ス○同年十一月行政官ニ錄事ヲ置キ官等ヲ定ム○同年十二月月給規則ヲ定ム○同年同月東北平定ニ付月俸ノ減給セシメテ支給ス○二年七月官制ヲ更定シ位階十八階ト爲シ神祇伯左右大臣以下官位ヲ定ム○同年八月勅令ヲ改正シ官位二十階ヲ立テ從四位以上ヲ勅任從六位以上ヲ奏任從九位以上ヲ判任ト爲シ左右大臣奏職以下官位ヲ定ム○同年同月月給規則ヲ改訂シ其減額手続並ニ官制規則ヲ定ム○同年十月官位ノ階級ニ因リテ官俸ヲ支給ス○四年二月等外更ニ四等ニ分テ俸額ヲ定ム○同年八月官位相當ノ制ヲ廢シ官等ヲ定メ十五等ト爲シ三等以上ヲ勅任七等以上ヲ奏任八等以下ヲ判任トシ大臣參議以下官等ヲ定ム○同年九月官制ヲ改正シ月給規則ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ官制ヲ更定シ大臣參議以下官等ヲ改ム○同年三月第七十八號ヲ以テ敍官兼任ノ者ハ其高キ官ニ依リ月俸ヲ給ス○同年七月第二十三號ヲ以テ前令ヲ改メ月給八給額ヲ以テ前令ノ總額ノ十五日前後ノ區分ヲ以テ月給ヲ支給ス○七年五月第十六號達ヲ以テ月俸規則ヲ定ム○同年六月各廳掛出仕ハ其月給ノ等差ニ依リ奏判任等外ヲ區分ス○十年一月第四號達ヲ以テ四等官以下ノ官等ヲ改正シ判任官以上ヲ七等トシ俸給ヲ定ム○同年同月第廿號達ヲ以テ太政官中四等以下官等ヲ改ムルコト前令ニ同シ○十二年十二月第五十三號達ヲ以テ文官四等以下八等以上ノ月俸ヲ改正ス○十九年三月勅令第六號ヲ以テ高等官官等俸給令ヲ定メ同年四月勅令第三十六號ヲ以テ判任官官等俸給令ヲ定ム○二十三年三月勅令第三十七號ヲ以テ判任官官等俸給令中ヲ改正シ判任官官等俸給令分テ勅任官奏任官トシ其年俸ニ等級ヲ分ツ○同年同月勅令第八十三號ヲ以テ判任官官等俸給令中ヲ改訂シ更ニ判任官俸給令分テ勅任官奏任官トシ其年俸ニ等級ヲ分ツ○同年同月勅令第九十三號ヲ以テ文官武官官職等級ヲ定メ十等ニ別テ一等ヨリ三等ヲ勅任下シ四等ヨリ十等ニ至ルヲ奏任トス○同年十二月勅令第二百四十九號ヲ以テ文官武官官職等級ヲ定メ十等ニ別テ一等ヨリ三等ヲ勅任下シ四等ヨリ十等ニ至ルヲ奏任トス○同年十二月勅令第二百四十九號ヲ以テ文官武官官職等級ヲ定メ十等ニ別テ一等ヨリ三等ヲ勅任下シ四等ヨリ十等ニ至ルヲ奏任トス○同年十二月勅令第二百四十九號ヲ以テ文官武官官職等級ヲ定メ十等ニ別テ一等ヨリ三等ヲ勅任下シ四等ヨリ十等ニ至ルヲ奏任トス○二十五年十一月勅令第九十六號ヲ以テ高等官任免及俸給令並文官武官官職等級表ヲ改正ス○三十年五月勅令第四百五十五號ヲ以テ各省勅任參事官等俸給ヲ定ム○同年六月勅令第九十六號ヲ以テ秘書官ノ初級及陞級ヲ定ム○同年同月勅令第四百五十七號ヲ以テ秘書官ノ他官ニ轉任又ハ再任スル場合ノ官等ヲ定ム○同年八月勅令第二百九十八號ヲ以テ臺灣事務局職員官等俸給ヲ定ム

○高等官官等俸給令 明治二十五年十一月

朕茲ニ高等官官等俸給令ヲ裁可ス

高等官官等俸給令

官等及叙任

- 第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除ク外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以テ叙任スル官及一等官
二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス
- 第二條 勅任官中親任式ヲ以テ叙任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣又ハ首座ノ
大臣之ニ副署ス
- 第三條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除キ其他ノ勅任官ノ辭令書ハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ奉行
ス
- 第四條 奏任官ノ任官及叙等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内
閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス
- 第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス
- 第六條 高等官官等ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外本令中ノ文武高等官官等表ニ依ル
官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシメ又ハ之ニ充ツルノ官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本
官ノ官等ニ依ル(二十六年勅令第百六十七號ヲ以テ改正)

第七條 初メテ高等文官ニ任セラルル者ノ官等ハ六等以下トス

高等文官ヲ勤メ退官シタル者再ヒ高等官ニ任セラルル場合ニ於テハ其官等ハ前官ノ官等以下トス
但前官官等在職年數滿二年ヲ除エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムルコトヲ得(三十二年勅令第百八十九號ヲ以テ改正)

第八條 高等官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタル者及七等以下ノ者ヲ除ク外在職滿二年ヲ除ユルニ
非サレハ陞叙スルコトヲ得ス(二十八年勅令第百二十三號三十二年勅令第百二十七號ヲ以テ改正)

第九條 高等文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ如シ(三十二年勅令第百九十九號ヲ以テ本條改正三十二年勅令第
百七十七號、第百五十二號、第百六十二號、第百七
十八號、第百八十九號ヲ以テ第一項第二項第三項ヲ改正追加)
俸給

内閣總理大臣 年俸九千六百圓

内閣所屬職員 年俸四千圓

書記官 年俸三千圓

書記官 高等文官年俸第一號表ニ依ル

統計局審査官
印刷局事務官
恩給局審査官

高等文官年俸第二號表ニ依ル

賞勳局

年俸三千五百圓

總裁

高等文官年俸第二號表ニ依ル

書記官

法制局

年俸四千圓

長官

年俸 勅任 三千圓 高等文官年俸第一號表ニ依ル

參事官

各省ノ部

年俸六千圓

大臣

年俸四千圓

總務長官

年俸四千圓

製鐵所長官

年俸四千圓

鐵道作業局長官

年俸三千五百圓

官房長

造幣局長

年俸三千圓

專賣局長

商船學校長
航路標識管理所長
橫濱稅關長
神戸稅關長
大阪稅關長
長崎稅關長
函館稅關長
橫濱港務局長
神戸港務局長
東京郵便電信學校長
長崎港務局長
門司港務局長
參事官
秘書官
書記官
林野整理局書記官
鐵道作業局部長

一級俸 二千五百圓
二級俸 二千二百圓
三級俸 二千圓

一級俸 三千圓
二級俸 二千五百圓

一級俸 二千五百圓
二級俸 二千圓
三級俸 一千五百圓

一級俸 二千五百圓
二級俸 二千圓
三級俸 一千五百圓
四級俸 一千二百圓

一級俸 二千五百圓
二級俸 二千二百圓
三級俸 二千圓
四級俸 一千八百圓

一級俸 二千圓 二級俸 千八百圓
三級俸 千六百圓 四級俸 千四百圓

高等文官年俸第一號表ニ依ル

外務省翻譯官
 臨時檢疫事務官
 監獄事務官
 清神宮主事
 大藏省鑑定官
 專賣局鑑定官
 稅務管理局長
 稅關事務官
 稅關監視官
 稅關鑑定官
 臨時沖繩土地整理事務局長
 臨時秩父鐵道分調查局事務官
 視學官
 圖書審查官
 學校衛生主事
 帝國圖書館長
 商工局保險事務官
 山林局事務官

高等文官年俸第一號表(依)

一號	二十六萬圓
二號	二十四萬圓
三號	二十二萬圓
四號	二十萬圓
五號	十八萬圓
六號	十六萬圓
七號	十四萬圓
八號	十二萬圓
九號	十萬圓
十號	八萬圓
十一號	六萬圓
十二號	四萬圓
十三號	三萬圓
十四號	二萬圓
十五號	一萬圓

林野整理局監督官
 特許局審判官
 特許局審查官
 林務官
 鑛山監督官
 製鐵所事務官
 水產講習所監事
 水產講習所教授
 鐵道事務官
 通信事務官
 港務官
 港務局醫官
 海事局長
 海事官
 高等海員審判所審判官
 高等海員審判所理事官
 地方海員審判所審判官
 地方海員審判所理事官

高等文官年俸第二號表(依)

一號	二十四萬圓
二號	二十二萬圓
三號	二十萬圓
四號	十八萬圓
五號	十六萬圓
六號	十四萬圓
七號	十二萬圓
八號	十萬圓
九號	八萬圓
十號	六萬圓
十一號	四萬圓
十二號	三萬圓
十三號	二萬圓
十四號	一萬圓

專賣局事務官
 司稅官
 林野整理局監督官補
 鐵道事務官補
 通信事務官補
 在外各地郵便電信局長
 在外各地郵便局長
 東京郵便電信學校教授
 貴族院及衆議院ノ部

高等文官年俸第三號表ニ依ル

年俸三千圓

高等文官年俸第二號表ニ依ル

各省勅任參事官ノ官等ハ高等官二等トシ其年俸ハ三千圓トス

書記官

航路標識管理所長、横濱稅關長、神戸稅關長、大阪稅關長、長崎稅關長、函館稅關長、横濱港務局長、
 神戸港務局長、東京郵便電信學校長、長崎港務局長、門司港務局長ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以
 上ニ至リ功績アル者ニ限リ五百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得又商船學校長ニシテ高等官二
 等ニ叙セラレタルトキハ其ノ年俸ハ三千圓トス

高等文官年俸第一號表第二號表ニ依ル職員ハ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニ限リ
 五百圓以内ノ年功加俸ヲ給シ其ノ第三號表ニ依ル職員ニ在テハ高等官三等ニ陞叙スルコトヲ得

高等文官年俸第三號表ニ依ル職員ハ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニ限リ三百圓以
 内ノ年功加俸ヲ給シ高等官五等ニ陞叙スルコトヲ得

第十條 高等文官ノ俸給ニ關シテ別ニ定ムル所ナキモノハ總テ本令ノ規定ニ依ル

陸海軍武官ノ俸給ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十一條 同一ノ官職ニシテ官等ニ依リ其俸給ヲ異ニスルモノハ本令定ムル所ノ高等文官官等相當
 俸給表ニ依リ各其官等ニ照シテ之ヲ給ス

第十二條 同一官職ノ同一官等内ニ於テ其俸給ニ數級アル場合ニ於テハ其等級ニ依リ事務ノ繁簡ニ
 從ヒ本屬長官便宜之ヲ増減スルヲ得

第十三條 高等文官死亡シタルトキハ其在職中ナルト非職中ナルトニ拘ハラズ在職最終年俸三分ノ
 一ヲ其遺族ニ給ス但遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ

終身官ハ其在職中死亡シタル者ニ限リ前項ノ規定ニ依ル
 第十四條 年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第十五條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第十六條 非職廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ常月分ノ全額ヲ給ス

第十七條 非職廢官退官者事務引繼發務調理ノ爲テ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙從前ノ
 年俸ヲ給ス

第十八條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ